No.	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
756	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-128	土 123	土器	皿	8.3	5.6	2.3	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	不明	-	19c か	在地か
757	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-125	土 123	土器	皿	8.4	6.2	2.1	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	淡灰褐	-	19c か	在地か
758	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-124	土 123	土器	皿	8.6	5.8	1.75	灯明皿か、ロクロ成形、底面に穿孔 2、口縁に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
759	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-126	土 123	土器	皿	10.4	7.2	3.1	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	褐	-	17c 前半か	在地か
760	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-129	土 123	土器	皿	10.4	6.6	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	灰褐	-	17c か	在地か
761	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-131	土 123	土器	壺か	(12.6)	-	-	口縁～肩部にミガキのち沈線、肩部に刻み	暗褐	-	不明	不明
762	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-130	土 123	土器	焙烙	(32.2)	(22.6)	5.4	外面一部ミガキ、腰部に穿孔 2、内外面に煤付着	暗褐	-	幕末～	在地か
763	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-132	土 123	土器	不明	(8.6)	9.0	5.3	板づくり、外面煤付着	褐～暗灰	-	不明	不明
764	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-110	土 123	土製品	人形	-	-	-	大黒天、陶器、鉄絵、中空	灰	透明釉・鉄絵	不明	不明
765	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-111	土 123	土製品	人形	-	-	-	人物立像、陶器、前後型合せ、中空、底面に串孔	淡黄灰	透明釉・緑	不明	不明
766	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-114	土 123	土製品	動物	2.8	1.4	3.7	狛犬、前後型合せ、中実、底面に串孔	淡褐	-	18c 末	京か
767	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-115	土 123	土製品	動物	4.4	-	-	鶏、陶器、手捻り、中実、腹部に漆継痕	淡灰白	灰釉・赤・黄	不明	不明
768	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-113	土 123	土製品	箱庭道具	-	1.6	-	城門、炻器、型押成形	暗灰	-	19c 前半	不明
769	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-28	土 123	土製品	ミニチュア	(2.5)	(0.8)	1.4	碗、磁器、型押成形	白	透明釉	不明	肥前
770	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-29	土 123	土製品	玩具	-	-	-	長 2.25、幅 2.4、厚 0.5、円盤、磁器、転用品	淡灰	染付	近世	肥前
771	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-112	土 123	土製品	玩具	-	-	-	長 1.9、幅 2.0、厚 0.6、円盤、陶器、擂鉢を転用	淡黄白	錆釉	17c か	瀬戸・美濃
772	Ⅱ	Ⅱ - 土 123-133	土 123	土製品	不明	-	-	-	長 6.5、幅 4.2、手捏ね成形	淡黄灰褐	-	不明	不明
773	Ⅱ	Ⅱ - 土 124-1	土 124	磁器	碗	(8.3)	(4.0)	5.8	外面に蔓草文、見込みに草花文、登 10 小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
774	Ⅱ	Ⅱ - 土 124-2	土 124	陶器	碗	(9.5)	3.3	4.95	端反碗、外面にイッチン白描・鉄絵で梅花文、縁外～内面に白泥、登 9 小	淡褐	白泥・透明釉・イッチン・鉄絵	19c 初頭	瀬戸
775	Ⅱ	Ⅱ - 土 124-3	土 124	陶器	鍋	(15.5)	(6.7)	7.2	行平鍋、外面に飛鉋文、把手上面に陽刻型押で僧侶立像、内外面に煤付着	淡褐	鉄釉	幕末～	洗馬か
776	Ⅱ	Ⅱ - 土 124-4	土 124	陶器	灯明受皿	(9.85)	(4.1)	2.5	油孔 1、登 10・11 小	淡黄白	灰釉	19c	瀬戸
777	Ⅱ	Ⅱ - 土 125-1	土 125	磁器	碗	(9.5)	(3.9)	5.2	端反碗、内外面に掻き落しで草花文、登 10 小前半	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
778	Ⅱ	Ⅱ - 土 125-2	土 125	土器	焙烙か	(11.5)	(6.7)	4.25	見込みに煤付着	褐	-	幕末～か	在地か
779	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-1	土 142	磁器	小杯	(3.9)	-	-	外面に小円子・上絵 (赤) で鳥文、内面・口縁に小円子、漆継痕	白	釉下彩・上絵	近代	不明
780	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-4	土 142	磁器	碗	(7.2)	3.4	6.6	筒形碗、外面に雪輪文、縁内に四方襷文、見込み 1 重圏線内にコンニャク印判で五弁花文、漆継痕	白	染付	18c 後半	肥前
781	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-5	土 142	磁器	碗	11.5	5.4	6.5	広東碗、外面に網干文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に鷺文	白	染付	18c 末～ 19c 前半	肥前
782	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-2	土 142	磁器	碗	(9.5)	(4.6)	4.5	端反碗、外面に松文、見込みに鳥文	白	染付	19c 前半～幕末	肥前
783	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-3	土 142	磁器	碗	-	(4.0)	-	外面に葵唐草文・如意頭文、見込み 2 重圏線内に貝文か、高台内に銘、登 9 小前	白	染付	19c 初頭	瀬戸
784	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-6	土 142	陶器	碗	(6.1)	-	-	登 10・11 小	灰白	灰釉	幕末	美濃
785	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-10	土 142	炻器	碗	(8.0)	3.2	5.9	外面に筍堀り人物・竹文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文、炻器染付、登 10・11 小	灰	染付	19c	美濃
786	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-7	土 142	陶器	碗	(10.7)	-	-	外面に鉄絵・呉須絵で文様	淡灰白	灰釉・鉄絵・呉須絵	18c 後半～幕末	不明
787	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-11	土 142	土器	焙烙	(28.0)	(18.0)	4.7	内耳 1 残存、口縁～内面にミガキ、外面に煤付着	暗褐	-	18c 後半～幕末	在地か
788	Ⅱ	Ⅱ - 土 142-9	土 142	土製品	人形	-	-	4.45	釣人、陶器、前後型合せ、中空、底面に墨書「チヲ」	淡褐白	透明釉・緑・茶	不明	京・信楽か
789	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-3	土 143	磁器	碗	(11.15)	-	-	外面に草花文、縁内に四方襷文、見込みに 2 重圏線	白	染付	18c 中葉～幕末	肥前
790	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-2	土 143	磁器	碗	(8.7)	(3.4)	5.55	外面に竹垣に草花文・○×文、縁内に四方襷文、見込み 2 重圏線内に文様	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
791	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-1	土 143	磁器	碗	8.8	3.0	5.4	外面に紅葉文、縁内 2 重圏線、見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
792	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-11	土 143	磁器	碗	(7.7)	3.7	5.8	筒形碗、外面に松竹文、縁内に四方襷文、見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
793	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-4	土 143	磁器	碗	(7.9)	-	-	外面に七福神宝船文、縁内に 2 重圏線	白	染付	18c 末～幕末	肥前
794	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-5	土 143	磁器	紅皿	(3.85)	1.8	1.4	型押成形	白	染付	18c ～幕末	肥前
795	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-10	土 143	磁器	皿	-	-	2.4	口径短軸 (7.8)、底径短軸 (3.8)、変形皿、糸切細工、外面に手描き文様、内面に型紙摺絵、漆継痕	白	染付	18c 前半	肥前
796	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-6	土 143	磁器	皿	(15.0)	(10.0)	3.0	外面に文様、内面に草文、蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
797	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-7	土 143	磁器	皿	-	9.0	-	外面に文様、内面に草文・蝙蝠文、蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
798	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-8	土 143	磁器	皿	(14.6)	(9.0)	4.7	外面に唐草文、内面に菖蒲文、蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
799	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-9	土 143	磁器	皿	22.15	13.3	3.3	外面に唐草文、内面に牡丹文、高台内にハリ支え痕、漆継痕	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
800	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-12	土 143	磁器	猪口	(8.0)	(6.6)	(6.2)	輪花、外面に竹垣に菊文、縁内に四方襷文、見込みに 2 重圏線、蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半	肥前
801	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-21	土 143	陶器	小杯	(6.2)	2.7	2.85	-	淡黄褐	灰釉	18c 後半～幕末	美濃
802	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-13	土 143	陶器	碗	(6.1)	3.2	3.6	-	淡黄褐	灰釉	18c 後半～ 19c 初頭か	瀬戸・美濃
803	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-14	土 143	陶器	碗	(10.0)	-	-	外面に上絵 (緑・黒・赤) で笹文、連房Ⅲ c	淡黄白	灰釉・上絵	18c 後半	美濃

No.	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
804	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-16	土 143	陶器	碗	(9.5)	(3.5)	5.3	小杉碗	淡黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
805	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-17	土 143	陶器	碗	(10.2)	4.0	6.0	小杉碗、外面に鉄絵で若松文	黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
806	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-18	土 143	陶器	碗	10.5	3.3	6.25	小杉碗、外面に鉄絵で若松文	淡黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
807	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-15	土 143	陶器	碗	(9.6)	(3.5)	5.9	端反碗、口縁部内外面に呉須	淡黄灰	呉須・灰釉	19c 初頭～幕末	瀬戸・美濃
808	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-19	土 143	陶器	碗	9.8	4.6	5.05	せんじ、高台内に墨書「仮・」、被熱、登 7 小	淡黄褐	灰釉	18c 中葉	瀬戸
809	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-20	土 143	陶器	碗	11.1	4.7	7.2	拳骨茶碗、鉄釉のち外面にうのふ釉、拳骨痕 9、畳付に刻印、登 8・9 小	淡黄白	鉄釉・うのふ釉	18c 後半～ 19c 初頭	瀬戸・美濃
810	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-22	土 143	陶器	土瓶	8.0	9.0	10.9	鉄砲口、把手に刻み、底部脇に団子状の脚 1 残存	褐	灰釉	18c 後半～幕末	不明
811	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-25	土 143	炻器	土瓶	7.2	-	-	把手に刻み	灰	鉄釉	18c 後半～幕末	不明
812	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-23	土 143	陶器	行平鍋	(19.4)	-	-	内面に鉄釉	赤褐	鉄釉	18c 末～	不明
813	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-26	土 143	瓦器	火鉢	(30.6)	-	-	輪積み成形、外面にミガキ、硬質瓦質	黒	-	18c 後半～	在地か
814	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-27	土 143	土器	皿	8.95	4.9	2.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	灰褐	-	不明	在地か
815	Ⅱ	Ⅱ - 土 143-24	土 143	土製品	ミニチュア	(6.4)	-	-	土鍋、陶器	灰	鉄釉	18c 後半～幕末	不明
816	Ⅱ	Ⅱ - 土 144-1	土 144	土製品	人形	-	-	3.95	人物立像、前後型合せ、中実、底面に串孔、キラ残存	淡灰白	-	不明	不明
817	Ⅱ	Ⅱ - 土 153-1	土 153	磁器	碗	(9.8)	-	-	端反碗、外面に風景、縁内に掻き落しで如意頭文、見込み 2 重圏線、登 10 小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
818	Ⅱ	Ⅱ - 土 153-2	土 153	陶器	皿	(9.2)	-	-	-	淡褐白	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸・美濃
819	Ⅱ	Ⅱ - 土 153-3	土 153	陶器	灯明受皿	(9.9)	(3.9)	2.15	登 8 小	淡褐白	鉄釉	18c 後半	美濃
820	Ⅱ	Ⅱ - 土 160-1	土 160	瓦器	焜炉	-	23.4	-	硬質瓦質、外面に陽刻型押、脚部にミガキ	淡褐灰	-	18c 後半～	在地か
821	Ⅱ	Ⅱ - 土 161-1	土 161	陶器	仏飯器	-	4.9	-	底面に墨書「称南□□」	淡黄白	灰釉	19c 前半か	瀬戸・美濃か
822	Ⅱ	Ⅱ - 土 161-2	土 161	陶器	茶入	-	(3.6)	-	-	黒褐	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
823	Ⅱ	Ⅱ - 土 161-3	土 161	陶器	壺	(8.5)	-	-	短頸壺、外面に煤付着	淡黄白	錆釉	18c 後半～幕末	美濃
824	Ⅱ	Ⅱ - 土 161-4	土 161	土器	皿	8.35	6.3	2.33	ロクロ成形	不明	-	19c か	在地か
825	Ⅱ	Ⅱ - 土 161-5	土 161	土器	皿	10.3	6.0	2.05	ロクロ成形	褐	-	19c か	在地か
826	Ⅱ	Ⅱ - 土 169-1	土 169	磁器	碗	(10.9)	4.6	6.0	外面に帆掛け舟文、高台内に 1 重圏線	白	染付	17c 後半	肥前
827	Ⅱ	Ⅱ - 土 169-2	土 169	青花	皿	-	(7.6)	-	見込み 2 重圏線内に竹梅文、漳州窯系	淡灰	染付	16c 末～ 17c 初頭	中国
828	Ⅱ	Ⅱ - 土 169-3	土 169	青磁	皿	-	(12.0)	-	内面にヘラ彫りで葉文、高台内に錆釉、波佐見	灰	青磁釉・錆釉	17c 中葉	肥前
829	Ⅱ	Ⅱ - 土 169-4	土 169	陶器	碗	11.3	5.6	6.9	尾呂茶碗、外面に飴釉のち灰釉流し掛け、登 5 小	淡黄灰	飴釉・灰釉	17c 末	瀬戸・美濃
830	Ⅱ	Ⅱ - 土 182-1	土 182	磁器	碗	(7.7)	(2.6)	3.2	外面に萩文・流水文・蝶文	白	染付	18c 中葉～後半	肥前
831	Ⅱ	Ⅱ - 土 182-3	土 182	土器	皿	9.6	6.4	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤付着	黄褐	-	18c か	在地か
832	Ⅱ	Ⅱ - 土 183-1	土 183	陶器	碗	(7.2)	-	-	外面に白泥・鉄絵で文様	茶褐	透明釉・白泥・鉄絵	18c 後半～幕末	瀬戸
833	Ⅱ	Ⅱ - 土 183-2	土 183	陶器	皿	(6.95)	(3.05)	1.85	襞皿	灰白	灰釉	19c 前半か	瀬戸
834	Ⅱ	Ⅱ - 土 183-3	土 183	土器	皿	(8.3)	(6.0)	1.75	ロクロ成形	灰褐	-	19c か	在地か
835	Ⅱ	Ⅱ - 土 184-1	土 184	土製品	動物	(10.3)	-	-	鳥、陶器、中空、型押成形か	灰褐	黄	不明	不明
836	Ⅱ	Ⅱ - 土 185-1	土 185	磁器	碗	(9.7)	5.8	2.1	端反碗、外面に寿字文、縁内に 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に寿字文	白	染付	19c	肥前
837	Ⅱ	Ⅱ - 土 185-2	土 185	陶器	碗	-	-	-	外面に上絵 (緑) で笹文、登 8・9 小	淡黄白	灰釉・上絵	18c 後半～ 19c 初頭	瀬戸
838	Ⅱ	Ⅱ - 土 190-1	土 190	磁器	碗	(7.7)	2.9	4.0	型紙摺絵、外面に鳥文、縁内に瓔珞文	白	染付	明治	美濃
839	Ⅱ	Ⅱ - 土 190-2	土 190	土器	皿	(6.5)	2.1	4.45	ロクロ成形	褐	-	19c か	在地か
840	Ⅱ	Ⅱ - 土 191-1	土 191	陶器	碗	(9.4)	-	-	せんじ、登 7 小	黄褐	灰釉	18c 中葉	瀬戸
841	Ⅱ	Ⅱ - 土 192-1	土 192	炻器	碗	(7.3)	(3.1)	5.7	箱型湯呑、外面に斜格子地に菊花文、縁内に 2 重圏線か、見込みに五弁花文、炻器染付、連房Ⅴa	灰	染付	幕末	美濃
842	Ⅱ	Ⅱ - 土 192-2	土 192	磁器	皿	(16.8)	-	-	外面に唐草文、内面に花唐草文	白	染付	17c 末～ 18c	肥前
843	Ⅱ	Ⅱ - 土 192-3	土 192	土器	皿	(11.0	(7.0)	2.7	ロクロ成形	褐	-	不明	在地か
844	Ⅱ	Ⅱ - 土 195-1	土 195	磁器	碗	(10.1)	(5.2)	7.0	外面に文様	白	染付	17c 末～ 18c	肥前
845	Ⅱ	Ⅱ - 土 195-2	土 195	陶器	小杯	6.5	3.4	3.0	底面に焼成前穿孔か	褐灰	鉄釉	17c	美濃
846	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-1	土 196	磁器	小杯	5.75	2.6	2.45	-	白	透明釉	近世	肥前
847	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-3	土 196	磁器	小杯	7.65	2.9	4.9	高台内に銘「2 重角に福」	白	染付	17c 後半～ 18c 前半	肥前
848	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-2	土 196	磁器	碗	11.0	(5.0)	6.4	外面に虫篭・梅文、高台内 1 重圏線	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
849	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-4	土 196	磁器	皿	14.55	9.7	2.55	外面に草文か、内面に山水文、高台内 1 重圏線内に銘「1 重角に不明字」・ハリ支え痕	白	染付	17c 後半～ 18c 前半	肥前
850	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-5	土 196	磁器	皿	(21.65)	(13.2)	3.1	内面に染付・上絵 (赤・金・黒) で梅に木兎文か、漆継痕	白	染付	17c 後半か	肥前
851	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-6	土 196	磁器	皿	20.85	14.1	4.45	輪花、外面に花唐草文、内面に鳳凰文・花唐草文、高台内 1 重圏線内に銘「2 重角に異体字」・ハリ支え痕 6	白	染付	17c 後半	肥前
852	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-7	土 196	陶器	向付	15.1	5.7	3.85	御深井、木瓜形、ロクロのち型打ち成形、連房Ⅲa・b	黄白	御深井釉	17c 後半～ 18c 前半	美濃
853	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-9	土 196	陶器	擂鉢	34.4	9.7	15.8	片口、擂目 16 本 1 単位、内面に目跡 (トチ)4	淡黄灰	鉄釉	17c 後半	美濃
854	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-8	土 196	陶器	水注	4.6	5.1	7.4	耳付水注、把手 2、外面に飴釉・内面に錆釉のち口縁～肩にうのふ釉流し掛け、碁笥底	淡黄褐	飴釉・錆釉・うのふ釉	17c 後半～ 18c 初頭	美濃
855	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-11	土 196	土器	皿	8.6	5.2	2.1	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤付着	不明	-	不明	在地か
856	Ⅱ	Ⅱ - 土 196-10	土 196	土器	焙烙	29.3	24.0	7.1	内耳 2、内外面に煤付着	暗褐	-	18c	在地か
857	Ⅱ	Ⅱ - 土 197-1	土 197	磁器	皿	(14.2)	(7.1)	2.55	輪花、型打成形か、見込み 2 重圏線内に山水文、高台内に銘「□明」	淡灰	染付	17c 後半 (第 3 四半)	肥前
858	Ⅱ	Ⅱ - 土 198-1	土 198	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、大窯 3 後～ 4 前	淡褐白	鉄釉	16c 後半	美濃
859	Ⅱ	Ⅱ - 土 198-2	土 198	陶器	碗	-	5.2	-	黒楽、軟質施釉陶器、手捏ね成形か、全面施釉	褐～灰	黒釉	16c 末～	京
860	Ⅱ	Ⅱ - 土 198-3	土 198	土器	皿	(9.9)	(6.6)	2.25	灯明皿か、ロクロ成形、口唇打ち欠きか、口縁に煤・タール付着	黒褐	-	18c か	在地か

No.	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
861	Ⅱ	Ⅱ - 土 199-1	土 199	陶器	碗	-	4.0	-	天目茶碗、内面に灰釉流し掛け	淡灰白	鉄釉・灰釉	17c	美濃
862	Ⅱ	Ⅱ - 土 200-1	土 200	磁器	碗	(8.5)	(5.7)	7.85	外面に菊花文、縁内に 2 重圏線、高台に砂付着	淡灰	染付	近世	肥前
863	Ⅱ	Ⅱ - 土 200-2	土 200	土器	皿	8.55	4.25	2.88	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	褐	-	17c 後半～ 18c か	在地か
864	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-1	土 201	磁器	皿	(20.0)	(9.1)	2.7	内面に陽刻、見込みに上絵 (赤・金・黒) で唐草文・風景か、高台に砂付着	白	透明釉・上絵	17c か	肥前か
865	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-2	土 201	陶器	碗	(6.8)	(3.2)	4.3	口縁に溶着痕	淡灰白	鉄釉か	17c 後半か	美濃
866	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-3	土 201	陶器	碗	(11.7)	(4.6)	6.85	外面に楼閣山水文、高台内に銘「清水」、京焼風肥前	黄白	透明釉・呉須絵	17c 後半	肥前
867	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-4	土 201	陶器	擂鉢	(37.4)	-	-	擂目 13 本 1 単位	淡黄白	鉄釉	17c 後半	美濃
868	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-6	土 201	土器	皿	(9.0)	(6.6)	2.5	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤付着、底面に墨書「○」	淡灰褐	-	不明	在地か
869	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-7	土 201	土器	皿	9.1	5.8	2.3	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤付着、底面に墨書「○」	褐	-	不明	在地か
870	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-8	土 201	土器	皿	9.7	6.2	2.35	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤・タール付着、底面に墨書「二」	褐	-	不明	在地か
871	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-9	土 201	土器	皿	12.45	7.5	2.7	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤・タール付着	不明	-	不明	在地か
872	Ⅱ	Ⅱ - 土 201-5	土 201	土器	焙烙	(32.0)	(24.2)	7.75	内耳 2、外面に煤付着	暗褐	-	18c	在地か
873	Ⅱ	Ⅱ - 土 202-2	土 202	土器	皿	11.65	6.6	3.6	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	灰褐	-	16c 末～ 17c 前半か	在地か
874	Ⅱ	Ⅱ - 土 202-1	土 202	土器	皿	(10.1)	(6.5)	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着、底面に墨書「御」	褐	-	16c 末～ 17c 前半か	在地か
875	Ⅱ	Ⅱ - 土 203-1	土 203	土器	皿	(11.4)	(5.7)	3.1	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	褐	-	18c か	在地か
876	Ⅱ	Ⅱ - 畝状 -1	畝状遺構	磁器	碗	9.05	3.2	4.87	外面に四方襷文・卍文・櫛歯文、縁内に渦繋ぎ文、見込みに十字花文、焼継のち漆継痕	白	染付	18c 前半	肥前
877	Ⅱ	Ⅱ - 畝状 -2	畝状遺構	陶器	碗	(6.1)	(3.5)	3.85	-	淡灰白	鉄釉	17c 末～幕末	瀬戸・美濃
878	Ⅱ	Ⅱ - 検 -1	検出面	磁器	小杯	(5.4)	1.5	2.8	外面に斜格子・市松文	白	染付	17c 末～幕末	肥前
879	Ⅱ	Ⅱ - 検 -2	検出面	磁器	仏飯器	(7.0)	3.9	5.8	外面に唐草文	白	染付	18c 後半～幕末か	肥前か
880	Ⅱ	Ⅱ - 検 -3	検出面	磁器	皿	(10.2)	6.9	2.15	外面に唐草文、内面に青磁釉、見込み 2 重圏線内に風景、蛇の目凹型高台、高台内に銘「2 重角に渦福」	白	染付・青磁釉	18c 後半	肥前
881	Ⅱ	Ⅱ - 検 -4	検出面	磁器	皿	-	5.35	-	見込み 2 重圏線内に柳文・蝙蝠文、高台に砂付着、漆継痕	白	染付	17c 後半	肥前
882	Ⅱ	Ⅱ - 検 -5	検出面	磁器	皿	12.9	7.3	3.5	外面に唐草文、内面に橋・水草文、見込み 2 重圏線内にコンニャク印判で五弁花文、高台内 1 重圏線内に銘崩れた「大明年製」	白	染付	17c 末～ 18c	肥前
883	Ⅱ	Ⅱ - 検 -6	検出面	磁器	皿	-	(11.8)	-	外面に上絵 (緑・黒・黄・赤) で唐草文、内面に上絵 (緑・紫・黒・黄) で風景・七宝文・四方襷文、高台に砂付着	灰	透明釉・上絵	17c 中葉か	肥前
884	Ⅱ	Ⅱ - 検 -7	検出面	磁器	御神酒徳利	-	3.9	-	外面に松竹梅文、登 10 小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
885	Ⅱ	Ⅱ - 検 -15	検出面	磁器	カキタテ	-	-	3.9	上面に文様	白	染付	幕末～明治	肥前
886	Ⅱ	Ⅱ - 検 -8	検出面	磁器	蓋	-	-	2.65	外径 (10.0)、摘み径 4.2、外面に雪輪文・蓮弁文、縁内に四方襷文、天井 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c	肥前
887	Ⅱ	Ⅱ - 検 -9	検出面	陶器	皿	(11.4)	5.3	2.65	内面に摺絵 (呉須) で折枝梅文、連房Ⅲ c	淡黄褐	灰釉・呉須	18c 後半	美濃
888	Ⅱ	Ⅱ - 検 -10	検出面	陶器	皿	(13.1)	6.3	4.1	外面に文様、内面に半菊文、見込み 1 重圏線内に五弁花文か、高台内に蛇の目、陶胎染付、登 9 小	淡黄褐	染付	19c 初頭	瀬戸
889	Ⅱ	Ⅱ - 検 -17	検出面	炻器	擂鉢	(30.3)	-	-	縁帯に沈線 2	暗紫	-	18c 後半～ 19c 中葉	堺
890	Ⅱ	Ⅱ - 検 -18	検出面	陶器	擂鉢	-	-	-	内面に刻印「㊋」、漆継痕	赤褐	錆釉か	18c 後半～幕末	不明
891	Ⅱ	Ⅱ - 検 -11	検出面	陶器	餌猪口	5.5	5.6	2.75	環状把手 1	灰	灰釉	18c 後半	美濃
892	Ⅱ	Ⅱ - 検 -12	検出面	陶器	壺	4.5	5.8	7.55	有耳壺、内面無釉、内面に黒色付着物、鉄漿壺として使用か	淡黄白	飴釉	18c 前半～中葉	美濃
893	Ⅱ	Ⅱ - 検 -13	検出面	陶器	灯明受皿	7.1	2.8	1.65	油溝 1、登 10・11 小	淡灰白	灰釉	幕末	瀬戸
894	Ⅱ	Ⅱ - 検 -14	検出面	陶器	合子蓋	-	-	0.75	外径 4.2	淡黄褐	灰釉	17c 末～幕末	美濃
895	Ⅱ	Ⅱ - 検 -19	検出面	土器	皿	15.0	8.0	2.6	ロクロ成形、底部回転糸切のち手持ちヘラ削り、内外面に煤付着	灰褐	-	不明	在地か
896	Ⅱ	Ⅱ - 検 -16	検出面	土製品	人形	-	-	-	幅 2.45、人物立像、陶器、前後型合せ、中実	淡黄褐	透明釉・黄	不明	不明
897	Ⅲ	Ⅲ - 溝 9-1	溝 9	黒色土器 A	鉢	(12.6)	-	-	内面ミガキ・黒色処理	淡黄褐	-	9c 前半～中葉	在地か
898	Ⅲ	Ⅲ - 土 87-1	土 87	土器	皿	(10.1)	(6.0)	2.65	ロクロ成形、内外面に煤付着	暗黄褐	-	18c か	在地か
899	Ⅲ	Ⅲ - 土 112-1	土 112	陶器	皿	(10.1)	(6.0)	2.1	長石釉丸皿、登 2 小	黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
900	Ⅲ	Ⅲ - 土 112-2	土 112	陶器	皿	(11.0)	6.6	1.85	長石釉丸皿、高台内に目跡 1、登 2 小	黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
901	Ⅲ	Ⅲ - 土 180-1	土 180	陶器	鉢	(22.0)	(13.0)	5.45	灰志野、輪花、見込みに鉄絵・目跡 1、高台内に目跡 1、全面施釉、大窯 4 末	淡黄灰	長石釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
902	Ⅲ	Ⅲ - 検 -1	検出面	磁器	碗	(9.7)	-	-	筒形碗、外面に遠景	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
903	Ⅲ	Ⅲ - 検 -2	検出面	白磁	皿	(19.0)	(10.6)	3.5	端反、E 群、漆継痕	白	白磁釉	15c 第 4 四半～ 16c 前半	中国
904	Ⅲ	Ⅲ - 検 -3	検出面	陶器	碗	(11.6)	-	-	天目茶碗、登 2 後半～ 3 小	白	鉄釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
905	Ⅲ	Ⅲ - 検 -4	検出面	陶器	碗	(12.0)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 1・2 小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
906	Ⅲ	Ⅲ - 検 -5	検出面	陶器	碗	-	5.4	-	内外面に鉄釉・灰釉掛け分け、下品野	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	瀬戸
907	Ⅲ	Ⅲ - 検 -7	検出面	陶器	皿	9.9	6.3	1.4	内禿皿、大窯 4 後	淡黄白	灰釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
908	Ⅲ	Ⅲ - 検 -6	検出面	陶器	皿	(11.0)	-	-	折縁皿、内側面にソギ、大窯 4 前	淡灰褐	灰釉	16c 末	美濃
909	Ⅲ	Ⅲ - 検 -8	検出面	陶器	鉢	(13.4)	-	-	-	赤褐	長石釉	17c 前半	肥前
910	-	表土 -3	表土	陶器	秉燭	5.2	3.5	4.25	底部に孔、登 8・9 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半～ 19c 初頭	瀬戸・美濃
911	-	壁 -1	壁	陶器	香合	(3.8)	4.9	1.6	赤織部、外面に白泥・鉄絵で間道文	淡褐	長石釉・白泥・鉄絵	17c 初頭	美濃

※（　）内数値は、推定値を表す。

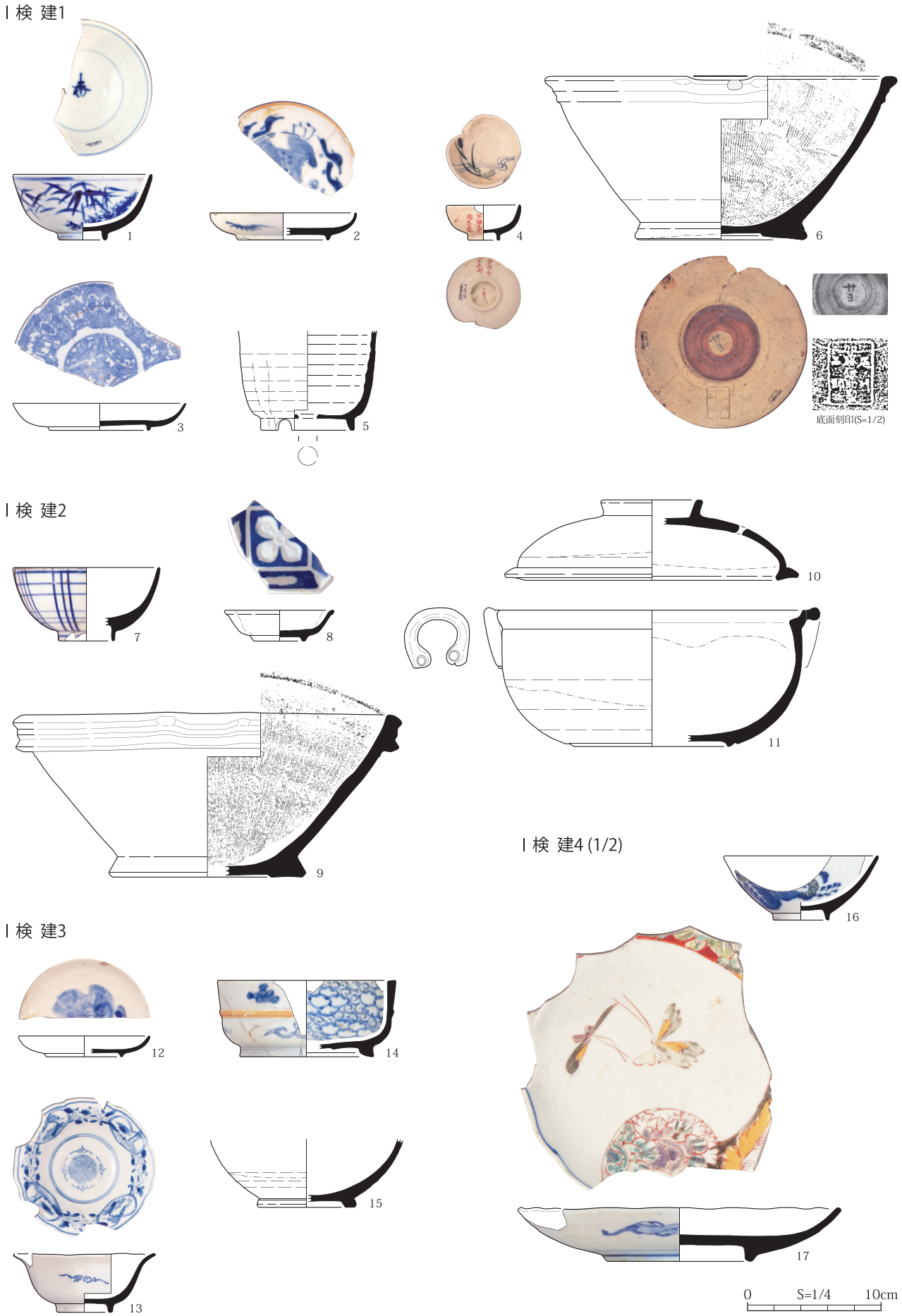
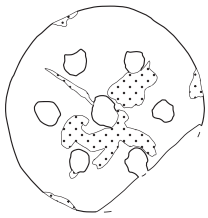
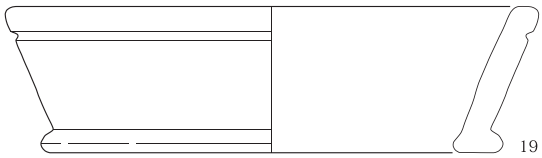


図 69　土居尻 1　土器・陶磁器 (1)

Ⅰ検 建4 (2/2)



18



19

Ⅰ検 建6

20

Ⅰ検 石列A

21

22

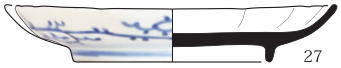
23

24

25

Ⅰ検 石列F

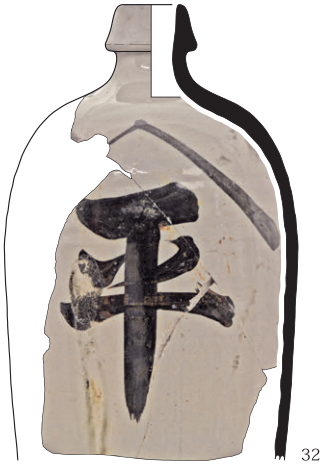
26



27

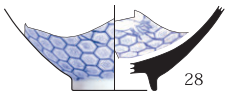
Ⅰ検 甕9

31



32

Ⅰ検 甕7



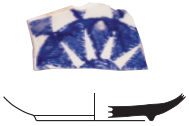
28

Ⅰ検 甕8・9

29

30

Ⅰ検 ピット16



33

34

0　S=1/4　10cm

図 70　土居尻 1　土器・陶磁器 (2)

図 71　土居尻 1　土器・陶磁器 (3)

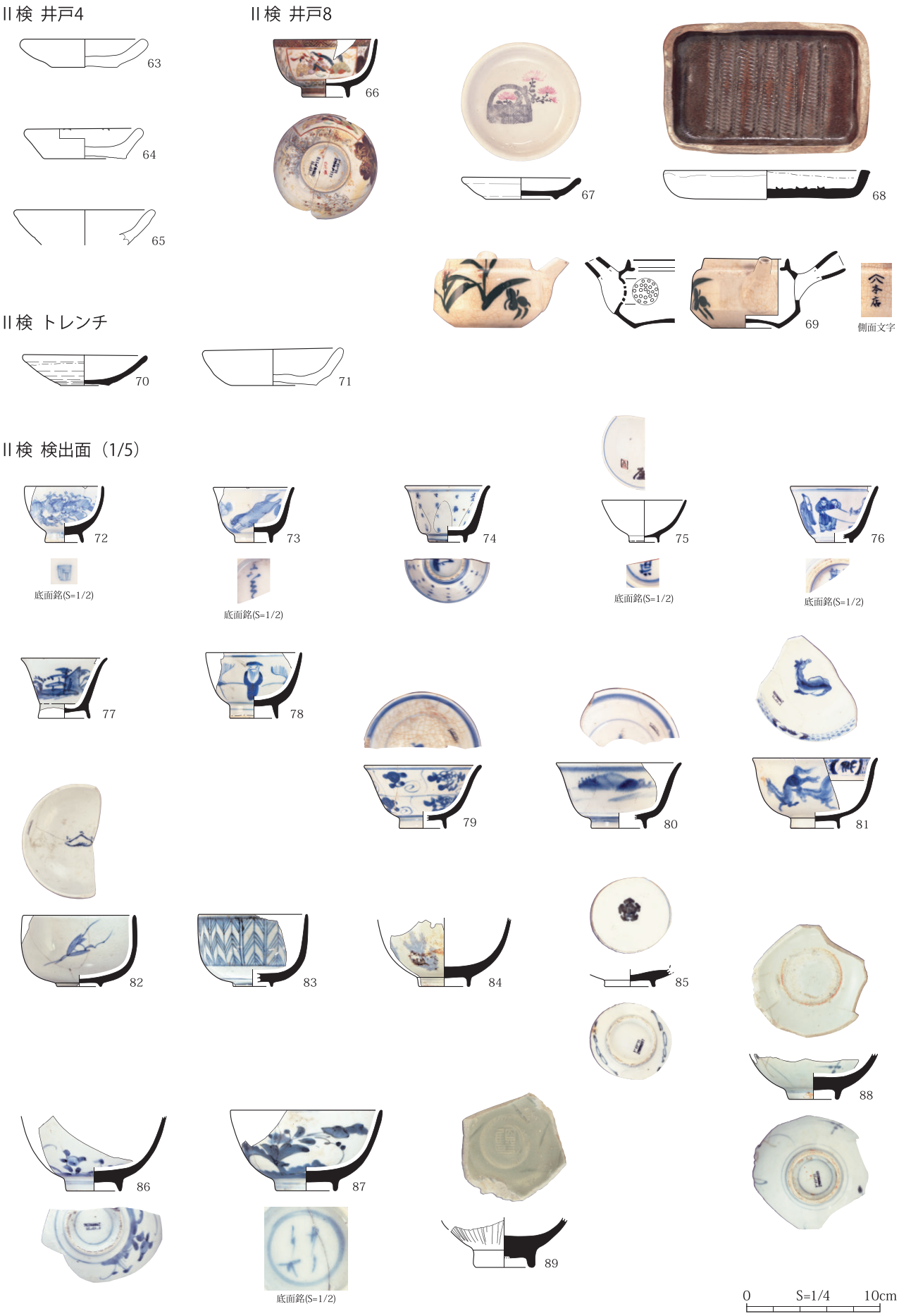


図 72　土居尻 1　土器・陶磁器 (4)

図 73　土居尻 1　土器・陶磁器 (5)

II検 検出面 (3/5)

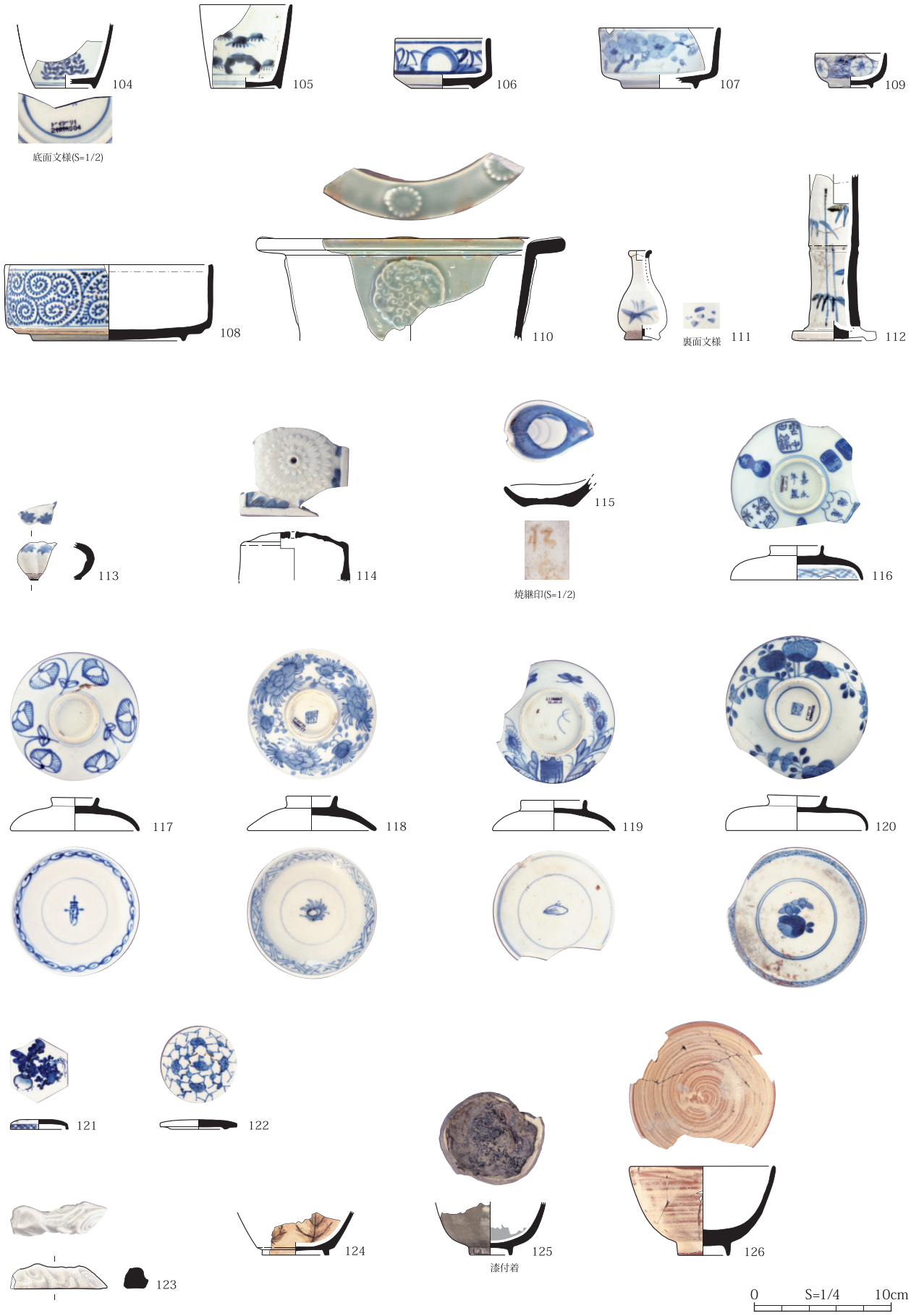


図 74　土居尻 1　土器・陶磁器 (6)

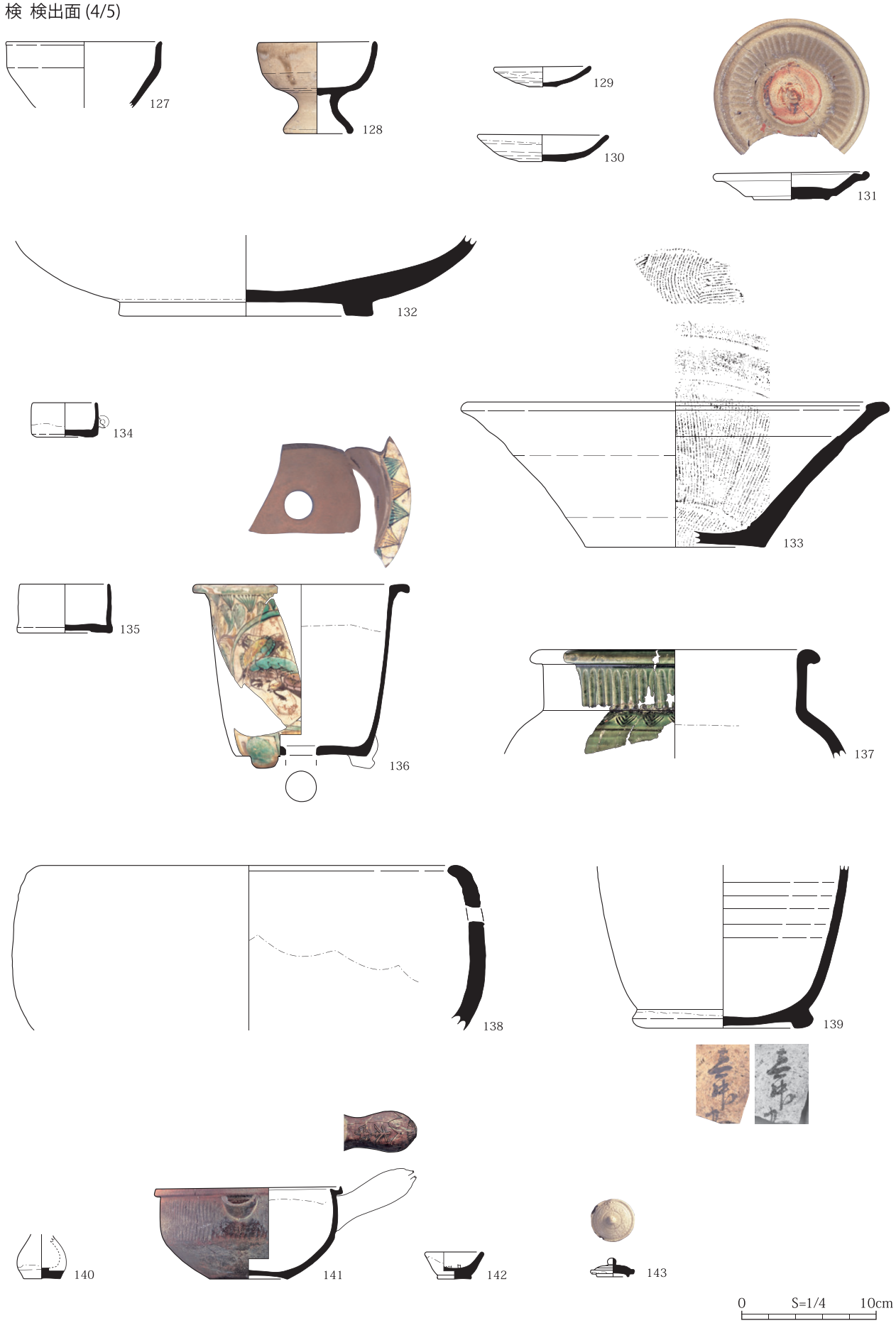


図 75　土居尻 1　土器・陶磁器 (7)

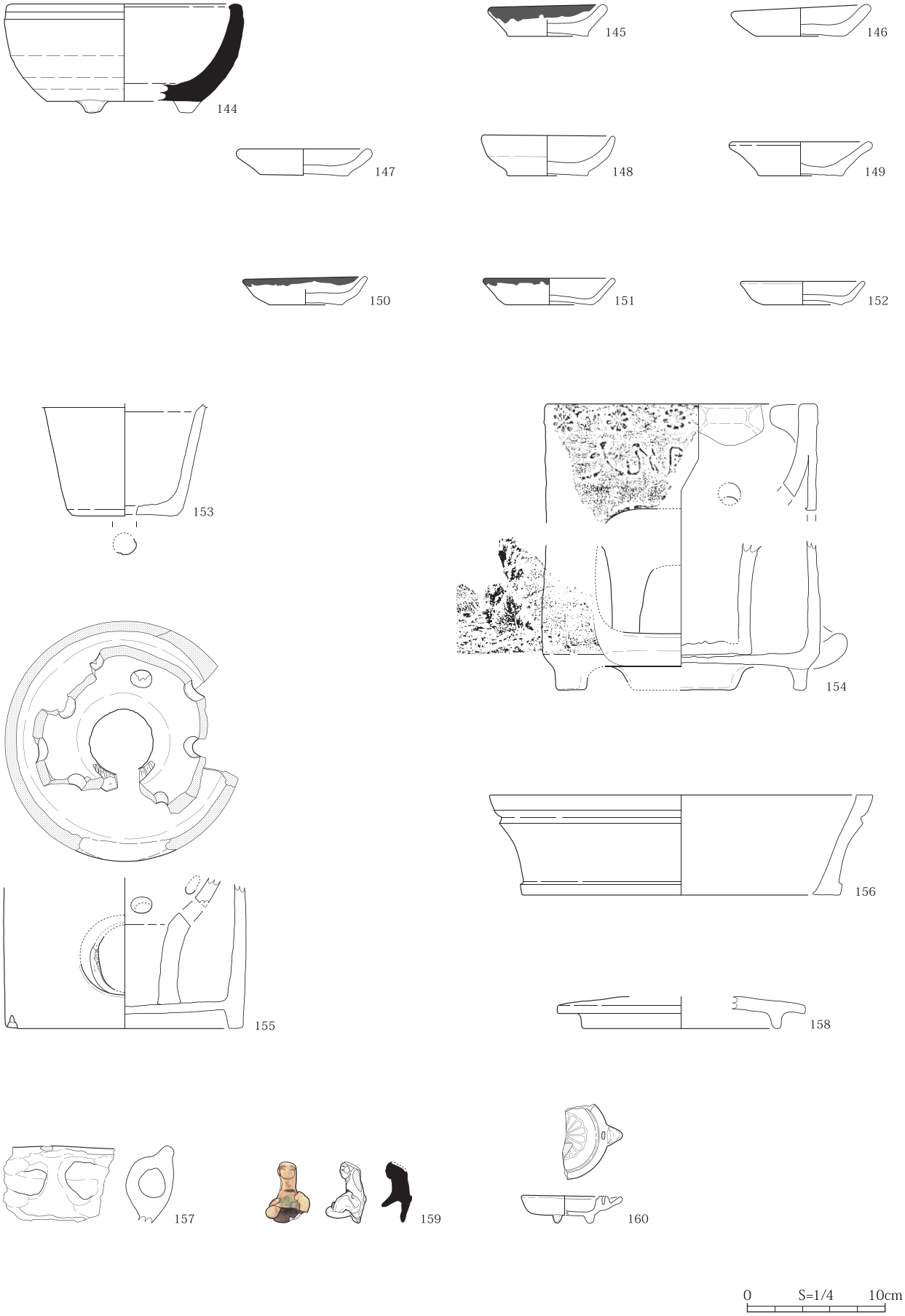
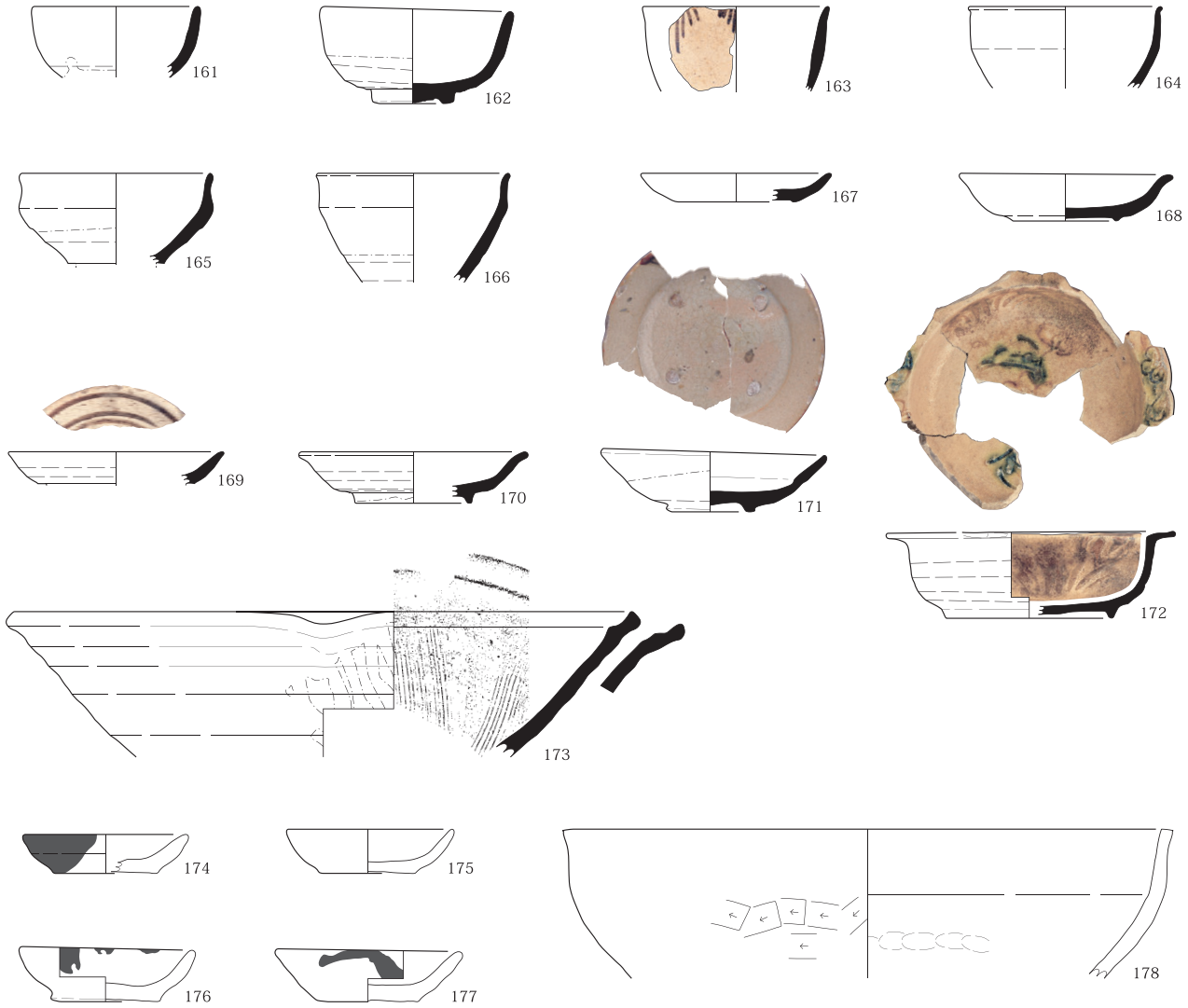
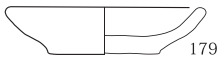


図 76　土居尻 1　土器・陶磁器 (8)

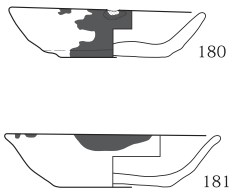
Ⅲ検 溝301



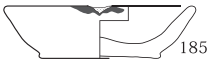
Ⅲ検 溝302



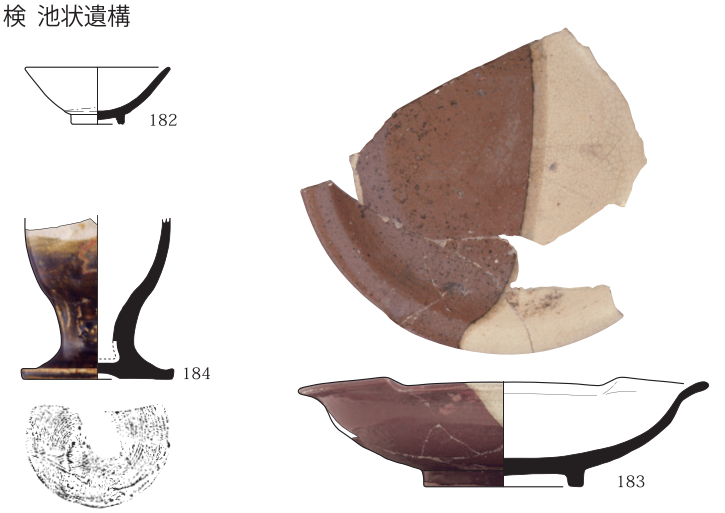
Ⅲ検 溝310



Ⅲ検 竹管302



Ⅲ検 池状遺構



0 S=1/4 10cm

図 77　土居尻 1　土器・陶磁器 (9)

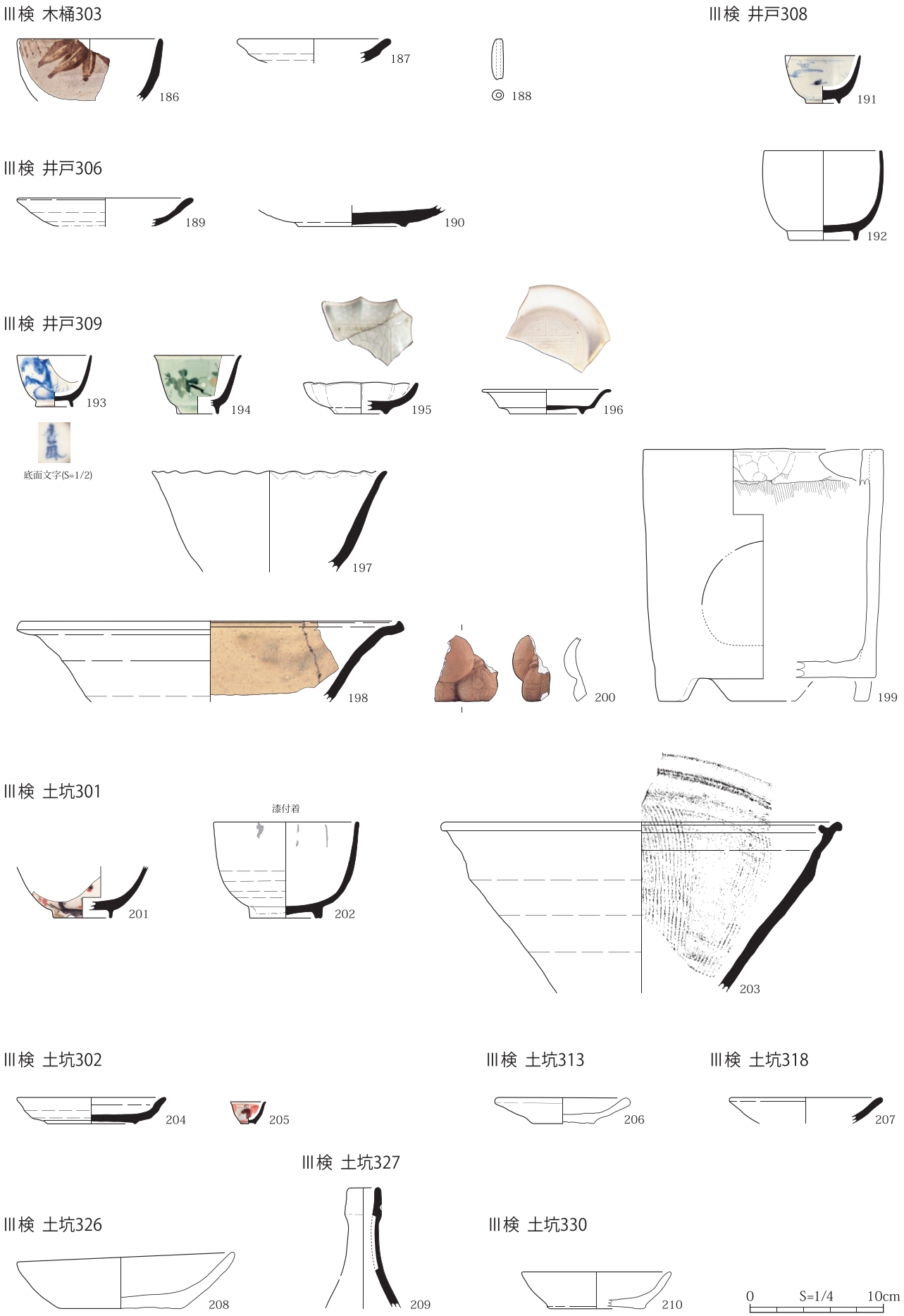


図 78　土居尻 1　土器・陶磁器 (10)

図 79　土居尻 1　土器・陶磁器 (11)

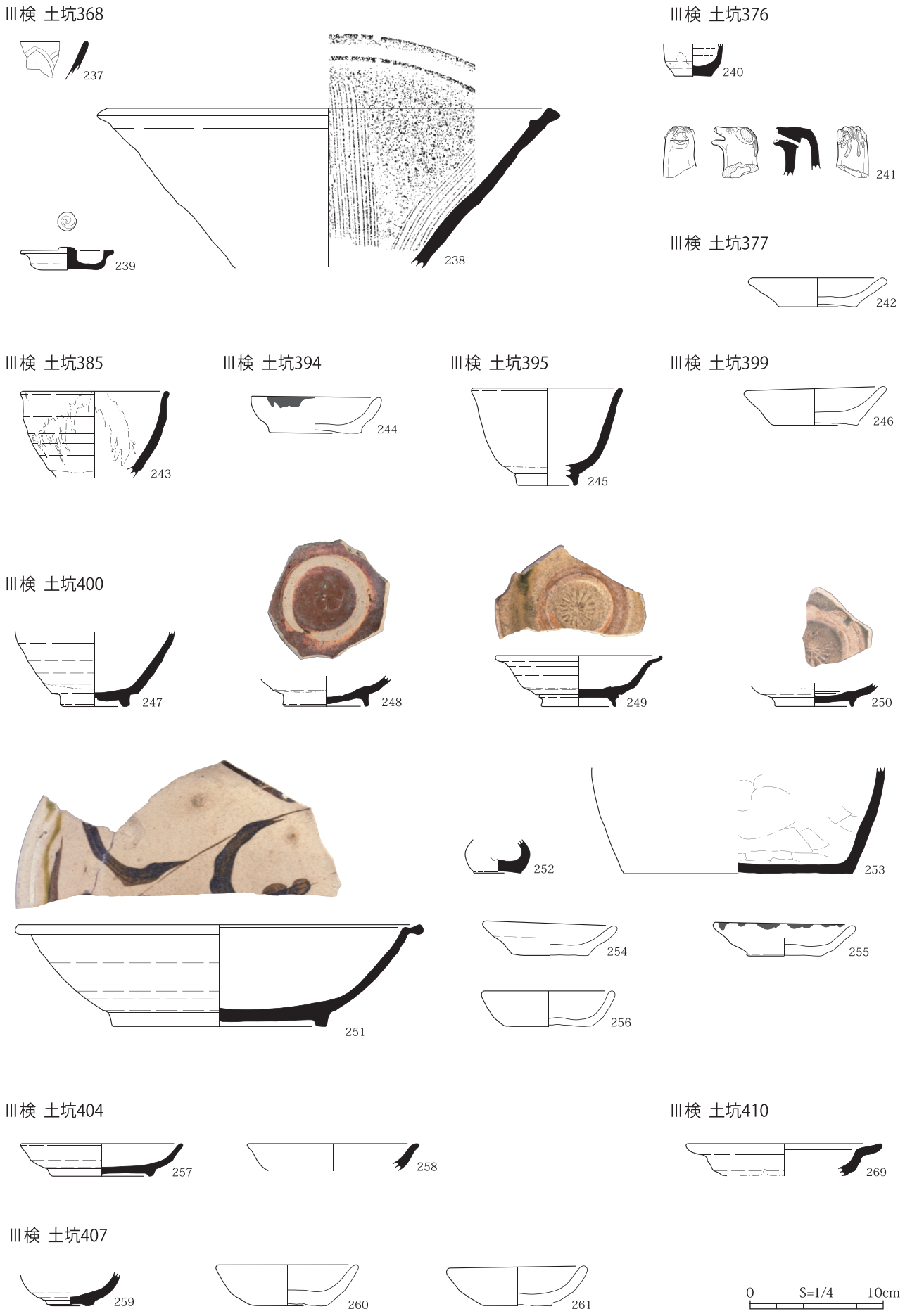


図 80　土居尻 1　土器・陶磁器 (12)

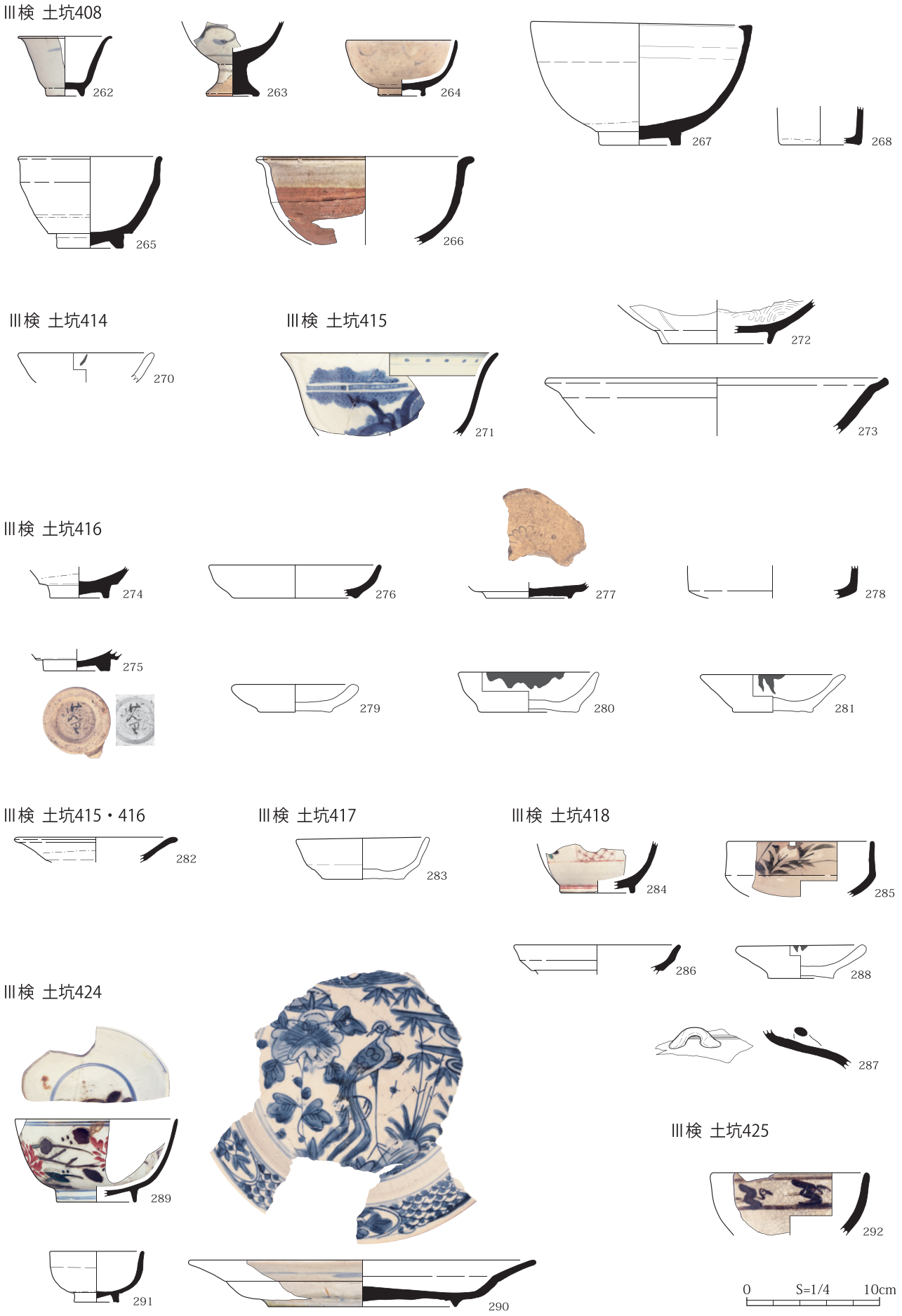
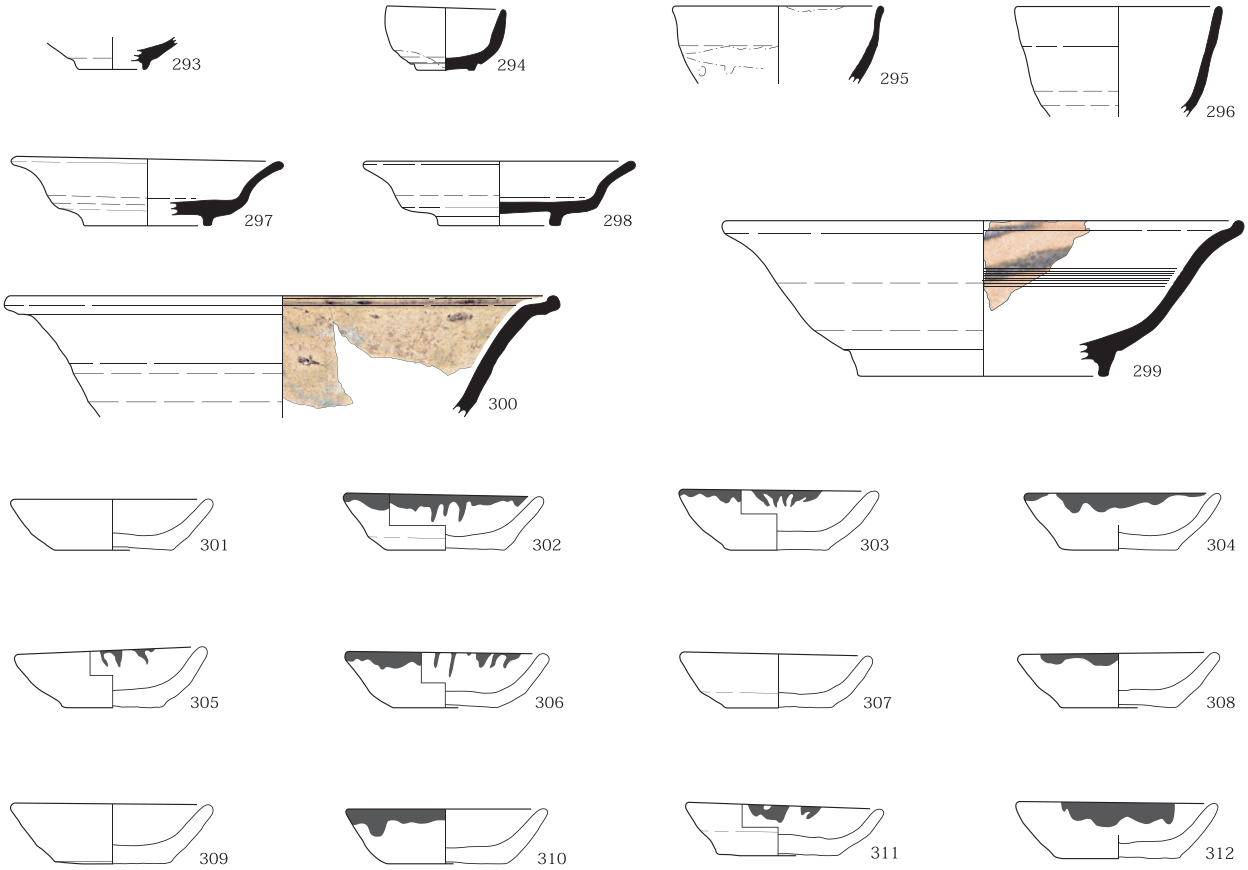


図 81　土居尻 1　土器・陶磁器 (13)

Ⅲ検 土坑430



Ⅲ検 検出面(1/5)

図 82　土居尻 1　土器・陶磁器 (14)

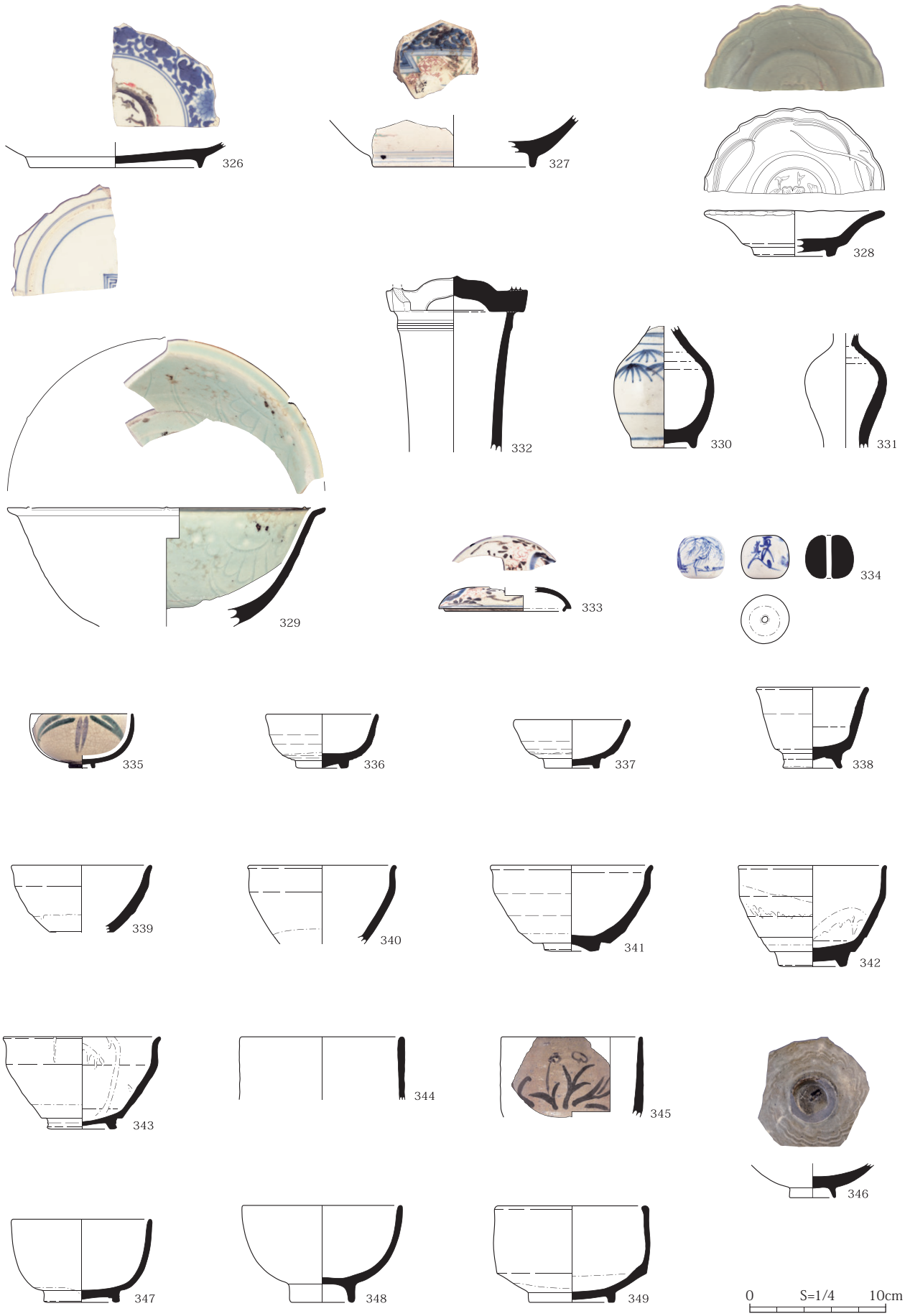


図 83　土居尻 1　土器・陶磁器 (15)

Ⅲ検 検出面(3/5)

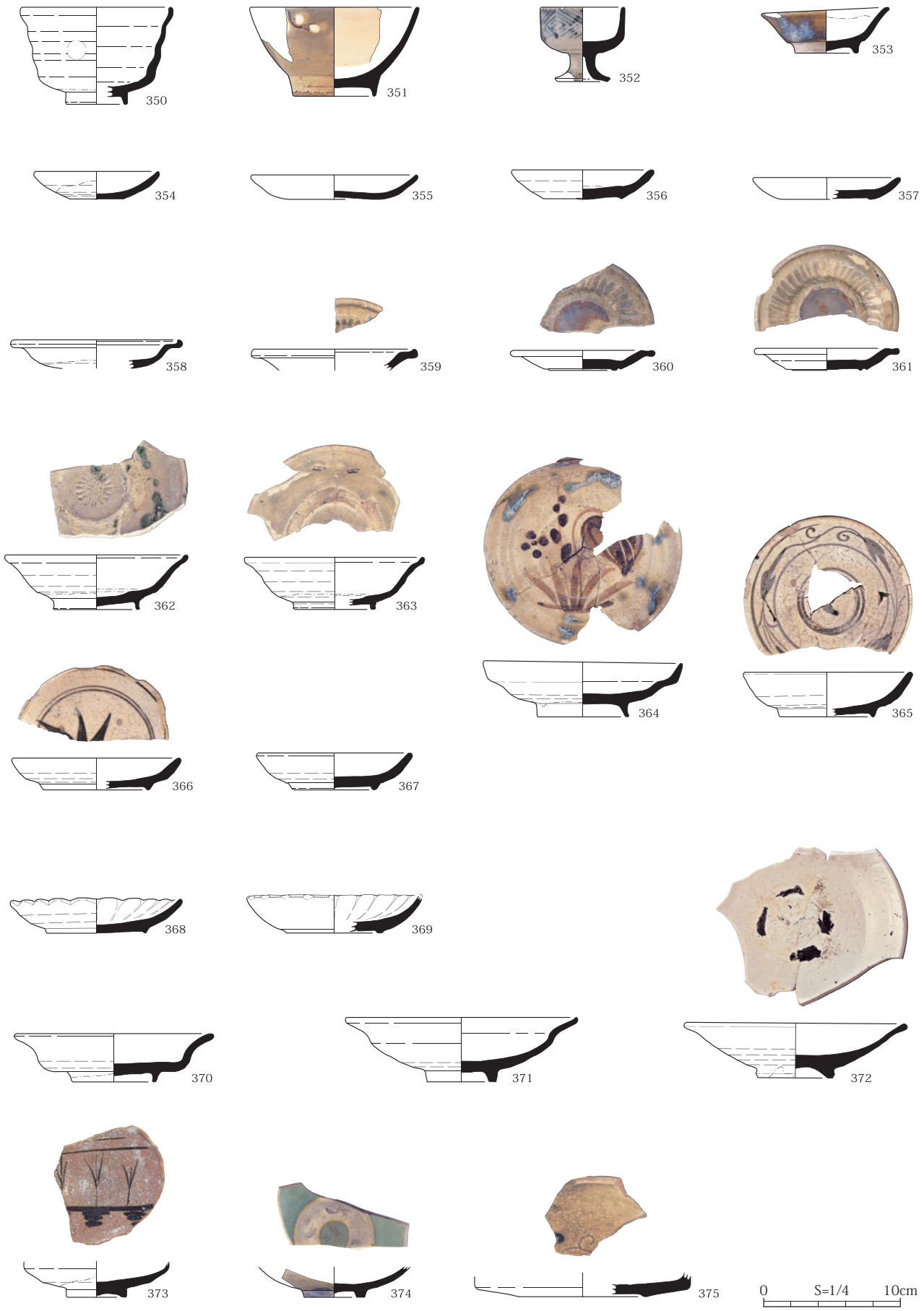


図 84　土居尻 1　土器・陶磁器 (16)

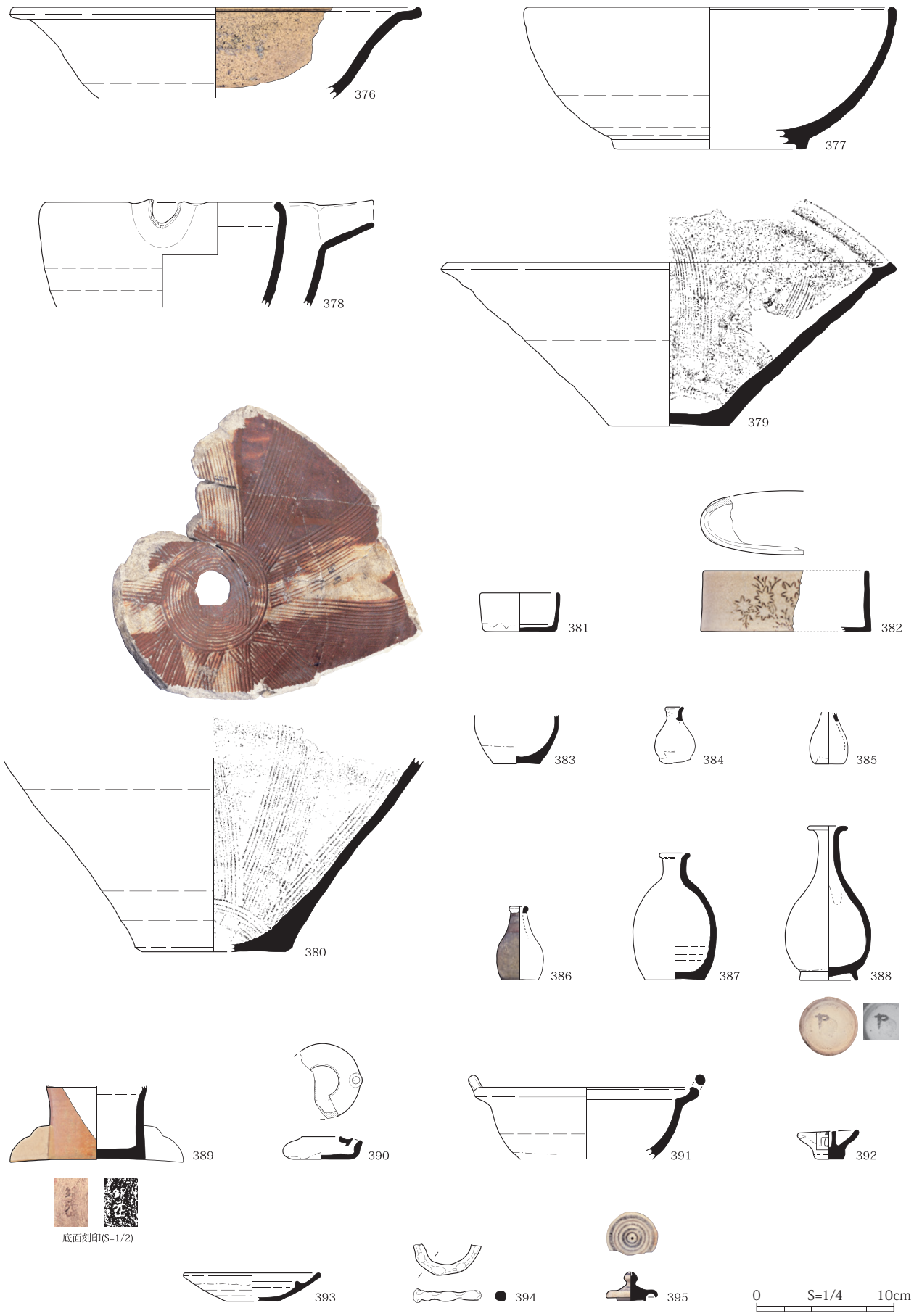


図 85　土居尻 1　土器・陶磁器 (17)

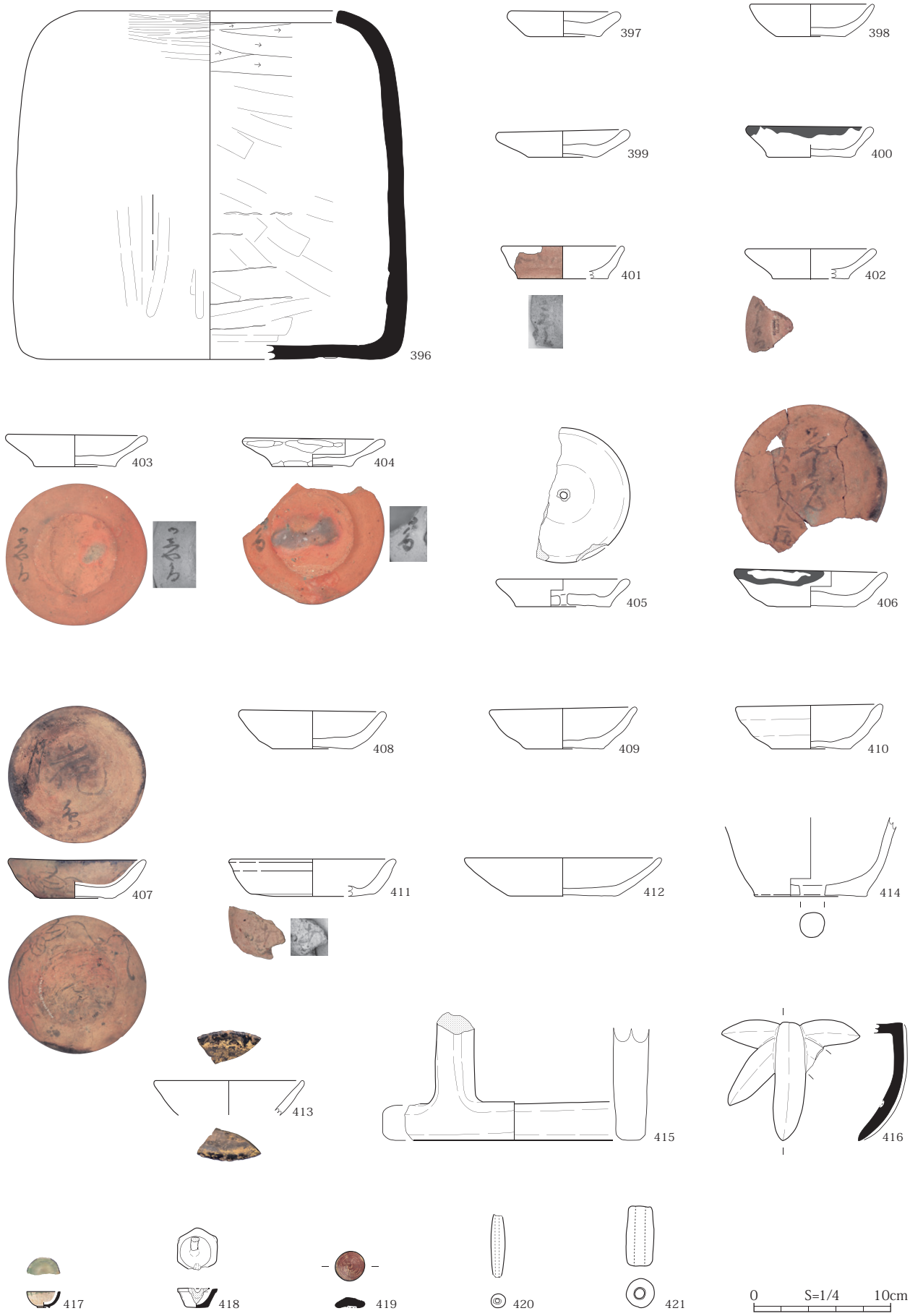


図 86　土居尻 1　土器・陶磁器 (18)

図 87　土居尻 1　土器・陶磁器 (19)

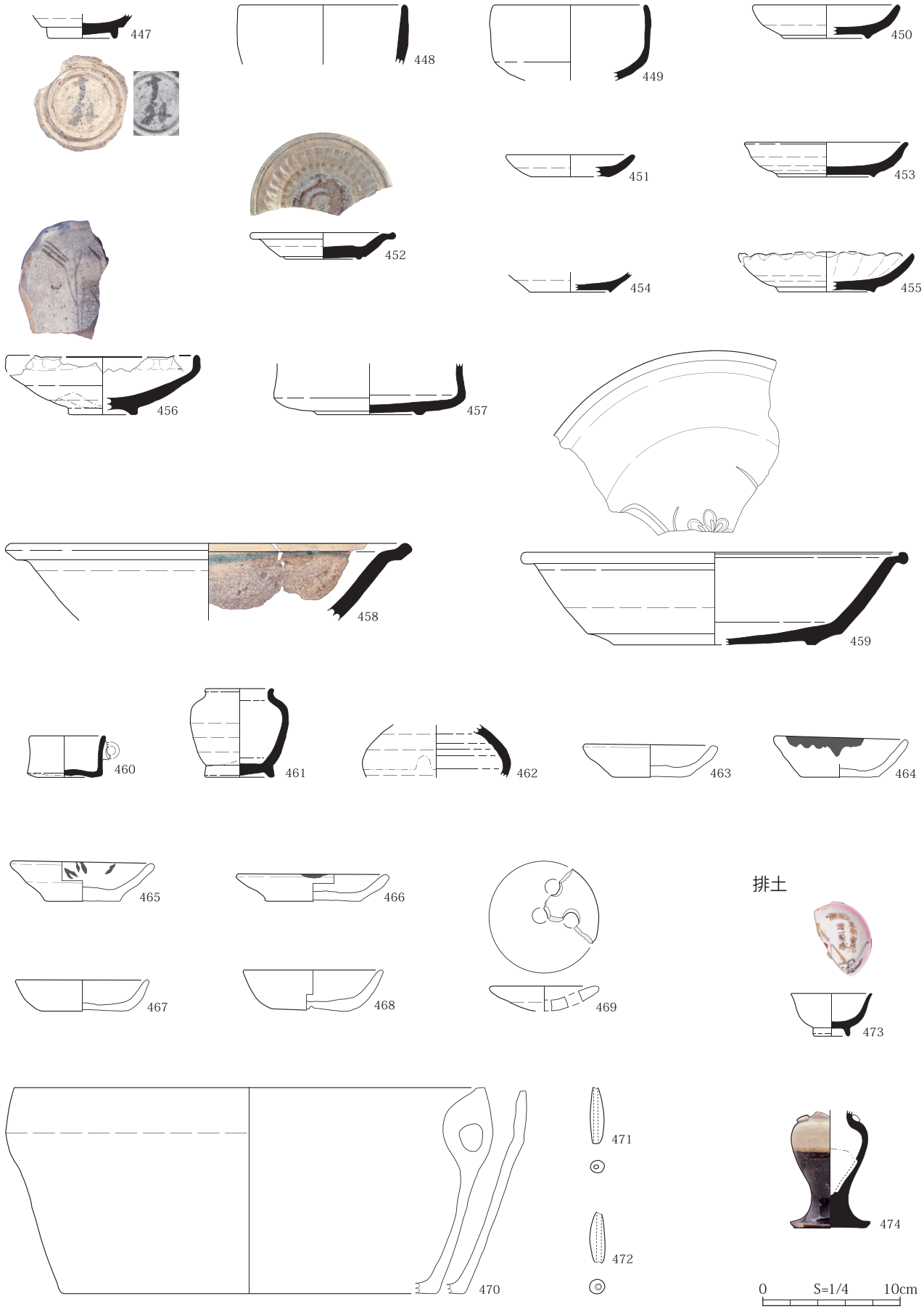


図 88　土居尻 1　土器・陶磁器 (20)

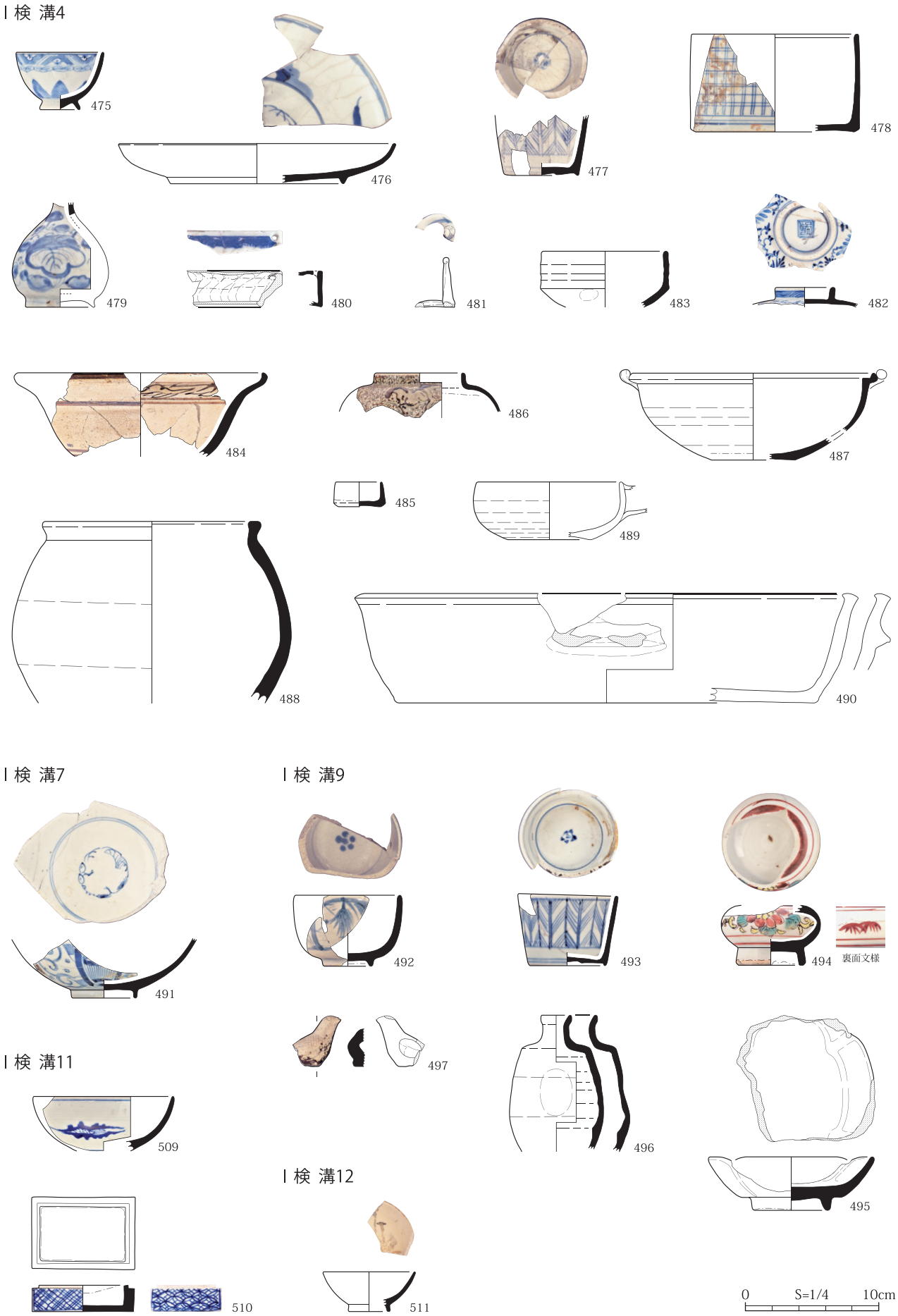
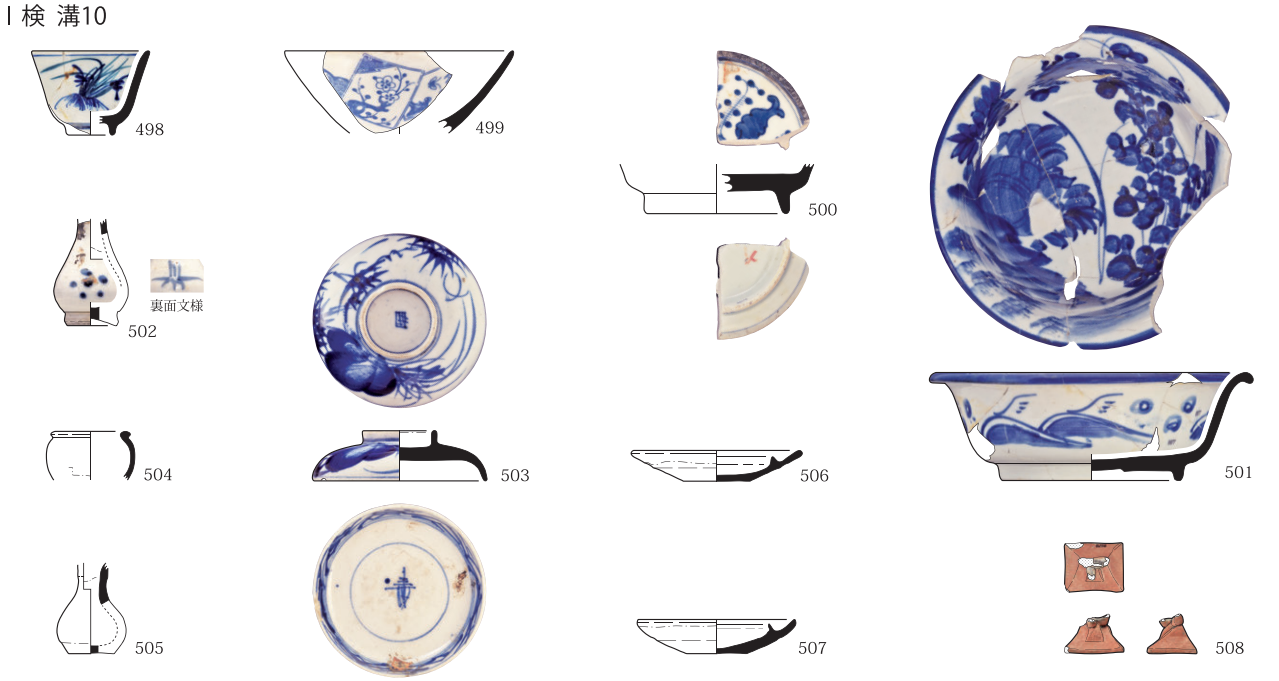


図 89　大名町 3　土器・陶磁器 (1)

Ⅰ検 溝10



Ⅰ検 溝15

Ⅰ検 溝16

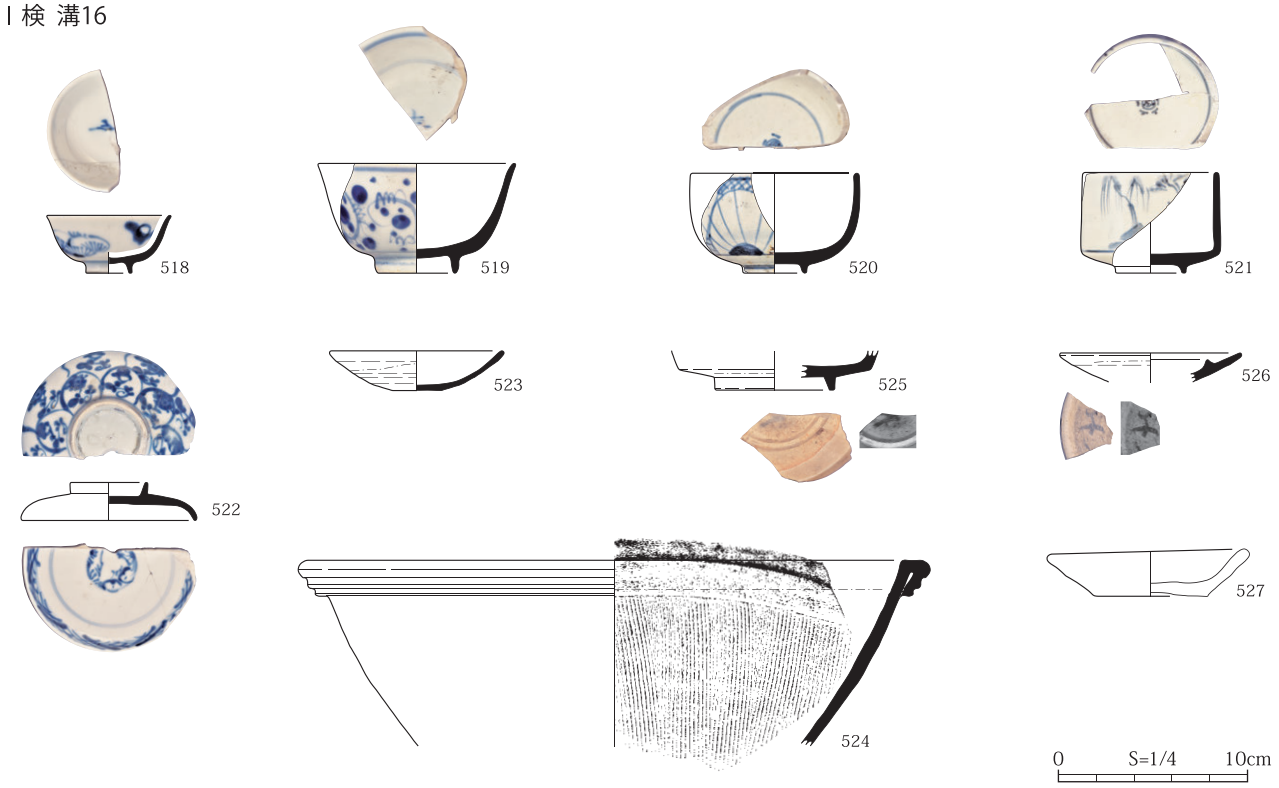
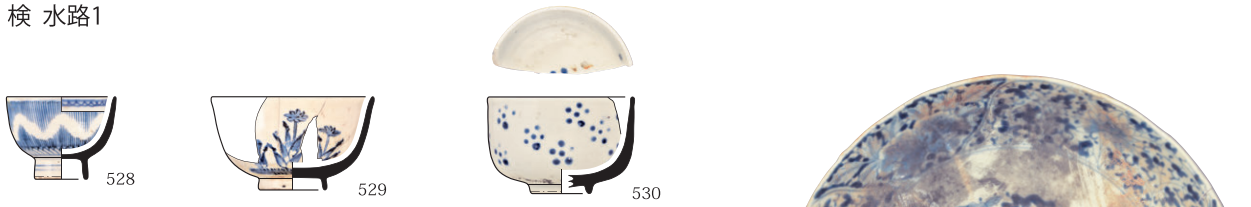


図 90　大名町 3　土器・陶磁器 (2)

Ⅰ検 水路1



Ⅰ検 焼土範囲15

Ⅰ検 瓦集中部

Ⅰ検 土坑5

Ⅰ検 土坑9

Ⅰ検 土坑35

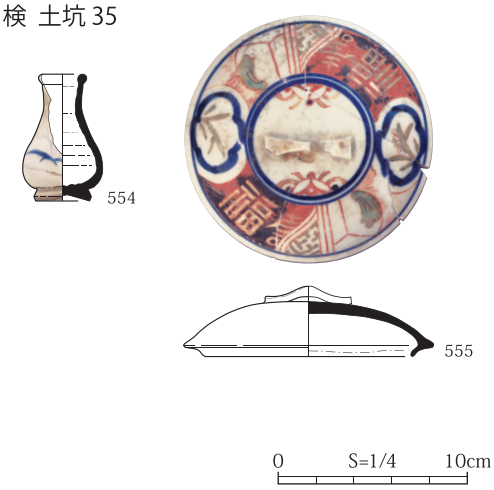


図 91　大名町 3　土器・陶磁器 (3)

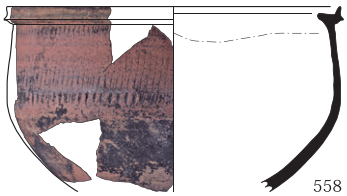
Ⅰ検 土坑 47

556

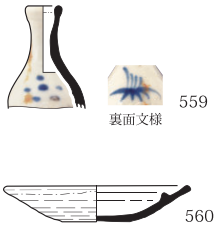
Ⅰ検 土坑 59

557

Ⅰ検 土坑 82


558

Ⅰ検 土坑 84



Ⅰ検 検出面

Ⅰ検 トレンチ 1

584

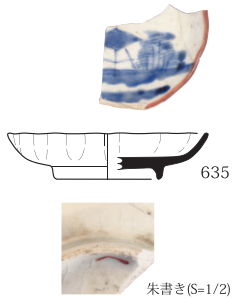
0 S=1/4 10cm

図 92　大名町 3　土器・陶磁器 (4)

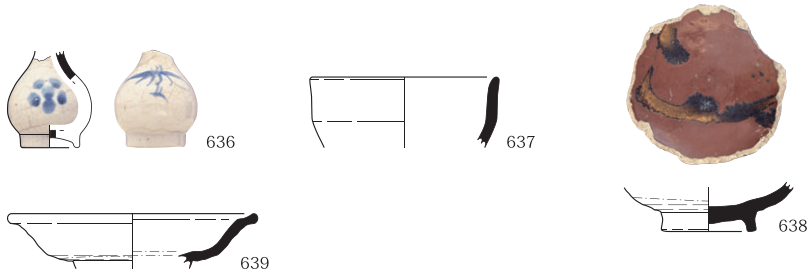
図 93　大名町 3　土器・陶磁器 (5)

Ⅱ検 溝31

Ⅱ検 土坑113



Ⅱ検 土坑114



Ⅱ検 土坑119

0 S=1/4 10cm

図 94　大名町 3　土器・陶磁器 (6)

II検 土坑123 (1/6)

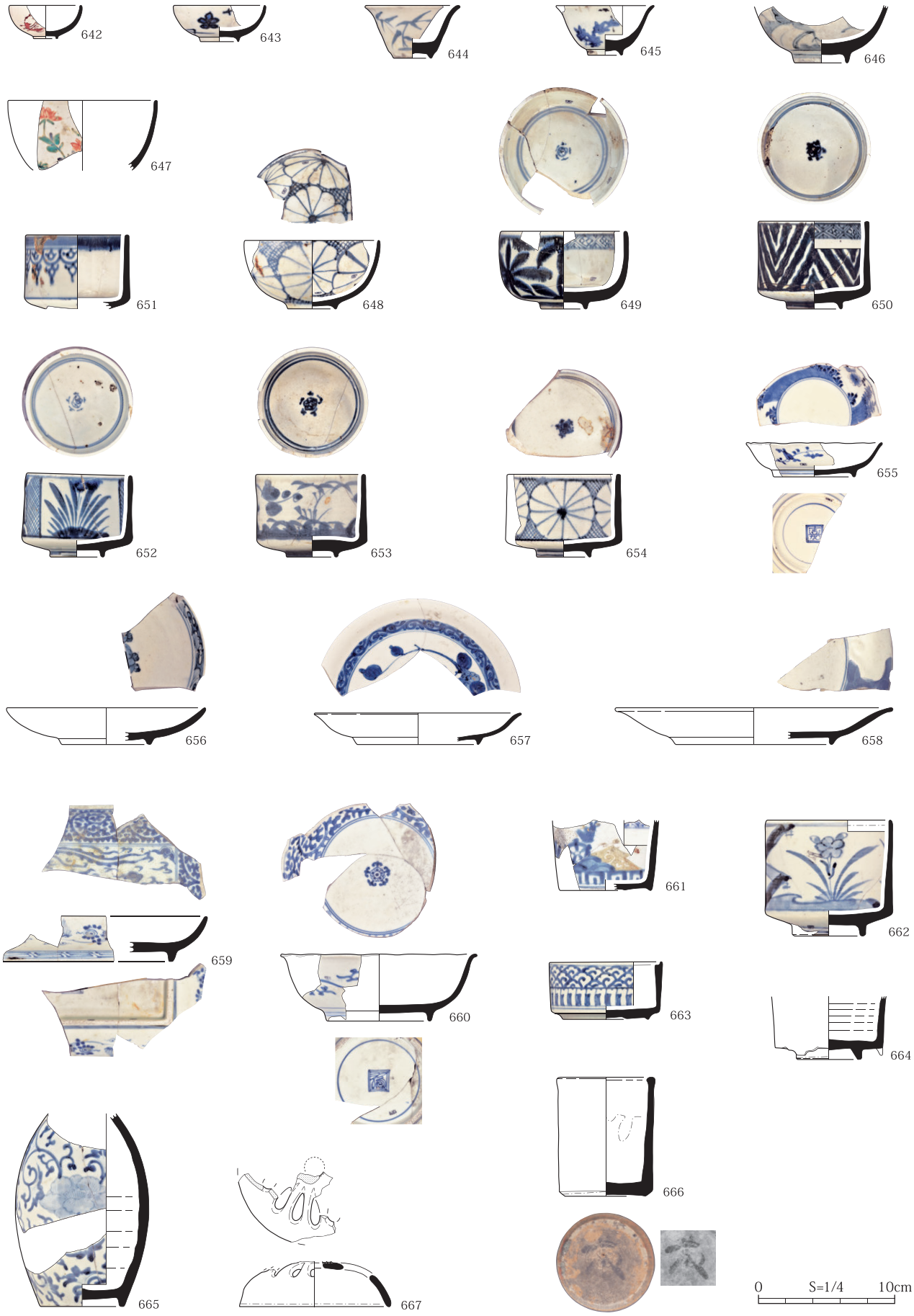


図 95　大名町 3　土器・陶磁器 (7)

II検 土坑123 (2/6)

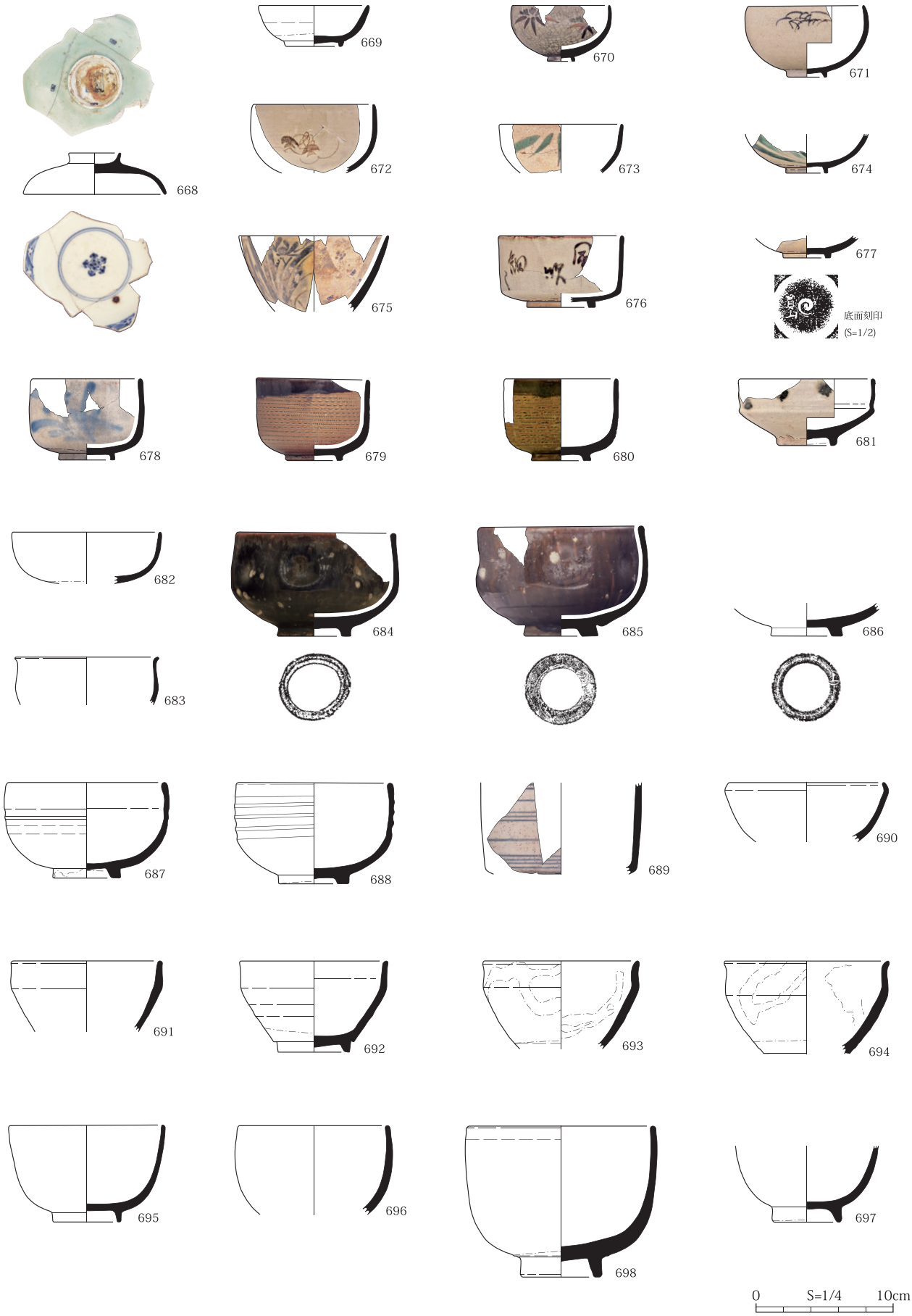


図 96　大名町 3　土器・陶磁器 (8)

II検 土坑123 (3/6)

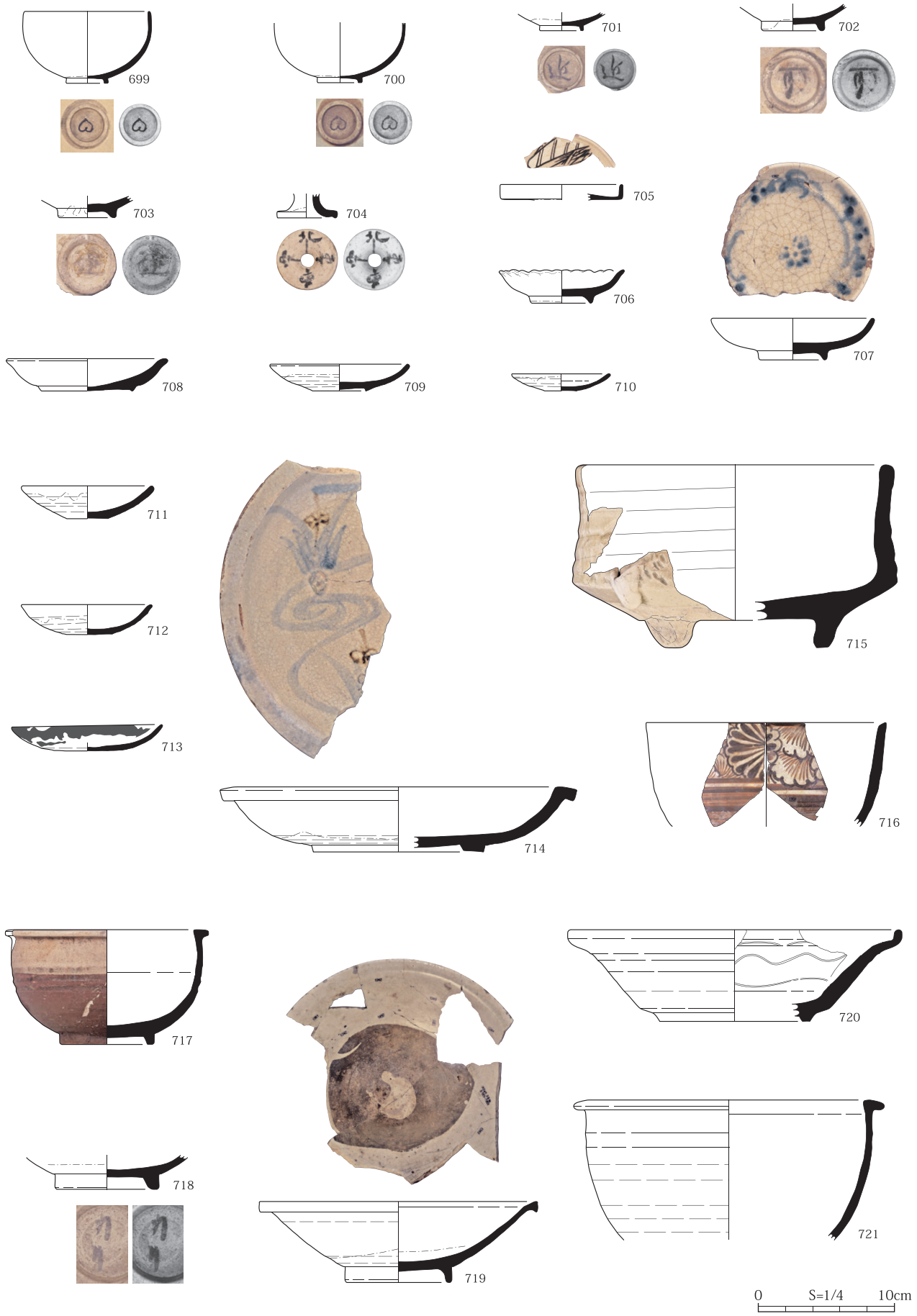


図 97　大名町 3　土器・陶磁器 (9)

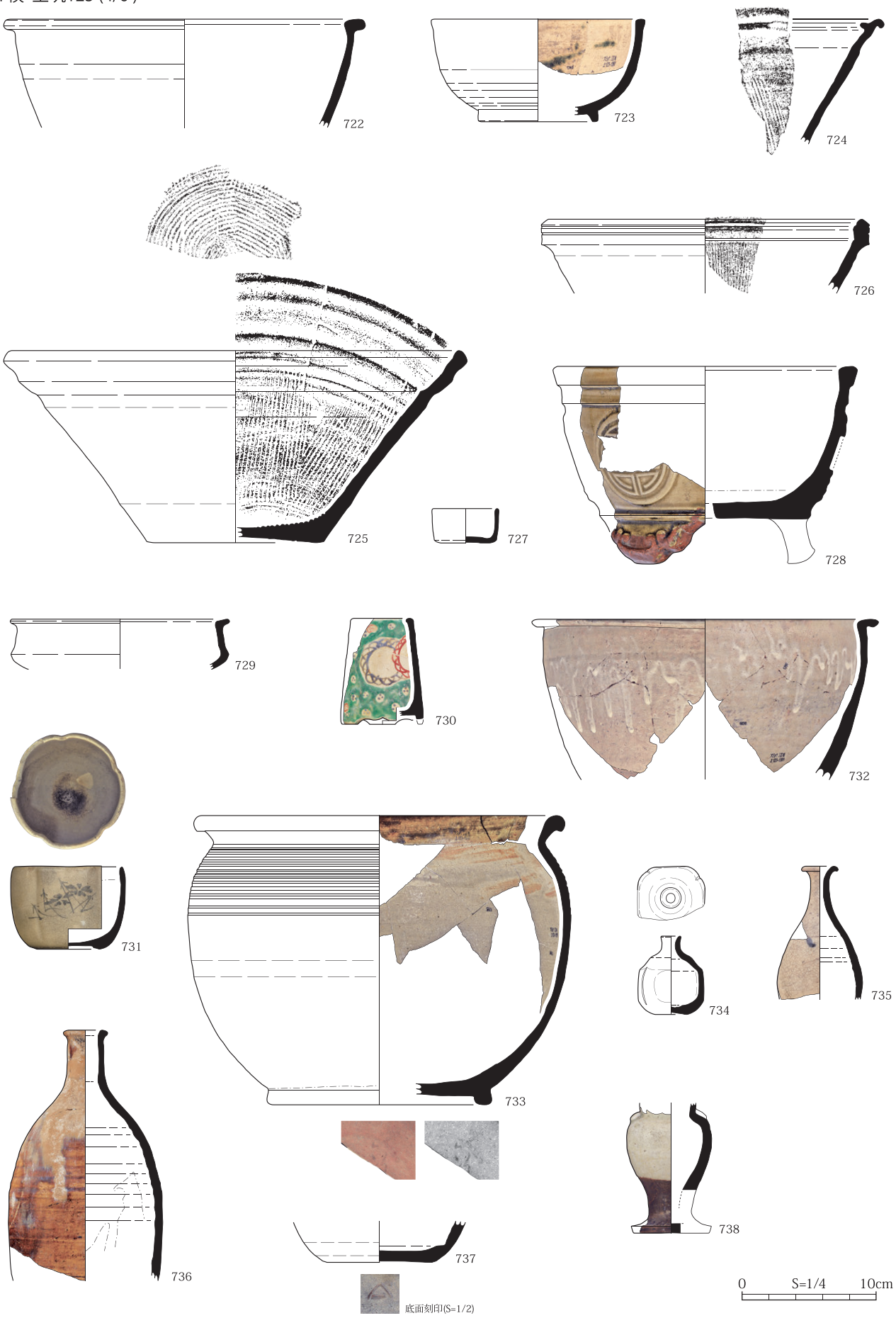


図 98　大名町 3　土器・陶磁器 (10)

II検 土坑123 (5/6)

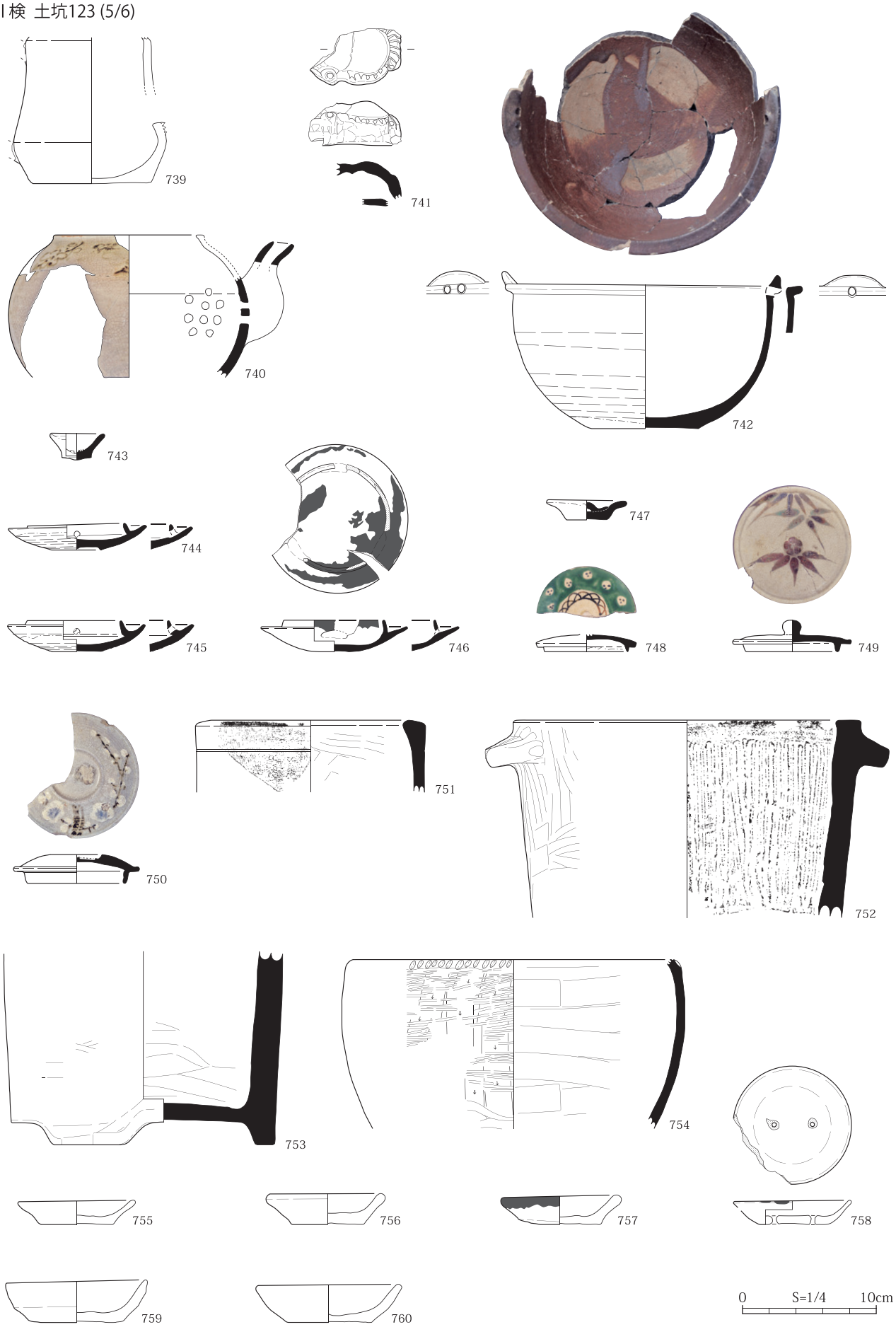


図 99　大名町 3　土器・陶磁器 (11)

図 100　大名町 3　土器・陶磁器 (12)

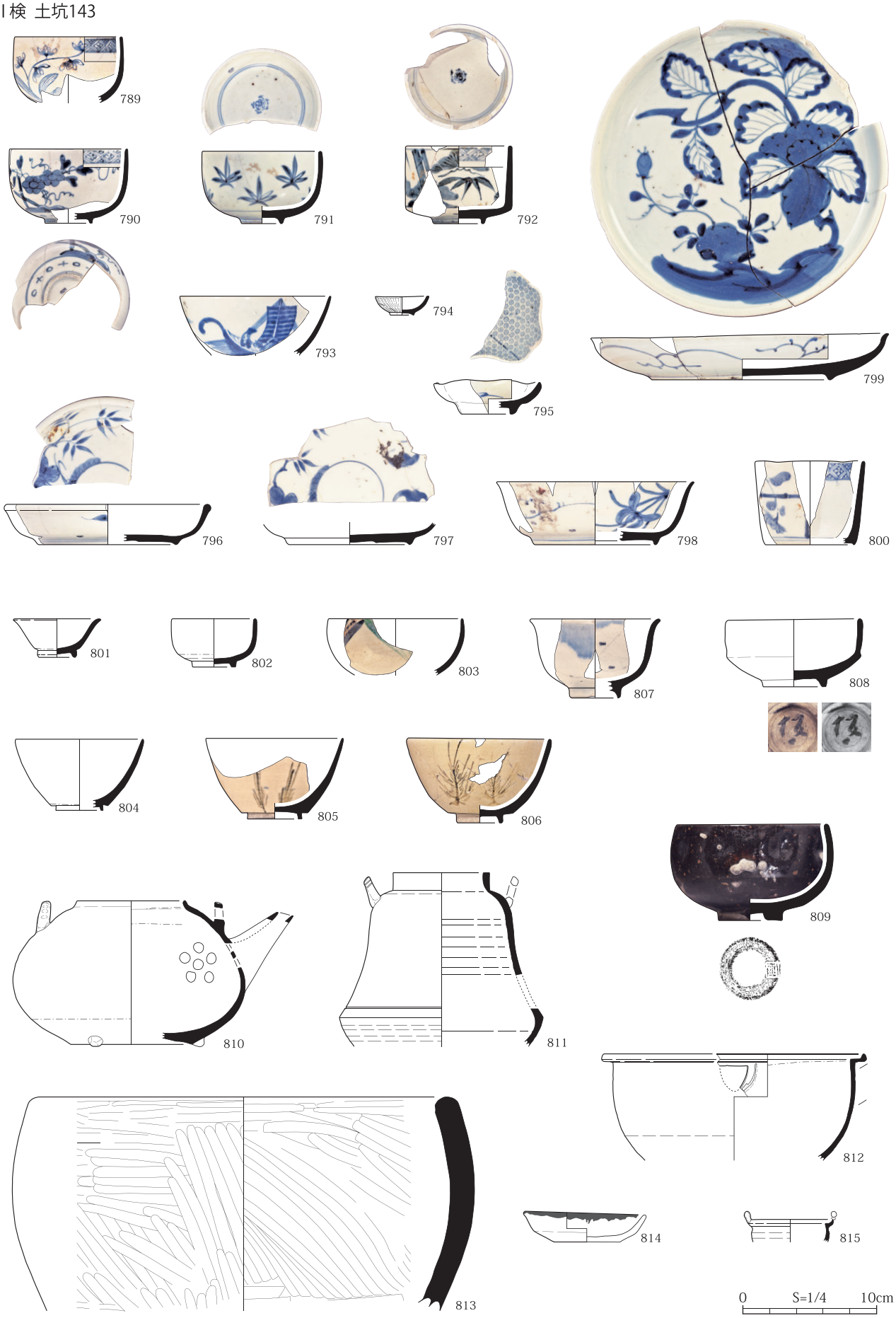


図 101　大名町 3　土器・陶磁器 (13)

図 102　大名町 3　土器・陶磁器 (14)

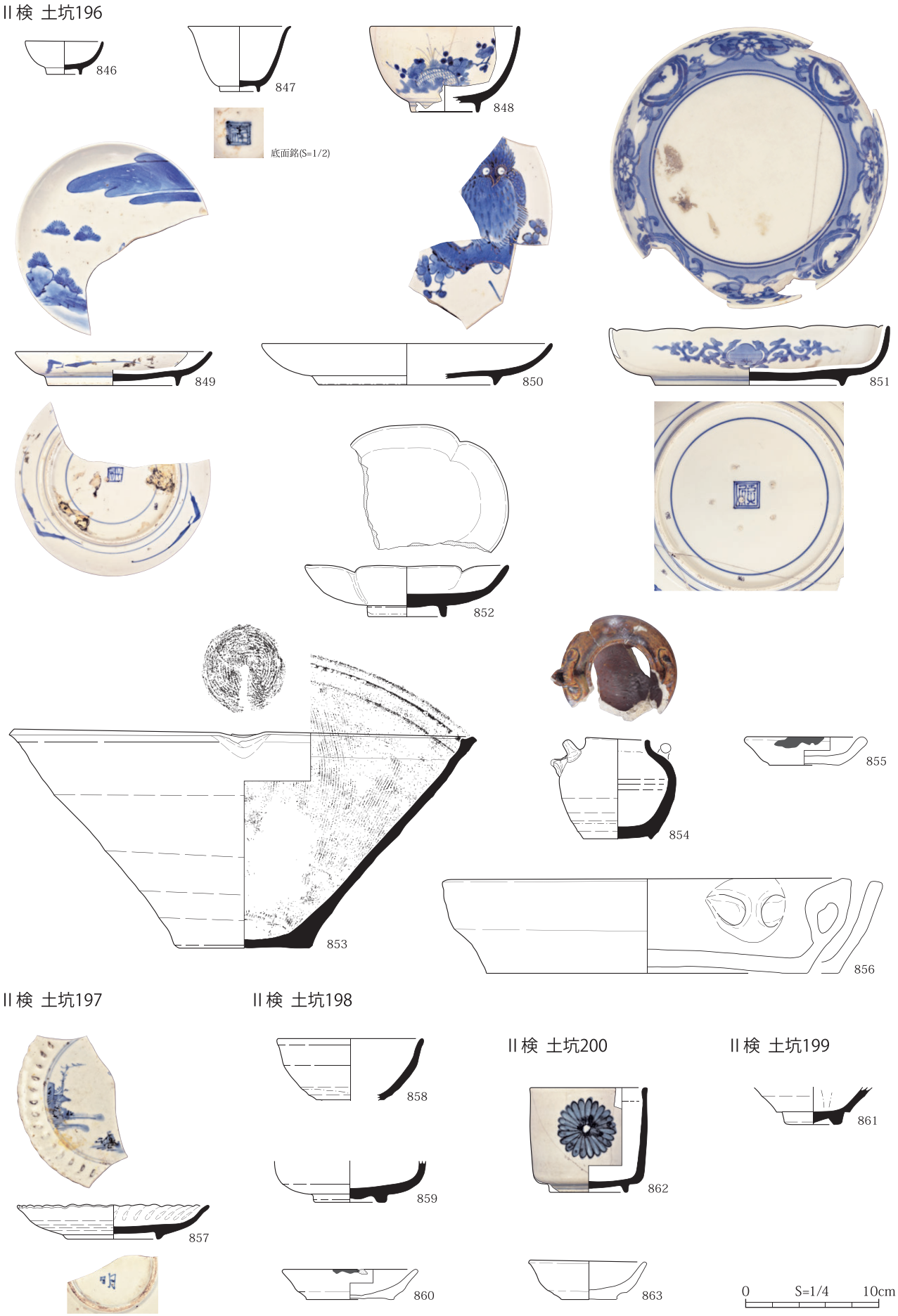


図 103　大名町 3　土器・陶磁器 (15)

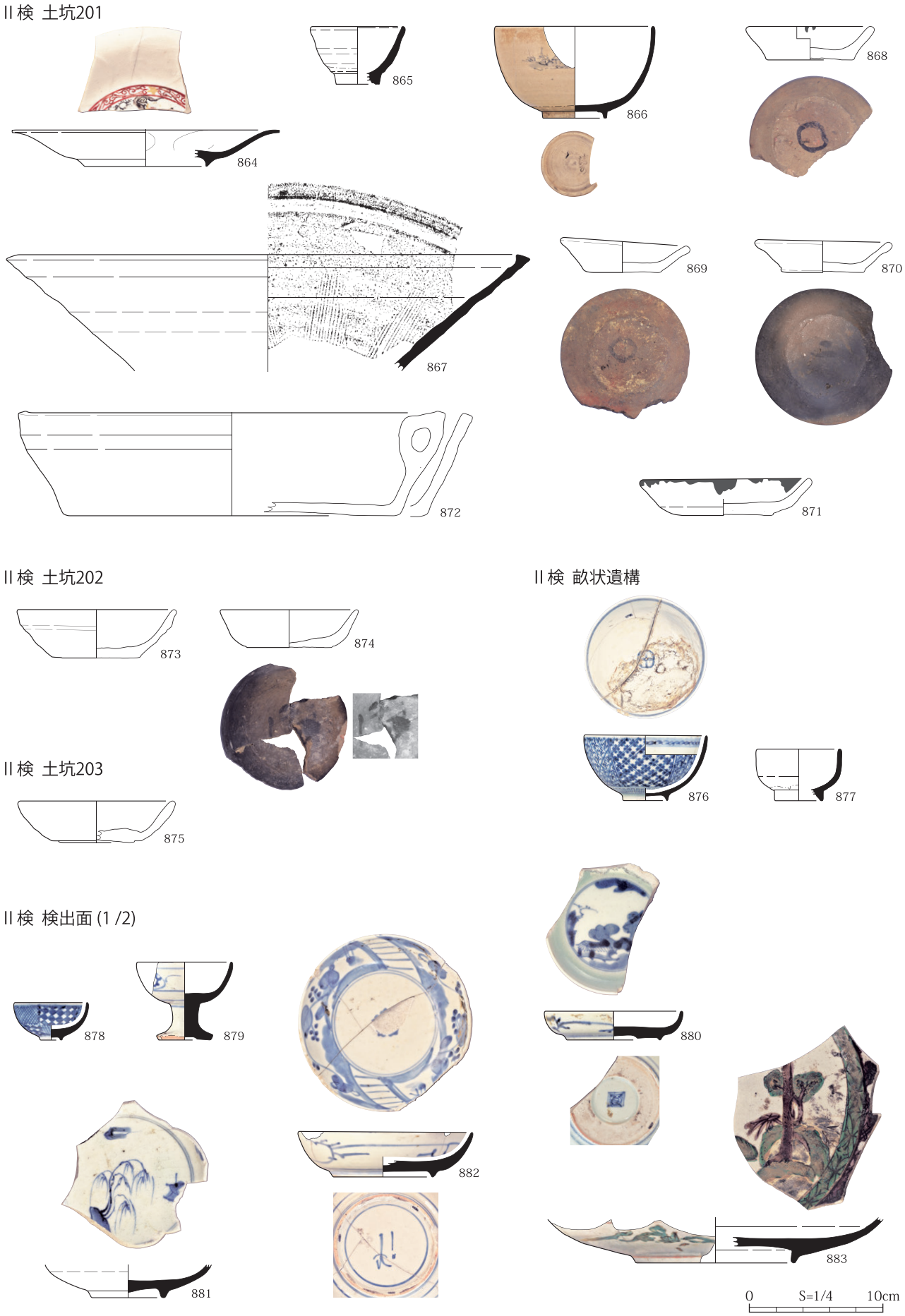


図 104　大名町 3　土器・陶磁器 (16)

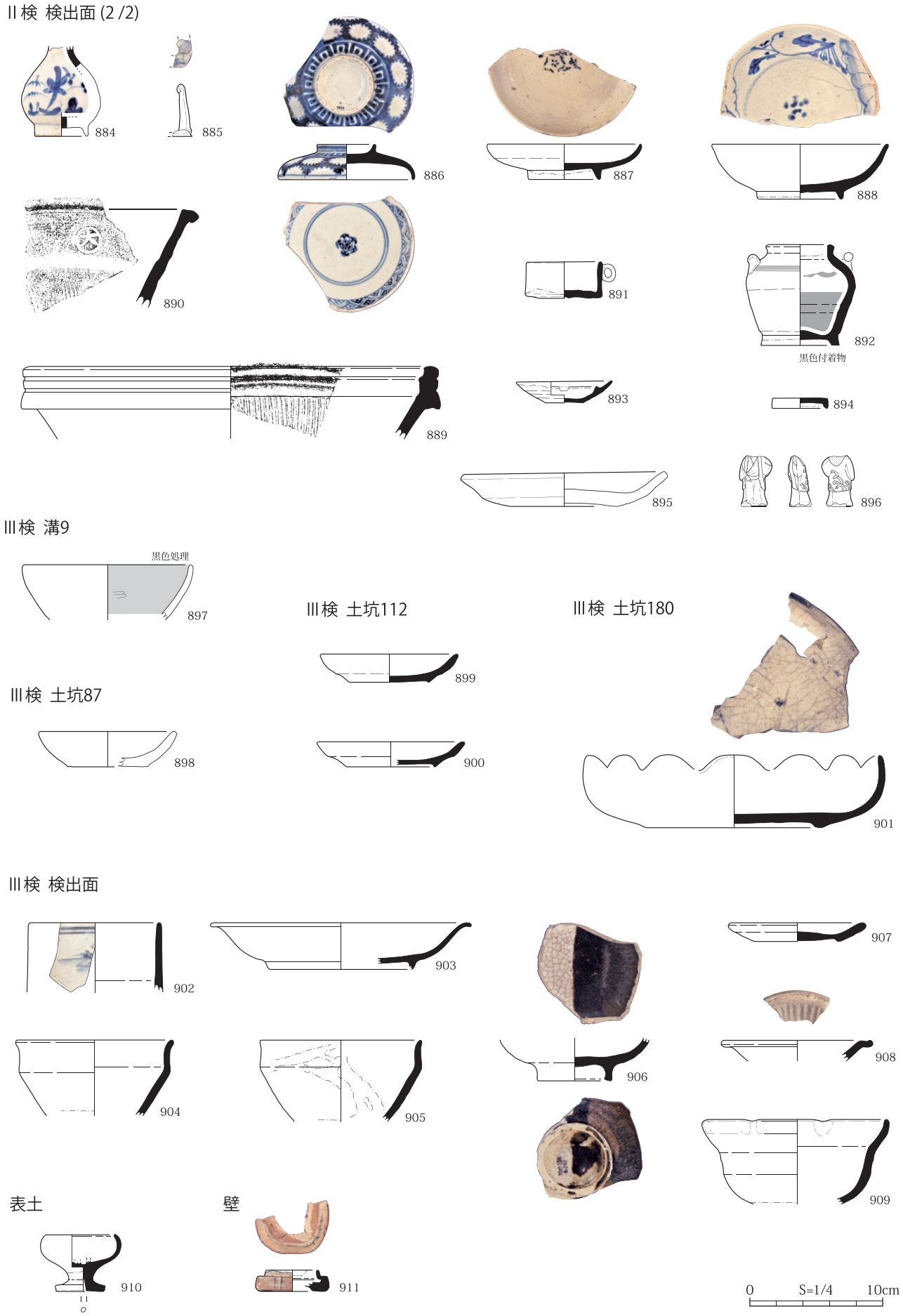


図 105　大名町 3　土器・陶磁器 (17)

第２節　瓦（表８、図 106 ～ 109、写真図版 24）

今回の調査では、大名町３、土居尻１いずれの調査地においても各検出面から瓦が出土している。本節ではこれらのうち、遺構に伴うものや共伴遺物を多く伴うもの、軒文様の残存状況が良好なものを掲載した。器形が概ね把握できる 12 点（３、17、23、24、25、30、34、46、48、52、54、55）を図化したほか、44 点の軒面を拓本で掲載した。いずれも法量は表８に記した。以下、各器種ごとに概要を述べる。

1　軒丸瓦（1 ～ 22）

22 点を掲載した。瓦当面の文様は、五七桐文、離れ六つ星文、立沢瀉文、連珠左巻三つ巴文、連珠右巻三つ巴文の５種が見られる。胴部を伴わないものが大半であったため、胴部の調整による細分は本稿では行わない。五七桐文を有す軒丸瓦は３点掲載した。いずれも土居尻１のⅢ検から出土しており、２種類（７・８が同笵）の瓦当笵が確認できている。離れ六つ星文は藩主戸田氏の家紋で、この文様を有する軒丸瓦は３点掲載した。１は５、12 と比較して一つ一つの珠点が大きく、また瓦当面に雲母粉が顕著にみられる。土居尻１Ⅲ検から出土した５、12 は１度目の戸田氏入封（17 世紀前半）に伴い製作されたもので、土居尻１Ⅰ検から出土した１は２度目の入封（18 世紀以降）に伴い製作された可能性が考えられる。立沢瀉文は藩主水野氏の家紋で、この文様を有する軒丸瓦は７点掲載した。沢瀉文の周囲に連珠文を配すもの（２・９・16・19）と配さないもの（10・18・22）とがあるが、いずれの瓦当面も細部が異なり同笵と言えるものはない。これまでの出土例から立沢瀉文に伴う連珠文の数は 15 ～ 17 のいずれかであると考えられるが、破片から断言することは困難である。今回掲載したなかで珠文の総数が明確なのは唯一 19 で 16 個である。22 の瓦当面裏には刻み十字文が見られる。連珠三つ巴文を有する軒丸瓦は９点掲載した。うち連珠が左巻のもの５点、右巻のもの４点である。巴文の尾部が長く連珠文の多い６、14 は古手のものと考えられる。それ以外のものは笵こそ異なるもののいずれも連珠文の数が 12 個で共通している。

2　丸瓦（23、24）

土居尻１北区から１点、大名町３から１点、残存状況の良好なものを図化した。いずれの凹面も布目圧痕の上から一部にタテナデがなされている。

3　軒平瓦（5 ～ 44）

推定品も含め 20 点を掲載した。瓦当面の文様は、三葉文唐草文、いわゆる東海式三葉文唐草文（以下、東海式）の２種が見られる。三葉文唐草文を有す軒平瓦は 17 点掲載した。今回掲載した三葉文唐草文は細部の形状から５種（①…34、40、41、②…26、28、29、31、38、③…25、27、30、32、33、35、36、④…42、⑤…39）に分類できる。破片資料が多く同笵と判断できるものは 27 と 33 のみである。②と⑤については駿府城から出土した瓦に極めて類似したものが確認されている[注1]。東海式の文様を有す軒平瓦は３点掲載した。同笵のものはないが、文様構成は共通している。

4　軒桟瓦（45 ～ 51）

推定品も含め７点を掲載した。軒丸部と軒平部いずれも残存する４点のうち、丸瓦部に連珠右巻三つ巴文を有し平瓦部に蔦唐草文を有するものを２点、丸瓦部に連珠右巻三つ巴文を有し平瓦部に唐草文を有するものを１点、軒文様を持たないものを１点掲載している。48 は丸瓦部瓦当面が平坦な「石持」であり、製法が近世に近いため近代の中でも比較的古いものとされる[注2]。桟瓦はいずれも江戸後期以降のものだが、なかでも無文の 51 は近代以降の比較的新しいものである。なお 51 は無文だが平瓦部に「庄」の刻印を有す。

5　その他（52 ～ 56）

鬼瓦３点、鳥衾瓦１点、冠振瓦１点の計５点を掲載した。54 は細片だが鬼面の目にあたる。55 は鬼瓦の

上に乗る鳥衾瓦で、城主水野氏の家紋である立沢瀉文を軒面に有す。56 は冠振瓦と推測され、51 と同笵の「庄」刻印を有す。

〈脚注・参考文献〉

注 1　松井一明氏に実見の上、ご指導いただいたもの

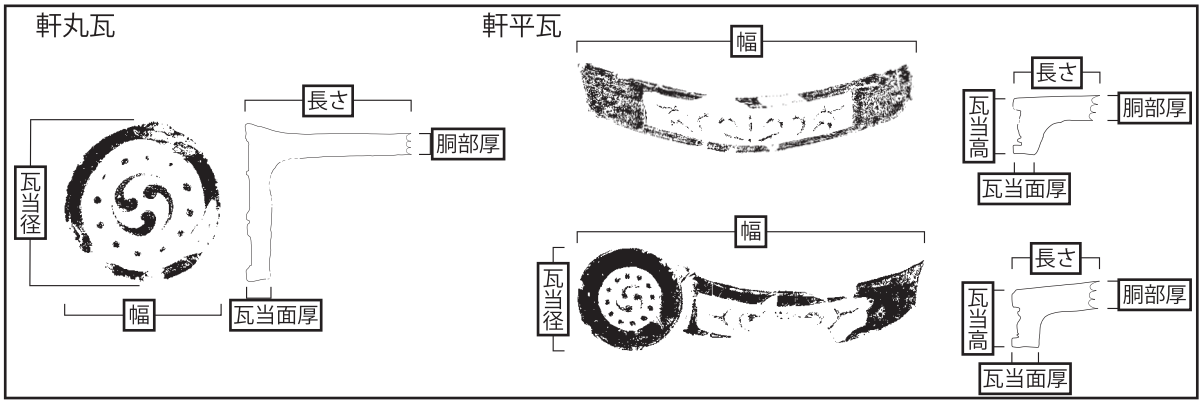
注 2　山崎吉弘　2019 「近代・現代の瓦とその多様化」『考古学ジャーナル』726

表 8　瓦一覧表

№	地区	検出面	実測番号	出土地点	器形	幅 (cm)	長さ (cm)	瓦当高・径 (cm)	胴部厚 (cm)	瓦当面厚 (cm)	重量 (g)	軒文様	特徴等
1	土 1	Ⅰ	土 1 - 瓦 -6	検出面	軒丸	-	-	(13.6)	-	2.25	176	離れ六つ星文	
2	土 1	Ⅱ	土 1 - 瓦 -8	検出面	軒丸	(14.4)	-	(14.9)	-	2.8	238	立沢瀉文	珠文 15 ～ 17 個か (現存 7)
3	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -2	池状遺構	軒丸	14.7	〈15.5〉	14.0	2.2	2.0	1078	連珠右巻三つ巴文	珠文 12 個、胴部内面調整：タテナデ
4	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -10	溝 301	軒丸	(10.1)	-	(15.0)	2.3	(2.0)	350	五七桐文	
5	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -11	溝 301	軒丸	-	-	(15.6)	-	(2.6)	148	離れ六つ星文	
6	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -13	土 421	軒丸	15.95	-	(16.0)	(2.35)	3.3	514	連珠左巻三つ巴文	珠文 22 個か (現存 15)
7	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -15	検出面	軒丸	17.8	-	17.8	-	2.7	1062	五七桐文	
8	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -16	検出面	軒丸	17.5	-	17.5	-	2.4	1038	五七桐文	
9	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -17	検出面	軒丸	(16.6)	-	(15.6)	-	2.2	350	立沢瀉文	珠文 15 ～ 17 個か (現存 6)
10	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -18	検出面	軒丸	(15.2)	〈8.65〉	(14.8)	2.2	(2.4)	650	立沢瀉文	珠文なし
11	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -19	検出面	軒丸	16.95	-	16.95	-	(2.35)	522	連珠左巻三つ巴文	珠文 12 個
12	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -20	検出面	軒丸	-	-	(14.0)	-	-	116	離れ六つ星文	
13	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -23	トレンチ	軒丸	-	-	-	-	-	202	連珠左巻三つ巴文	珠文 12 個か (現存 4)
14	土 1	Ⅳ	土 1 - 瓦 -26	検出面	軒丸	15.8	-	(15.8)	-	2.4	550	連珠左巻三つ巴文	珠文 24 個か (現存 18)
15	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -10	瓦集中	軒丸	16.4	-	16.3	-	2.55	874	連珠右巻三つ巴文	珠文 12 個
16	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -11	瓦集中	軒丸	(16.3)	-	(16.8)	-	3.6	472 ＋ 190	立沢瀉文	珠文 15 ～ 17 個か (現存 9)、非接合の同一個体あり
17	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -2	土 123	軒丸	14.2	〈25.6〉	(13.9)	2.5	-	1792	連珠右巻三つ巴文	珠文 12 個か (現存 7)、胴部内面調整：布目圧痕→タテナデ→棒状叩き
18	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -15	土 123	軒丸	15.0	-	15.0	-	2.6	704	立沢瀉文	珠文なし
19	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -16	土 123	軒丸	16.3	-	(16.0)	-	3.3	692	立沢瀉文	珠文 16 個 (現存 14)
20	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -17	土 123	軒丸	13.9	〈11.35〉	13.9	(2.0)	2.0	784	連珠右巻三つ巴文	珠文 12 個、胴部内面調整：タテナデか
21	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -18	土 123	軒丸	17.4	-	17.1	-	(2.45)	752	連珠左巻三つ巴文	珠文 12 個
22	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -29	土 123	軒丸	(14.4)	-	(14.1)	-	2.1	460	立沢瀉文	珠文なし、軒面裏に刻み十字文あり
23	土 1	Ⅳ	土 1 - 瓦 -4	土 41	丸	16.4（断面）	34.4	-	2.2	-	2238		内面：布目圧痕→一部タテナデ
24	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -3	土 123	丸	〈13.2〉(断面)	〈23.2〉	-	2.2	-	1008		内面：布目圧痕→一部タテナデ
25	土 1	Ⅰ	土 1 - 瓦 -3	検出面	軒平	〈22.5〉	〈12.3〉	4.6	2.1	2.5	966	三葉文唐草文	
26	土 1	Ⅱ	土 1 - 瓦 -9	トレンチ	軒平	(30.4)	〈14.6〉	5.5	2.1	3.1	1188	三葉文唐草文	
27	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -12	土 407	軒平	-	〈8.65〉	(4.9)	2.6	-	498	三葉文唐草文	
28	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -14	土 424	軒平	-	〈8.55〉	(5.0)	2.3	2.8	324	三葉文唐草文	駿府城出土品と同範可能性あり
29	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -21	検出面	軒平	-	〈10.5〉	(4.8)	1.7	(2.6)	534	三葉文唐草文	
30	土 1	Ⅳ	土 1 - 瓦 -5	土 543	軒平	29.4	〈21.4〉	5.2	2.5	1.95	2080	三葉文唐草文	
31	土 1	Ⅳ	土 1 - 瓦 -24	土 543	軒平	-	-	-	-	2.3	140	三葉文唐草文	
32	土 1	Ⅳ	土 1 - 瓦 -25	方形石列	軒平	-	-	-	-	(2.8)	172	三葉文唐草文	
33	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -9	焼土 15	軒平	-	-	-	-	(2.5)	278	三葉文唐草文	
34	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -4	土 123	軒平	(30.3)	〈10.4〉	4.85	2.1	2.1	1190	三葉文唐草文	
35	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -19	土 123	軒平	29.55	〈18.9〉	(5.0)	2.3	(3.1)	2224	三葉文唐草文	
36	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -20	土 123	軒平	30.8	〈15.6〉	(5.0)	2.75	(3.2)	2262	三葉文唐草文	
37	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -21	土 123	軒平	(29.8)	〈21.65〉	(4.7)	(2.1)	(1.8)	1496	三葉文唐草文 (東海式)	
38	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -22	土 123	軒平	(26.0)	〈21.1〉	4.9	1.9	2.3	1452	三葉文唐草文	
39	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -23	土 123	軒平	(27.2)	〈9.6〉	4.7	2.3	1.9	842	三葉文唐草文	駿府城出土品と同範可能性あり
40	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -24	土 123	軒平	(30.0)	〈12.0〉	(5.0)	1.85	(2.0)	560	三葉文唐草文	
41	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -25	土 123	軒平	-	〈9.4〉	(4.8)	(2.1)	(2.5)	498	三葉文唐草文	
42	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -26	土 123	軒平	(29.4)	〈7.75〉	(5.4)	2.8	(2.9)	662	三葉文唐草文	
43	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -28	土 123	軒平	(30.6)	〈5.4〉	(4.9)	1.9	(2.1)	378	三葉文唐草文 (東海式)	
44	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -8	焼土 15	軒平か	-	〈5.7〉	4.3	2.0	1.85	282	三葉文唐草文 (東海式)	
45	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -22	検出面	軒桟	-	-	丸瓦部：8.6 平瓦部：(4.7)	1.7	-	360	丸瓦部：連珠右巻三つ巴文 平瓦部：唐草文か	丸瓦部珠文 12 個
46	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -1	瓦集中	軒桟	29.6	〈27.5〉	丸瓦部：9.2 平瓦部：(4.7)	1.8	丸瓦部：2.35 平瓦部：(1.7)	2092	丸瓦部：連珠右巻三つ巴文 平瓦部：蔦唐草文	
47	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -12	瓦集中	軒桟	〈25.85〉	-	丸瓦部：(8.4) 平瓦部：4.5	丸瓦部：2.0 平瓦部：1.9	丸瓦部：2.4 平瓦部：2.25	440	丸瓦部：連珠右巻三巴文平 瓦部：蔦唐草文	珠文 12 個 (現存 4)
48	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -30	瓦集中	軒桟	〈19.6〉	-	丸瓦部：8.9 平瓦部：(5.6)	1.7	丸瓦部：2.1 平瓦部：(1.7)	622	文様なし	石持軒桟瓦（瓦当面平坦）
49	土 1	Ⅰ	土 1 - 瓦 -7	検出面	軒桟か	-	-	(5.3)	-	2.2	154	蔦唐草文	
50	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -6	土 59	軒桟か	-	-	4.5	-	2.0	72	三葉文唐草文 (東海式)	軒面の雲母粉著しい
51	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -13	瓦集中	軒桟か	〈19.7〉	-	5.6	1.7	1.6	448	文様なし	刻印あり「庄」
52	土 1	Ⅲ	土 1 - 瓦 -1	土 407	鬼	〈12.5〉	8.6	-	-	1.8	560	鬼	
53	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -7	土 84	鬼	〈33.2〉	14.2	-	-	-	2180		
54	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -27	土 123	鬼	-	-	-	-	5.9（鬼面）	296	鬼面	
55	大 3	Ⅱ	大 3 - 瓦 -5	土 123	鳥衾	14.6	〈8.1〉	14.9	-	1.3	918	立沢瀉文	
56	大 3	Ⅰ	大 3 - 瓦 -14	瓦集中	冠振か	-	〈5.25〉	-	-	-	180		刻印あり「庄」

※ (　) 内数値は推定値、〈　〉内数値は残存値をそれぞれ表す
※土 1 は土居尻 1、大 3 は大名町 3 を表す

凡例図



軒丸瓦

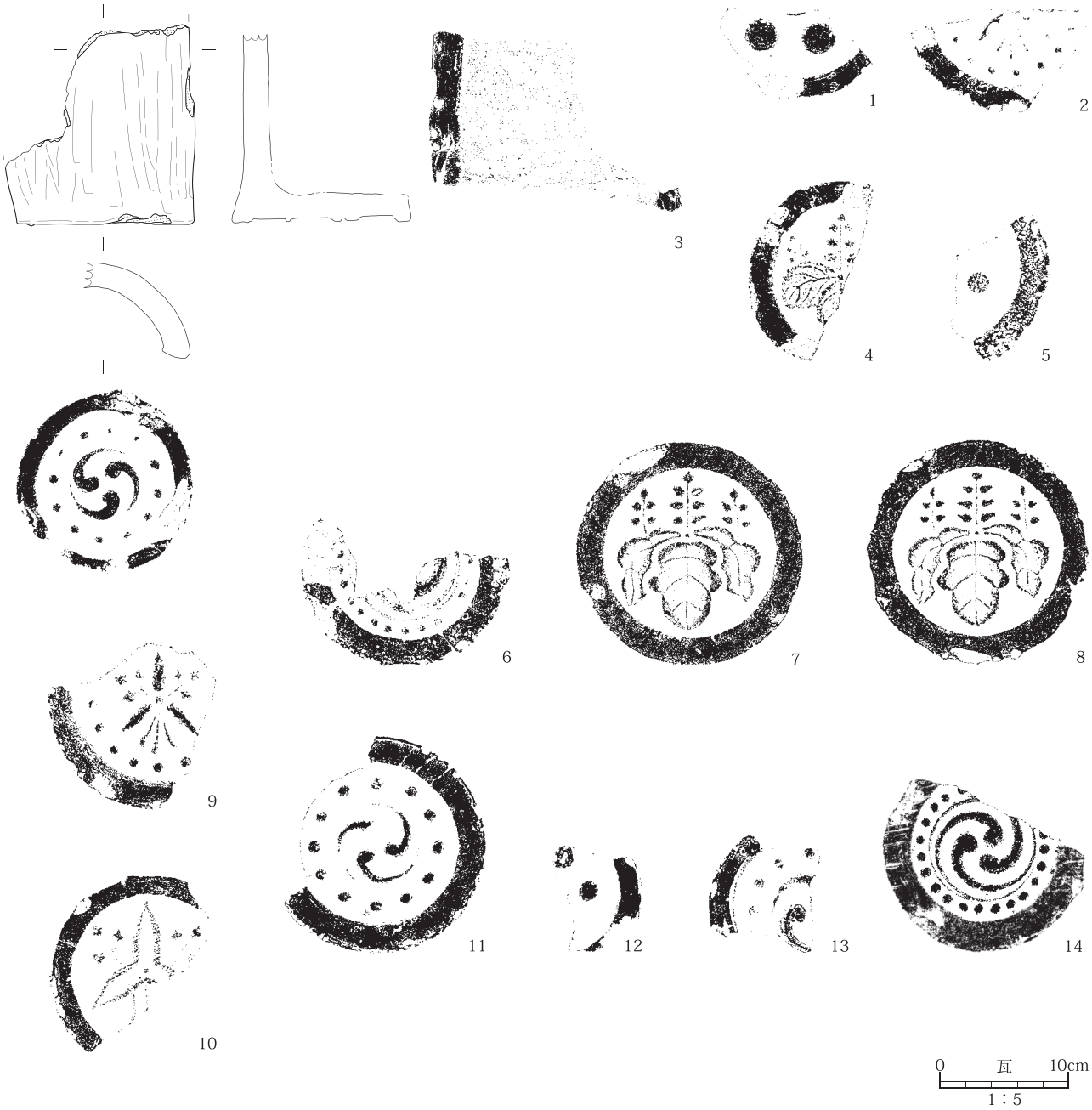


図 106　瓦　(1)

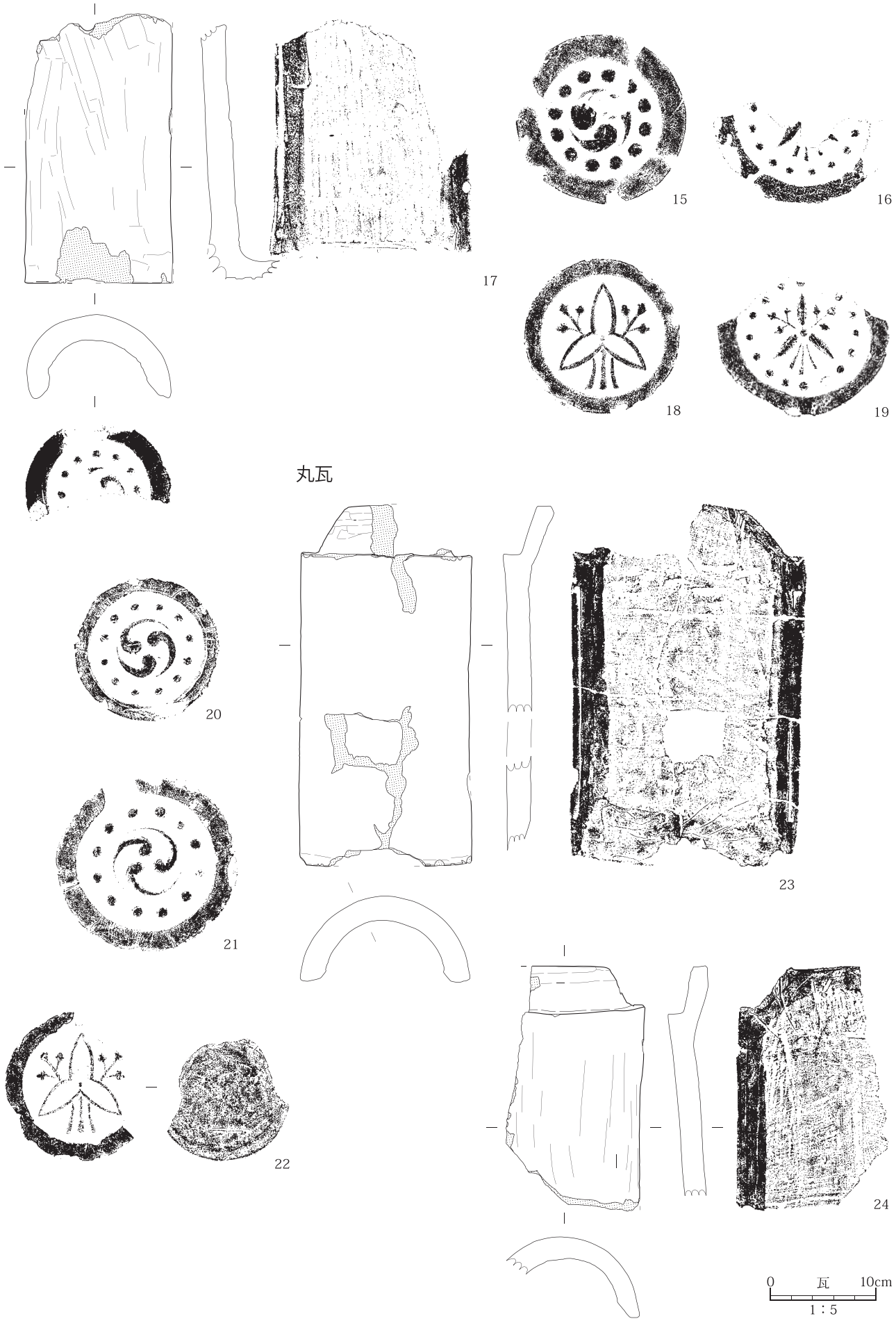


図 107　瓦　(2)

軒平瓦

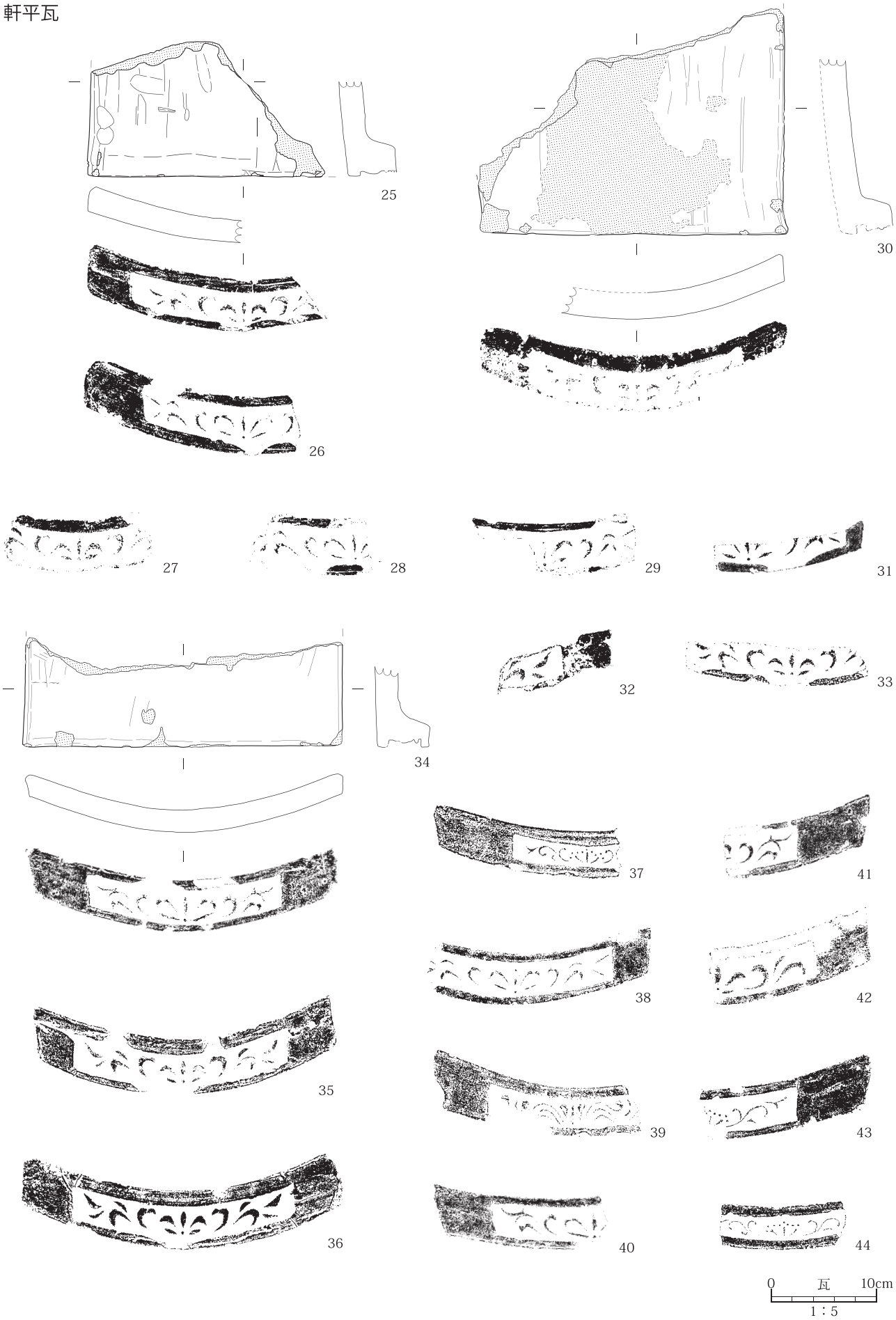
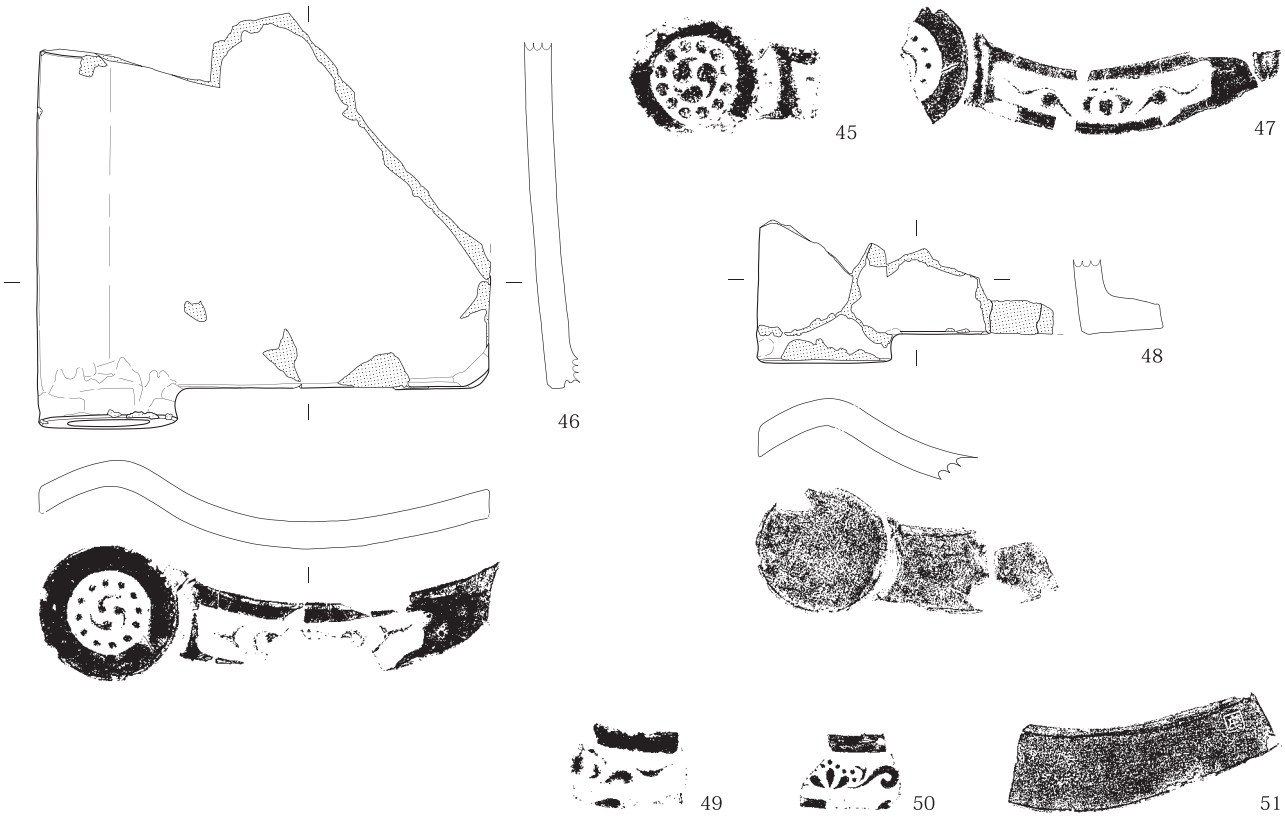


図 108　瓦　(3)

軒桟瓦



その他の瓦

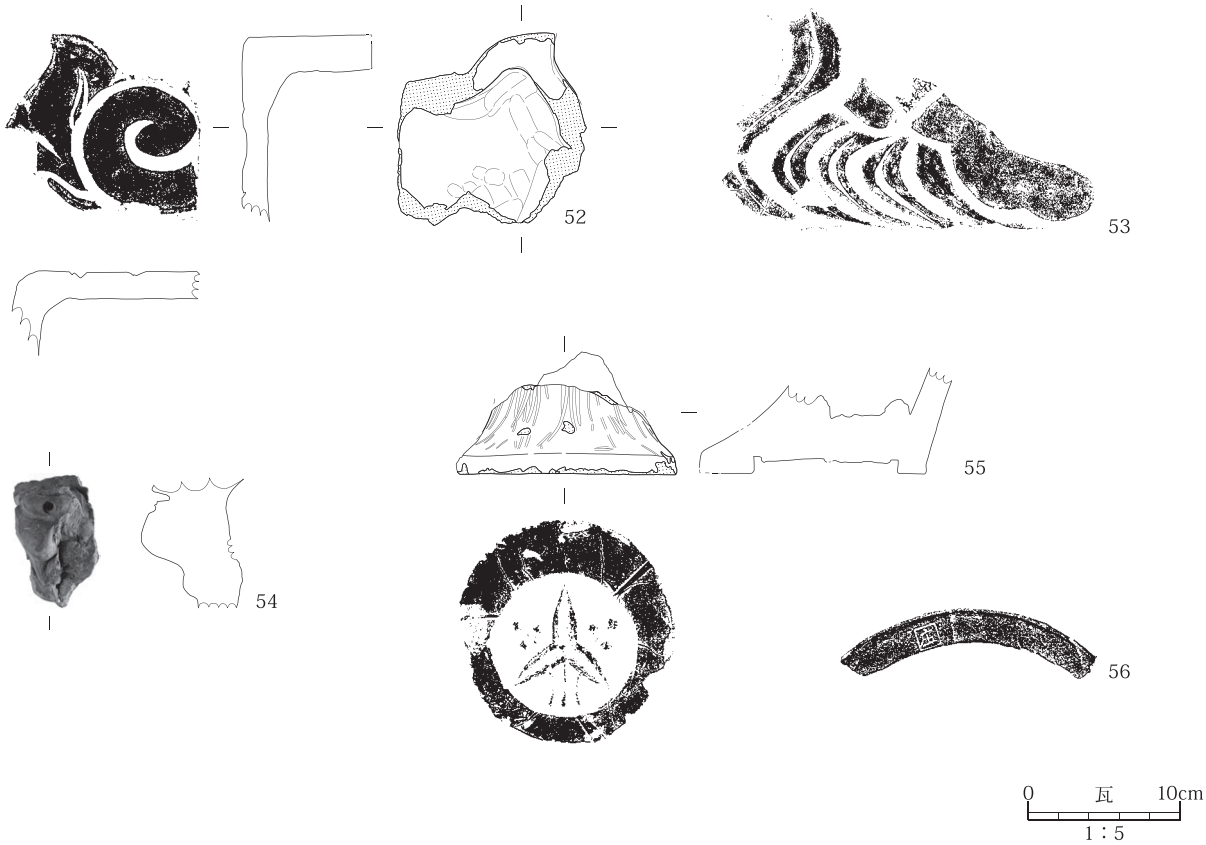


図 109　瓦　(4)

第３節　木製品（表９、図 110 ～ 112、写真図版 19・20）

土居尻１出土の木製品については、松本市文化財課調査報告№ 169「長野県松本城三の丸跡 土居尻第１次 緊急発掘調査報告書 ～遺物編２（木器編）～」にて詳細が記されている。よって、ここでは大名町３から出土した木製品のみを取り上げる。

大名町３出土の木製品を分類別にみると、工具 23、農耕土木具 4、紡織具 5、服飾具 59、容器 209、調理加工具 35、食事具 12、調度 6、祭祀具 8、日用品 26、文房具 28、建築部材 17、用途不明品・その他 110 の総数 542 点である。このうち遺存状態の良好な遺物 55 点を図示し、分類別に詳細を述べる。なお、塗漆された木製品や漆工用具については「第４節　漆器・漆工用具」にて報告する。

1　工具

楔（1）　径 4cm 弱の枝を加工した、打割製材用の楔（箭）である。頭部木口は鋸で切断し、表裏を刃物で平行に削いだ後、先端を尖らせる。先端は使用により潰れる。

2　紡織具

紡錘車（2・3）　いずれも紡錘車の紡輪である。中心に軸（紡茎）を差し込むための穿孔をもち、軸は残存しない。2 は加工が非常に丁寧で、外縁最大径は 44㎜を測る。穿孔の径は 12㎜と大きく、太い軸と組み合わせて使用されていたことが想定される。表面には同一方向に流れる条痕が複数みられる。3 は厚手で、加工は粗雑である。外縁最大径は 53㎜、穿孔径は最大 7㎜を測る。表面には 2 と同様、条痕が複数みられる。

3　服飾具

連歯下駄（4 ～ 7）　4 は銀杏歯の高下駄である。台部は長円形で、指頭・指腹圧痕が明瞭に残る。後歯左側面には焼印が残る。5 の台部は隅丸方形に近い、幅広の長円形である。眼は方形で、周囲は磨滅する。6 は高下駄で、側面からみると歯は歯元にいくにつれて幅広になる。台部は隅丸方形で、台表には焼印で文様が描かれる。眼は菱形に刳られる。7 は高下駄で、台部は長円形である。こちらも台表に焼印で文様が描かれ、眼は方形、右横緒孔は菱形である。後歯を欠損するが、鉄の角釘で補修した跡がみられる。

刳り下駄（8・9）　小型のため子供用と思われる。台部は長円形で、末広の歯をもつ。9 は眼が大きく不整形で、鼻緒は木釘で留めたようである

差歯下駄（10）　台裏の桟に穿たれたホゾ穴に別材の歯を差し込んだ差歯下駄である。ホゾ穴は台表まで突き抜けるため、露卯下駄に分類される。台部は長円形で、横断面は船底形である。指頭圧痕が明瞭に残り、台裏前方は使用によって磨り減る。

板草履（11）　11 は眼がなく、畳を留めた 2㎜程度の穿孔が周囲をめぐる。穿孔は 2 つで 1 組となり、9 組穿たれる。台部は隅丸方形で、台裏に抉りがなく、横断面は長方形である。

4　容器

桶（12・13）　12 は桶の側板で、二枚残るが直接には連続しない。墨痕から、複数枚の側板にまたがって文字が記されたことがわかる。13 も桶の側板である。中央で縦方向に割れるが、墨で「呉」と記されているのがわかる。

曲物（14･15）　14 は曲物の蓋で、下半を欠損する。墨書より、納豆を入れた容器であったことがわかる。15 は曲物の底板で、側面 1 か所に木釘が刺さる。中心に「原」の一字のみ記される。元禄３～９年（1690

～ 1696）に描かれた『元禄年間松本並びに家中屋敷図』によると、本調査地内東側は「原介右衛門」という武士の屋敷地であり、曲物の所有を示すために記されたと推測する。

5　調理加工具

箆（16）　両端に向かって薄く削り出した箆で、特に箆部は表面を薄く削いで整形する。柄は丁寧に面取りをし、横断面は楕円形を呈する。

狭ヒ（17・18）　17 は小型の狭ヒで、箆部先端は鋭く尖らせる。柄の先端は圭頭状で、横断面は方形を呈する。18 の箆部は緩やかな弧を描き、丁寧に削り出す。柄は丸棒状である。

6　食事具

匙（19）　左半部を欠損し、柄は付け根のみ残存する。椀部の裏面は何度も面取りするが、内面はやや粗く刳り抜く。

7　祭祀具

形代（20）　20 は人形である。角材を面取りした立体人形で、顔の輪郭はＶ字状に切り欠くことで胴との境を示す。鼻は墨書、目と口は削りを入れた溝を墨でなぞって表現する。横断面は蒲鉾状で、頭部・下端部の木口は扁平である。

斎串状木製品（21・22）　下半部を下方に向けて薄く成形する。下端を尖らせており、斎串に似た形状を呈するが、用途は不明である。

羽子板状木製品（23）　23 は一手切りの縁取りをもつ。羽子の打痕はみられない。祭祀用か。

8　日用品

栓（24 ～ 26）　24 は握り部を円筒状に削り出し、栓部は先端に向かって細くなる。先端より 2㎝程度差し込んで使われたようで、圧痕が強く残る。25 は握り部と栓部との境界がなく、先端に向かって緩やかに細くなる。26 は木口が扁平でなく、頭部は山形、先端は半球状である。全体に細長い。

9　文房具

木簡（27 ～ 40）　27 は右辺及び最下端部を欠損する。下部は刃物によって斜め方向に切断されており、二次的な加工の可能性がある。墨書は肉眼でも観察可能であるが、三文字目以降は欠損により判読不能である。28 は追柾目の板材で、表面に三行、裏面に二行、仮名交じりの墨書が記される。29 は下端を尖らせ、表面に一行、裏面に二行の墨痕が認められるが判読不能である。30 は指物の側板か。墨痕は判然とせず判読不能である。31 は下端を尖らせる。裏面の墨痕は不鮮明で判読不能である。32 は下部右側を一部小口を残して斜め方向に切断する。33 は下端を尖らせる。表面に記される「池田宿」は、松本城下と越後の糸魚川を結ぶ千国街道に置かれた宿場である。中世以前に成立した宿場町であり、盛んな物資輸送の往来により商業の町としても栄えていた。「池田」という地名は、現北安曇郡池田町にて室町時代初期よりみられる。34 は柾目の板材で、全体に墨痕が残るが、文字であるかは判然としない。35 は上端切断、下端を切り折りによって整形される。36 は下端を尖らせるが、僅かに欠損する。37 は下端を尖らせる。裏面一行目に記される「神林村」は、現松本市神林にあった村である。38 は上端を圭頭状に加工した、笹塔婆の形状を呈する木簡である。「島内村」は 1875 年からみられる地名であり、1954 年には松本市に編入されることから、木簡の使用・廃棄は近代以降となる。39 は下端を細くする。40 は中央に径 2㎜程の穿孔をもつ。表面に梵

字のような字が二文字確認できるが、判読不能である。

付札（41 ～ 43） 41 は左半を欠損する付札である。上方に釘孔または紐などを通すための穿孔が穿たれていた痕が残る。欠損のため全ての文字を捉えることはできないが、表面に「松本本願寺」の字が焼印にて記される。かつて本調査地にあった、本願寺松本別院に関わるものであったか。42 は上下両端を半円形に加工した長円形の付札で、全周囲を削りにより丁寧に整形する。上端に径 10㎜の穿孔をもつ。43 は上端に径 2㎜の穿孔をもち、下端は尖らせる。上部に「井桁」の紋が記されるが、本調査地の北隣に屋敷を構えていた板橋氏が「井桁」の家紋を使用していたことが松本城下の絵図にて確認できるほか、「板」の文字が確認できることから、板橋氏に関わる付札であると考えられる。ほかに、次節の図 No.37 の漆椀の高台見付にも同様に井桁紋が漆絵によって描かれる。

荷札（44 ～ 53） 44・45 ～ 47 はいずれも「納方」と記されることから、物品の納入に関わる荷札と考えられる。下に続く人名は、納方役人の名か。44 は下端を欠損する。同一遺構からは「池田宿」の記載のある木簡 33 が出土している。45 は下端を尖らせる。永高を用いた銭納入の荷札か。46 は上端左側及び下端を欠損する。表裏両面に二行の墨書が認められ、表面に日付・人名が記されるが、裏面一行目は欠損により判読不能である。47 は完形だが、中央で折れる。下端を尖らせる。裏面の「下新」は現松本市新村にみられる地名である。48 は上端に径 2㎜の穿孔及び左右に切り込みをもつ。上端左側を欠損するが、恐らく四隅すべてを切り落とす隅切り加工がされていたと思われる。裏面に記される「松平丹波」は、松本藩主であった戸田家が歴代名乗っていた名である。戸田家による松本藩の統治は元和 3 年～寛永 10 年（1617 ～ 1633）と享保 11 年～明治元年（1726 ～ 1868）の二期に分かれるが、共伴する陶磁器から後者の時期に使用された荷札であると考えられる。49 は下端を尖らせる。表裏両面、横方向に表面調整のための工具痕が多数みられる。表面の「狐島村」は旧安曇郡にあった村で、下に銭の金額、裏面には人名が記される。50 は上端に径 3㎜の穿孔をもつ。下端両側を欠損するため裏面下部の墨書を一部欠くが、表裏面共に同じ内容であることから、「衛門」と続くと推測する。二名の人名が記されるが、松本城下の絵図によると「板橋大蔵」は前述したように本調査地の北隣に屋敷があり、「鮎貝十郎左衛門」は調査地内東側に居住していた武士であったことがわかる。51 は下端を尖らせる。表裏両面、横方向に表面調整のための工具痕が多数みられる。52 は上端の左右に切り込みを入れ、下端は尖らせるが、わずかに欠損する。「注文」とあるが、下に続く墨書は不鮮明であり判読不能である。物品調達の荷札か。53 は上端の左右に切り込みを入れた方形の荷札であるが、墨書は判読不能である。

10　用途不明品

不明（54・55） 54 は砥石台か。方形の窪みは鑿で刳られており、砥石を嵌め込んだか。下部は先端に向けて細く加工される。裏面はやや丸みを帯び安定しない。55 はみかん割りの杭を転用したものか。下端部は被熱するが、これは杭として使用する際に腐食するのを防ぐために敢えて炭化させたものと考えられる。一面には鋸で菱格子文様が挽かれる。格子文様には子孫繁栄や無病息災といった子供の成長を願う厄除けや祭祀的な意味が込められる場合があるが、用途は不明である。

表９　木製品一覧表

図No.	ID	出土		種別			手法		寸法(cm)			破損状況	備考 / 墨書釈文
		面	遺構	分類	器種	細分	材	木取	長 / 口径	幅 / 底径	厚 / 高		
41	Ⅰ-12	Ⅰ	溝 16	用途不明品	不明	-	板材	追柾目	8.80	(3.30)	0.60	不明	「松本本願寺」の焼印、左半欠損
27	Ⅰ-19	Ⅰ	瓦集中部	文房具	木簡	-	板材	柾目	(13.00)	(6.60)	0.70	不明	「一同□」
17	Ⅱ-21	Ⅱ	溝 7	調理加工具	狭ヒ	-	板材	柾目	16.40	0.90	0.30	完形	箆部先端鋭利に加工、下端二方向より尖らす
37	Ⅱ-32	Ⅱ	溝 15	文房具	札	-	板材	柾目	16.90	3.40	1.00	完形	・「一駄少着門　　」/・「　神林村　義□」
42	Ⅱ-50	Ⅱ	土 52	文房具	荷札	-	板材	柾目	17.10	4.50	0.40	完形	「。[　　]口□□」
28	Ⅱ-52	Ⅱ	土 52	用途不明品	板状製品	-	板材	追柾目	32.50	(12.00)	0.70	不明	・「曲□[　　]/　□淵村□□/　[　　]」 ・「　め　山十ノ者/　行先 」
39	Ⅱ-61	Ⅱ	土 98	文房具	木簡	-	板材	板目	16.20	34.00	0.40	完形	・「鈴原□村征兵衛」/・「梶濃□五宛□□」
44	Ⅱ-73	Ⅱ	土 123	文房具	札	-	板材	追柾目	(18.70)	2.20	0.55	ほぼ完形	「納方触　儀右衛門/　池田御村中下　傳兵衛」
29	Ⅱ-77	Ⅱ	土 123	文房具	木簡	-	板材	板目	(16.80)	2.70	0.35	ほぼ完形	墨書判読不能
48	Ⅱ-79	Ⅱ	土 123	文房具	札	-	板材	板目	13.50	2.60	0.70	完形	・「。<椋口［　　］門□」 ・「。<松平丹波様□□村□□七」
45	Ⅱ-81	Ⅱ	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	18.80	2.80	0.50	完形	・「納方飯田定［　　］衛」/・「永四百拾　」
46	Ⅱ-82	Ⅱ	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	(14.10)	4.00	0.45	不明	・「十月十一/　納方樋口住兵衛 ・「　□/　古之□行　重□
1	Ⅱ-83	Ⅱ	土 123	工具	楔	-	棒材(芯持ち)	削り出し	12.30	3.70	2.10	完形	上端切断、下端２方向から尖らせる
24	Ⅱ-95	Ⅱ	土 123	日用品	栓	-	棒材	削り出し	上部径 3.1 下部径 1.5～1.6	-	6.20	完形	下端より 2.3cm内側に窪み
30	Ⅱ-112	Ⅱ	土 123	文房具	木簡	-	板材	柾目	(16.70)	3.20	0.50	不明	表面「丸に松」の焼印、裏面墨書、指物の側板を転用したか
31	Ⅱ-113	Ⅱ	土 123	文房具	木簡	-	板材	板目	15.10	2.70	0.65	完形	・「丁里場[　　]」/・「□　　」
32	Ⅱ-114	Ⅱ	土 123	文房具	木簡	-	板材	追柾目	13.10	2.30	0.90	完形	・「逆番勺得　」/・「[　　]」
47	Ⅱ-115	Ⅱ	土 123	文房具	荷札	-	板材	板目	17.90	2.90	0.70	完形	・「納方飯田　」/・「下新代官人」
49	Ⅱ-116	Ⅱ	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	18.30	2.90	0.80	完形	・「狐島村□四百五文」/・「罷越兵右衛門　」
8	Ⅱ-126	Ⅱ	土 123	服飾具	刳り下駄	-	角材	四方柾	17.10	7.40	3.10	完形	断面台形
10	Ⅱ-129	Ⅱ	土 123	服飾具	露卯下駄	-	角材	二方柾	21.10	9.10	5.60	前歯一部欠損	銀杏歯、台部断面台形、指頭・指腹圧痕、穿孔４か所歯：板材柾目
11	Ⅱ-130	Ⅱ	土 123	服飾具	無眼下駄(草履下駄)	-	板材	板目	22.80	8.40	1.40	完形	周縁に穿孔 18 か所(φ２～3㎜)
33	Ⅱ-153	Ⅱ	土 123	文房具	荷札	-	板材	板目	20.80	2.50	0.45	完形	・「池田宿□番重□」/・「　右帰□□□　」
2	Ⅱ-174	Ⅱ	土 123	紡織具	紡錘車(紡輪)	-	板材	板目	4.20	-	0.60	完形	中心に穿孔(φ 12㎜)
26	Ⅱ-176	Ⅱ	土 123	日用品	栓	-	棒材	削り出し	上部径 2.6 下部径 1.8	-	10.20	完形	上端圭頭状、下端木口切り落とし
9	Ⅱ-194	Ⅱ	土 125	服飾具	無眼下駄(草履下駄)	-	角材	四方柾	16.40	6.40	2.90	ほぼ完形	下地処理なし、黒漆僅かに残、畳目残、草履部分僅かに残、かかと部に鉄釘残
34	Ⅱ-216	Ⅱ	土 143	用途不明品	板状製品	-	板材	追柾目	15.70	7.90	2.30	ほぼ完形	墨書判読不能
35	Ⅱ-224	Ⅱ	土 143	文房具	木簡	-	板材	板目	16.90	2.70	0.55	完形	「白[　]」
50	Ⅱ-225	Ⅱ	土 143	文房具	付札	-	板材	柾目	24.30	3.20	0.65	ほぼ完形	・「。板橋大蔵方●鮎貝十郎左衛門」 ・「。板橋大蔵方●鮎貝十郎左□〔衛カ〕×」
36	Ⅱ-233	Ⅱ	土 143	文房具	木簡	-	板材	板目	(15.50)	3.70	0.55	ほぼ完形	「椋穴
43	Ⅱ-234	Ⅱ	土 143	文房具	札	-	板材	板目	(19.60)	2.60	0.65	ほぼ完形	「。＃板
3	Ⅱ-236	Ⅱ	土 143	紡織具	紡錘車	-	板材	板目	最大 5.3	-	0.80	完形	中心に穿孔(φ 6㎜)
12	Ⅱ-270	Ⅱ	土 143	容器	桶(側板)	結物	板材	板目	不明	不明	23.60	不明	「□　/　□」
13	Ⅱ-271	Ⅱ	土 143	容器	桶(側板)	結物	板材	柾目	(25.30)	5.90	0.70	不明	呉
51	Ⅱ-272	Ⅱ	土 143	文房具	札	-	板材	柾目	15.80	2.90	0.75	完形	・「包荷ニ而出　〆」/・「十月十二日　調」
25	Ⅱ-290	Ⅱ	土 143	日用品	栓	-	棒材	削り出し	上部 2.9 下部 2.2	-	4.60	完形	下部に刃物痕
38	Ⅱ-337	Ⅱ	土 196	文房具	札	-	板材	柾目	(16.00)	3.00	0.75	不明	・「嶋内領南氷室中/・「島内村□越之丞
52	Ⅱ-339	Ⅱ	土 196	文房具	札	-	板材	柾目	(17.60)	4.10	0.40	不明	・<　藤十郎/・<注文[　　]□□
14	Ⅱ-340	Ⅱ	土 196	容器	蓋板	-	板材	柾目	13.00	-	0.50	1/2 残	「　小豆/　納豆
53	Ⅱ-368	Ⅱ	土 196	文房具	木簡	-	板材	柾目	16.00	3.30	0.40	完形	「<[　　]」
40	Ⅱ-380	Ⅱ	土 197	用途不明品	不明	-	板材	柾目	18.00	(7.70)	0.60	不明	墨書判読不能
54	Ⅱ-389	Ⅱ	土 200	用途不明品	砥石台	-	板材	二方柾	34.50	4.10	2.10	完形	長方形の窪み（145×26㎜、深さ 12㎜）
16	Ⅱ-394	Ⅱ	土 200	用途不明品	箆	-	板材	柾目	17.00	1.70	0.60	完形	先端薄く加工
21	Ⅱ-415	Ⅱ	土 201	祭祀具	斉串状木製品	-	板材	板目	26.50	2.20	0.80	完形	先端薄く尖らせる
55	Ⅱ-417	Ⅱ	土 201	用途不明品	不明	-	角材	二方柾	(31.70)	4.80	3.30	不明	表面に斜格子の刻印、一端炭化
15	Ⅱ-424	Ⅱ	土 201	容器	底板	曲物	板材	柾目	13.00	-	6.50	完形	「原」
4	Ⅱ-433	Ⅱ	土 201	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	(22.00)	(10.40)	7.80	ほぼ完形	指頭・指腹圧痕、後歯側面に焼印、銀杏歯
6	Ⅱ-454	Ⅱ	土 203	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	17.80	9.10	7.20	前歯欠損	台表に模様(焼印)、銀杏歯、台に歪み
7	Ⅱ-455	Ⅱ	土 203	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	19.20	8.50	6.80	後歯欠損	台表に模様(焼印)、銀杏歯、前壺方形、後歯に鉄釘残
19	Ⅱ-465	Ⅱ	土 203	食事具	匙	-	板材	板目	(8.50)	(2.90)	1.40	不明	加工痕明瞭、椀部半分欠損
23	Ⅱ-468	Ⅱ	土 203	祭祀具	羽子板状木製品	-	板材	柾目	(27.90)	1.04	0.50	不明	一面に刃物痕
20	Ⅱ-470	Ⅱ	土 203	祭祀具	人形	-	角材	二方柾	16.00	1.90	2.00	完形	墨書で顔を表現、目・口は刃物で削る
22	Ⅲ-7	Ⅲ	土 105	祭祀具	斉串状木製品	-	板材	追柾目	28.00	2.20	1.00	完形	一端を薄く尖らす
18	Ⅲ-13	Ⅲ	土 172	調理加工具	狭ヒ	-	板材	柾目	25.60	2.60	0.90	ほぼ完形	加工痕多
5	Ⅲ-16	Ⅲ	検出面	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	21.50	11.30	3.80	完形	指頭・指腹圧痕、鼻緒孔方形

※(　)内数値は、残存値を表す。

図 110　木製品　(1)

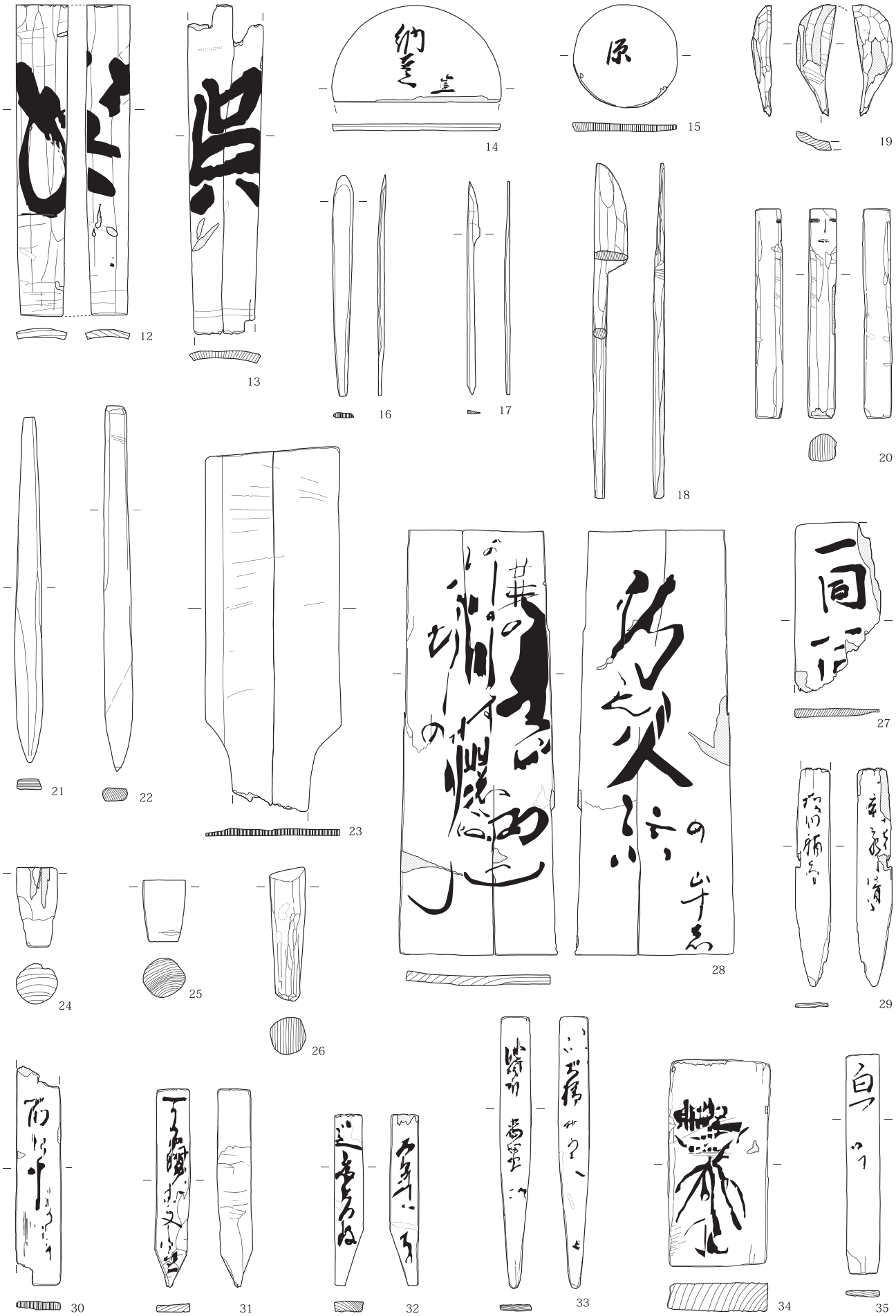


図 111　木製品　(2)

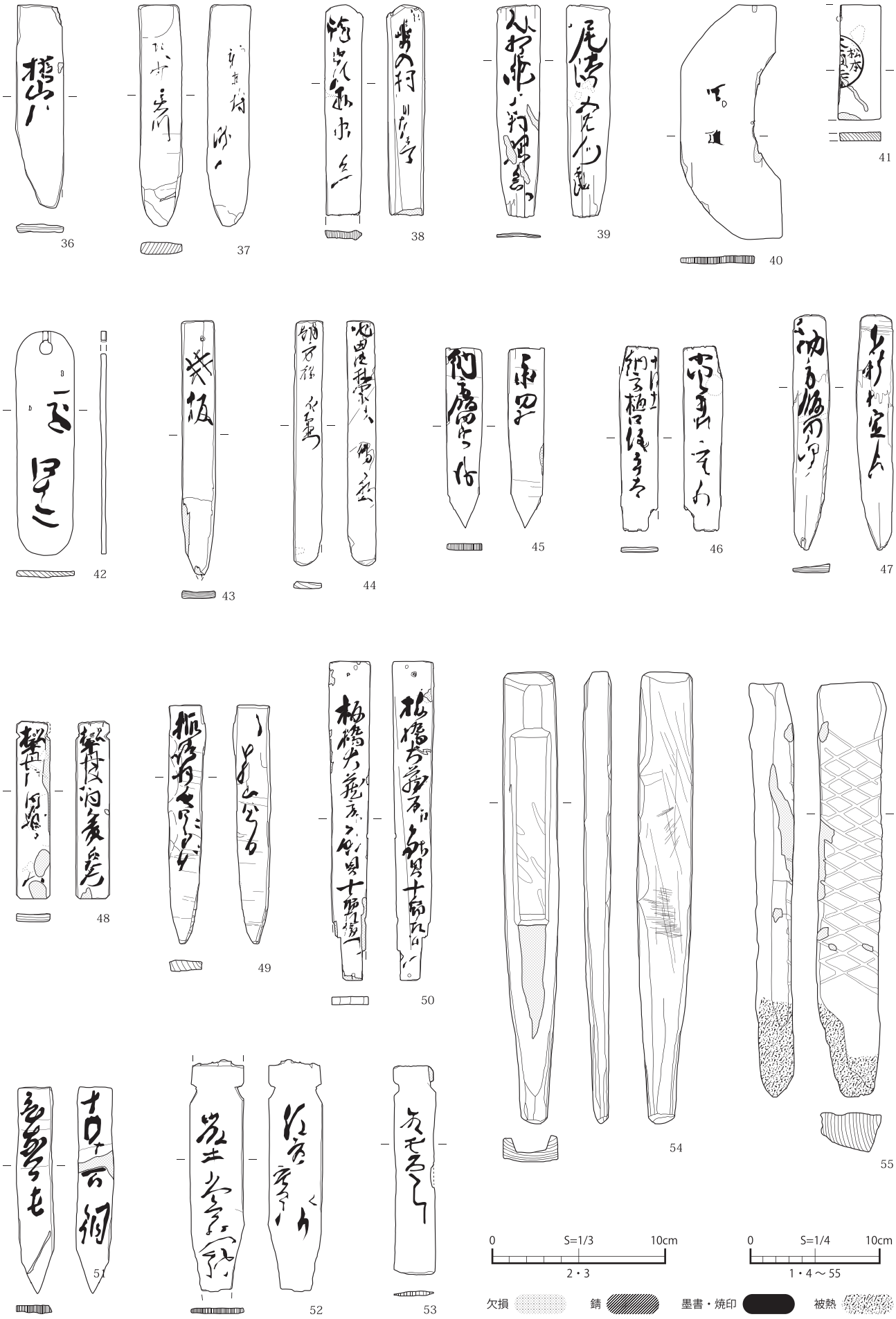

36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
0 S=1/3 10cm
2・3
0 S=1/4 10cm
1・4～55
欠損
錆
墨書・焼印
被熱

図 112　木製品　(3)

第 4 節　漆器・漆工用具（表 10、図 113 ～ 115、写真図版 19）

土居尻 1 出土の漆器については、松本市文化財課調査報告№ 169「長野県松本城三の丸跡 土居尻第 1 次緊急発掘調査報告書 ～遺物編 2（木器編）～」にて詳細が記されている。よって、ここでは大名町 3 から出土した漆器・漆工具のみを取り上げる。

大名町 3 では、漆器が 166 点、漆工用具が 17 点出土している。器種別内訳は、椀 72、椀蓋 39、皿 2、鉢 1、合子 1、箱 6、櫃 3、膳 3、折敷 1、湯桶 2、円板 9、めんぱ 1、箸 7、下駄 2、横櫛 3、枕 2、その他・用途不明品 12、漆液容器 15、刷毛 2 点である。このうち 127 点を図 113 ～ 115 に掲載している。遺物の詳細については、表 10 を参照されたい。

表 10　漆器・漆工用具一覧表

図 No.	ID	出土		種別			手法		漆工技法				寸法 (cm)			破損状況	備考
		面	遺構	分類	器種	細分	材	木取	下地	塗漆 (上塗)		加飾	長 / 口径	幅 / 底径	厚 / 高		
1	Ⅱ-1	Ⅱ	溝 7	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(13.80)	高台付根 7.4	(6.40)	1/2 残	外面胴部に赤色漆で漆絵
4	Ⅱ-4	Ⅱ	溝 7	容器	椀	腰丸	横木地	不明	漆	総黒	呂色	×	不明	不明	(3.40)	僅か	堅牢
2	Ⅱ-5	Ⅱ	溝 7	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(13.10)	不明	(5.00)	1/2 残	外面胴部に赤色漆・黄色漆で扇文様の漆絵
5	Ⅱ-6	Ⅱ	溝 7	容器	椀	壺	不明	不明	漆	総朱	呂色	×	不明	不明	(4.50)	僅か	堅牢、胴部に凸帯 (かつら) を廻らす
3	Ⅱ-17	Ⅱ	溝 7	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	(8.60)	不明	(3.50)	2/3 残	堅牢
7	Ⅱ-23	Ⅱ	溝 8	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(14.40)	高台付根 7.2	(6.10)	口縁高台欠損	大型
8	Ⅱ-24	Ⅱ	溝 9	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	塗立	×	(14.40)	7.70	(8.10)	口縁欠損	高台のロクロ目粗い、高台裏中程まで挽く
6	Ⅱ-26	Ⅱ	溝 9	漆工用具	漆液容器 (椀)	不明	横木地	板目取	炭粉	総朱	呂色	×	不明	不明	不明	僅か	堅牢、蓋紙との境 3 層あり、生漆の漆液容器か
9	Ⅱ-27	Ⅱ	溝 10	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	○	塗立か	漆絵	〈11.0〉	〈5.0〉	(3.20)	ほぼ完形	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗、外面に赤色漆で桜花文様の漆絵
10	Ⅱ-30	Ⅱ	溝 10	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立か	×	〈13.4〉	不明	(2.90)	僅か	
11	Ⅱ-31	Ⅱ	溝 10	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	塗立	×	(11.0)	6.6 ～ 7.1	(4.10)	口縁欠損	内面にロクロ目、粗雑
12	Ⅱ-35	Ⅱ	溝 31	容器	椀蓋	腰	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	不明	不明	(1.90)	僅か	堅牢
13	Ⅱ-36	Ⅱ	溝 31	容器	椀蓋	腰	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	(10.60)	5.60	(3.50)	1/3 残	堅牢
14	Ⅱ-38	Ⅱ	溝 31	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立か	漆絵	不明	不明	(2.90)	1/3 残	外面胴部に赤色漆で植物文様の漆絵
15	Ⅱ-41	Ⅱ	溝 31	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	×	〈10.8〉	〈5.6〉	3.80	2/5 残	堅牢
16	Ⅱ-42	Ⅱ	溝 31	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	×	不明	不明	(2.10)	1/3 残	堅牢な木地
17	Ⅱ-43	Ⅱ	溝 31	容器	椀蓋	平	横木地	板目取	不明	総黒	呂色	×	13.40	5.50	2.50	2/3 残	堅牢、高台付根にチヂミ
18	Ⅱ-53	Ⅱ	土 52	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色か	銘	11.60	8.00	3.50	ほぼ完形	高台見付に赤色漆で銘「イ」、高台見付に鉄釘刺さる、浅型
19	Ⅱ-58	Ⅱ	土 85	容器	椀	不明	不明	不明	炭粉	総朱	呂色か	漆絵	不明	不明	(2.80)	僅か	外面に黒漆で漆絵 (文様は巻子か)
20	Ⅱ-60	Ⅱ	土 89	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	×	〈14.3〉	〈6.5〉	8.80	ほぼ完形	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗、高台裏に刻み
21	Ⅱ-67	Ⅱ	土 119	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	×	不明	不明	(5.00)	1/3 残	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗
22	Ⅱ-69	Ⅱ	土 119	漆工用具	漆液容器 (椀)	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総朱	不明	漆絵	(11.80)	(5.90)	(4.40)	1/2 残	外面胴部に黒漆で植物文様の漆絵、生漆または透漆の漆液容器
33	Ⅱ-71	Ⅱ	土 123	容器	椀	腰高腰	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(5.40)	僅か	
23	Ⅱ-75	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	漆絵	(11.40)	5.50	(4.10)	口縁欠損	堅牢、外面胴部に赤色漆で「剣片喰」(若洲片喰に似る) 紋の漆絵 3 単位
32	Ⅱ-80	Ⅱ	土 123	容器	椀	平	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	銘	12.40	6.80	5.20	口縁欠損	腰部に二段の平坦面、胴部に凸帯 (かつら) を廻らす、高台見付に黄色漆で銘 (松葉か)
34	Ⅱ-102	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	不明	漆絵	不明	不明	(2.80)	僅か	外面胴～腰部に黄色漆で「丸に鬼三ツ柏」紋の漆絵
29	Ⅱ-103	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色か	×	〈11.2〉	不明	(1.70)	僅か	
37	Ⅱ-131	Ⅱ	土 123	容器	椀	不明	横木地	柾目取	炭粉	○	不明	銘	不明	(8.00)	(3.40)	高台残	内面塗り不明、高台裏黒漆塗、高台見付に赤色漆で「井桁に一」の銘
31	Ⅱ-132	Ⅱ	土 123	容器	椀	腰高腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(14.30)	7.80	(7.40)	ほぼ完形	高台中程まで挽く
35	Ⅱ-133	Ⅱ	土 123	容器	椀	不明	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	不明	不明	(3.10)	僅か	外面胴部には黄色漆で桜花文様の漆絵
36	Ⅱ-134	Ⅱ	土 123	容器	椀	不明	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	銘	不明	不明	(1.50)	不明	高台見付に赤色漆で銘 (二文字)
27	Ⅱ-135	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	11.00	5.60	3.40	ほぼ完形	
24	Ⅱ-136	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	(10.40)	5.10	(2.20)	1/2 残	外面胴～腰部・高台見付に黄色漆で「丸に太陰菱」紋の漆絵
28	Ⅱ-137	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	10.00	5.10	2.70	1/2 残	外面胴～腰部・高台見付に黄色漆または潤朱漆で唐草文様の漆絵
25	Ⅱ-138	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	(9.80)	5.20	(1.70)	1/3 残	外面胴部・腰部に潤朱漆で梅笹文様の漆絵、高台付根にチヂミ
26	Ⅱ-160	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	蒔絵	10.30	5.60	3.30	ほぼ完形	口唇部・高台畳摺潤朱漆塗、胴～腰部・高台見付に銀粉で「丸に五本骨扇」紋の蒔絵 4 単位
30	Ⅱ-172	Ⅱ	土 123	容器	椀蓋		横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	〈10.4〉	(5.20)	(1.90)	ほぼ完形	
49	Ⅱ-214	Ⅱ	土 143	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色か	×	(12.70)	6.80	(3.90)	2/3 残	
55	Ⅱ-215	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	不明	不明	(1.50)	僅か	
56	Ⅱ-218	Ⅱ	土 143	漆工用具	漆液容器 (椀)	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立か	×	不明	不明	(2.50)	僅か	生漆または透漆の漆液容器
50	Ⅱ-219	Ⅱ	土 143	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	(12.00)	(6.90)	(4.30)	1/2 残	
38	Ⅱ-220	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	×	(11.7)	高台付根 5.8	(2.90)	口縁・高台欠損	
57	Ⅱ-221	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	×	不明	不明	(4.70)	1/2 残	
51	Ⅱ-223	Ⅱ	土 143	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	銘	(12.50)	6.60	(4.90)	口縁・高台一部欠損	高台見付に「北吉」の銘
54	Ⅱ-226	Ⅱ	土 143	容器	皿	他	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	銘	(10.40)	5.40	(1.70)	ほぼ完形	高台見付に蒟醤に似た技法で銘 (赤色漆)
46	Ⅱ-227	Ⅱ	土 143	調理加工具	漏斗 (椀)	腰高腰	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	×	〈12.6〉	(5.40)	(6.50)	口縁・高台一部欠損	底面にφ 28㎜の穿孔、腰椀を漏斗に転用
44	Ⅱ-228	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	11.80	4.40	2.70	口縁欠損	
39	Ⅱ-229	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	銘	10.30	5.40	3.10	ほぼ完形	高台見付に赤色漆で「・・・」の銘
40	Ⅱ-230	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	銘	11.60	5.50	3.60	2/3 残	高台見付に赤色漆で「・・」の銘
52	Ⅱ-231	Ⅱ	土 143	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	不明	×	(12.60)	高台付根 6.2	(5.20)	2/3 残	
41	Ⅱ-241	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	腰	横木地	不明	炭粉	総黒	呂色	×	〈11.8〉	高台付根 5.6	(4.00)	2/3 残	
42	Ⅱ-242	Ⅱ	土 143	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	銘	10.20	5.40	3.00	ほぼ完形	高台見付に赤色漆で「・・」の銘
48	Ⅱ-273	Ⅱ	土 143	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	銘	(16.20)	7.00	(2.40)	不明	高台見付に赤色漆で「極」の銘

図No.	ID	出土		種別			手法		漆工技法				寸法(cm)			破損状況	備考
		面	遺構	分類	器種	細分	材	木取	下地	塗漆(上塗)		加飾	長/口径	幅/底径	厚/高		
58	Ⅱ-274	Ⅱ	土143	容器	椀	腰高腰	横木地	板目取	炭粉	総黒	塗立	×	不明	不明	(5.00)	不明	
47	Ⅱ-275	Ⅱ	土143	容器	椀	腰高腰	横木地	柾目取	炭粉	総黒	塗立	×	(12.80)	高台付根6.0	(6.60)	1/2残	
59	Ⅱ-276	Ⅱ	土143	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(3.20)	不明	
45	Ⅱ-277	Ⅱ	土143	容器	椀蓋	平	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	×	11.70	4.80	2.40	2/3残	底面にφ6mmの穿孔
53	Ⅱ-287	Ⅱ	土143	容器	椀	壺	横木地	板目取	炭粉	総黒	塗立か	×	(10.10)	高台付根5.1	(6.70)	1/2残	
43	Ⅱ-288	Ⅱ	土143	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	銘	(11.00)	5.80	(3.20)	不明	高台見付に赤色漆で「・・」の銘
64	Ⅱ-306	Ⅱ	土169	漆工用具	漆液容器(椀)	腰	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	漆絵	〈14.0〉	不明	(3.60)	不明	外面胴部に赤色漆で「雪輪」紋の漆絵、黒漆用の漆液容器
60	Ⅱ-307	Ⅱ	土169	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	〈12.6〉	(4.90)	(3.80)	不明	外面胴～腰部に赤色漆で「丸に三ツ巴」紋の漆絵三単位
63	Ⅱ-309	Ⅱ	土169	容器	椀	腰高腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	(12.10)	6.60	(5.00)	不明	外面胴部に赤色漆で漆絵
66	Ⅱ-310	Ⅱ	土169	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	(11.30)	(6.00)	(1.90)	不明	
68	Ⅱ-311	Ⅱ	土169	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	不明	不明	(1.60)	不明	
69	Ⅱ-312	Ⅱ	土169	漆工用具	漆液容器(椀)	不明	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色か	漆絵	不明	(2.00)	不明	不明	外面胴部に潤朱朱漆で漆絵
61	Ⅱ-317	Ⅱ	土169	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総朱	塗立	×	(11.20)	(5.90)	(3.00)	不明	内外面赤色漆塗、高台裏黒漆塗
65	Ⅱ-318	Ⅱ	土169	容器	椀	腰高腰	横木地	板目取	炭粉	総朱	塗立	×	〈12.7〉	(5.70)	(6.00)	不明	
62	Ⅱ-319	Ⅱ	土169	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	〈10.0〉	(4.90)	(2.00)	不明	
70	Ⅱ-328	Ⅱ	土169	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色か	漆絵	不明	不明	不明	不明	外面胴～腰部に赤色漆で「丸に抱茗荷」紋の漆絵
67	Ⅱ-329	Ⅱ	土169	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(4.70)	不明	
71	Ⅱ-333	Ⅱ	土195	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	11.30	(6.20)	(2.80)	不明	
79	Ⅱ-335	Ⅱ	土196	容器	椀	壺	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色	漆絵	11.00	(5.20)	(6.90)	ほぼ完形	外面胴部に赤色漆で「雪輪」紋の漆絵
77	Ⅱ-338	Ⅱ	土196	漆工用具	漆液容器(椀)	腰高腰丸	横木地	板目取	炭粉	総朱	塗立	銘	〈13.7〉	(6.80)	8.80	ほぼ完形	高台見付に黒漆で「久」の銘、黒漆の漆液容器
81	Ⅱ-341	Ⅱ	土196	漆工用具	漆液容器(椀)	不明	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	×	不明	不明	(3.20)	不明	内外面潤朱朱漆塗、黒漆の漆液容器
78	Ⅱ-342	Ⅱ	土196	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	漆絵	13.30	(5.80)	5.50	不明	外面胴部に赤色漆で「雪輪」紋の漆絵
75	Ⅱ-343	Ⅱ	土196	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(12.10)	(5.80)	(3.40)	不明	
76	Ⅱ-344	Ⅱ	土196	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	〈12.9〉	高台付根〈7.0〉	(4.80)	不明	
72	Ⅱ-345	Ⅱ	土196	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	(10.1)	5.20	(2.20)	不明	外面胴部に潤朱漆または黄色漆で漆絵(文様不明)
80	Ⅱ-354	Ⅱ	土196	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(4.90)	不明	
74	Ⅱ-355	Ⅱ	土196	容器	椀蓋	腰	横木地	柾目取	炭粉か	○	呂色	×	〈11.9〉	〈5.6〉	3.90	1/2残	内外面潤朱漆塗、堅牢
73	Ⅱ-356	Ⅱ	土196	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	(11.00)	5.00	(2.70)	不明	外面胴部に潤朱漆で漆絵
82	Ⅱ-376	Ⅱ	土197	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(12.90)	6.10	(5.00)		外面胴部に黄色漆で漆絵(文様不明)
83	Ⅱ-377	Ⅱ	土197	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(10.60)	(5.10)	(5.40)	1/2残	外面胴部に黄色漆で「丸に三ツ寄蘭」紋に似る漆絵
84	Ⅱ-378	Ⅱ	土197	漆工用具	漆液容器(椀)	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(14.10)	7.70	(81.90)	不明	外面胴～腰部に赤色漆で植物文様の漆絵、腰部にφ9mmの穿孔、黒漆の漆液容器、Ⅱ-385と同一製品
85	Ⅱ-381	Ⅱ	土197	容器	椀(杓子に転用)	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(4.60)	不明	内面一部炭化、穿孔2か所(φ3mm)、穴2か所(φ2mm)、杓子に転用
86	Ⅱ-387	Ⅱ	土199	漆工用具	漆液容器(椀)	不明	横木地	柾目取	○	総朱	塗立か	漆絵	不明	不明	(2.00)	不明	内外面赤色漆塗、口唇部黒漆塗、外面胴部に黒漆で植物文様の漆絵、黒漆の漆液容器
87	Ⅱ-398	Ⅱ	土200	容器	椀	平	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	13.00	6.40	5.20	ほぼ完形	
93	Ⅱ-400	Ⅱ	土201	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	蒔絵	〈11.0〉	5.60	(4.40)	ほぼ完形	外面胴部に銀蒔絵+針描で「丸に桐」、高台裏に銀蒔絵
101	Ⅱ-401	Ⅱ	土201	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	漆絵	(12.30)	(5.80)	(8.30)	ほぼ完形	内面赤色漆塗、外面潤朱漆塗、外面胴部に黄色漆と色漆で「丸に亀甲花菱」紋の漆絵3単位
102	Ⅱ-402	Ⅱ	土201	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(13.00)	(7.40)	(6.00)	不明	
88	Ⅱ-403	Ⅱ	土201	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	9.70	4.80	3.20	ほぼ完形	外面胴～腰部に赤色漆で鶴松文様の漆絵+針描
103	Ⅱ-404	Ⅱ	土201	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(12.40)	(7.20)	(8.60)	1/2残	内面一部炭化
91	Ⅱ-405	Ⅱ	土201	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	不明	不明	(1.70)	不明	外面胴部に赤色漆で漆絵(文様不明)
92	Ⅱ-406	Ⅱ	土201	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	不明	不明	不明	不明	外面胴部に赤色漆で松文様の漆絵
98	Ⅱ-407	Ⅱ	土201	漆工用具	漆液容器(椀)	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	12.60	(7.30)	(4.90)	高台欠損	生漆または透漆の漆液容器
100	Ⅱ-408	Ⅱ	土201	漆工用具	漆液容器(椀)	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(15.10)	(5.90)	(5.70)	口縁・高台欠損	生漆・黒漆の漆液容器
90	Ⅱ-411	Ⅱ	土201	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	〈11.4〉	不明	(2.50)	不明	
99	Ⅱ-418	Ⅱ	土201	漆工用具	漆液容器(椀)	不明	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	〈14.0〉	不明	(4.50)	不明	生漆または黒漆の漆液容器
94	Ⅱ-422	Ⅱ	土201	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	〈11.0〉	(5.40)	(4.90)	高台欠損	外面胴～腰部に赤色漆で植物文様の漆絵
95	Ⅱ-423	Ⅱ	土201	容器	皿	不明	横木地	柾目取	炭粉	不明	不明	不明	不明	(4.00)	1.10	不明	茶托か
104	Ⅱ-435	Ⅱ	土201	容器	椀	平	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	漆絵	(11.80)	6.50	(3.90)	高台欠損	外面胴部に黄色漆で「丸に亀甲花角」の漆絵
96	Ⅱ-436	Ⅱ	土201	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	○	呂色	×	(10.3)	(6.50)	(2.30)	1/2残	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗
97	Ⅱ-437	Ⅱ	土201	漆工用具	漆液容器(椀)	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(4.60)	1/2残	黒漆用の漆液容器
89	Ⅱ-438	Ⅱ	土201	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	○	塗立	×	不明	不明	(3.60)		内面潤朱漆塗、外面黒漆塗
106	Ⅱ-445	Ⅱ	土202	容器	椀	不明	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	×	不明	不明	(2.70)		内面潤朱漆塗、外面黒漆塗
107	Ⅱ-446	Ⅱ	土202	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	不明	不明	(4.70)	1/2残	
105	Ⅱ-447	Ⅱ	土202	容器	椀	他	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	漆絵	(14.30)	(7.40)	(4.70)	ほぼ完形	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗、外面胴部に赤色漆で漆絵(文様不明)
113	Ⅱ-453	Ⅱ	土203	容器	椀蓋	不明	横木地	板目取	炭粉	総朱	呂色	×	不明	不明	(1.60)	不明	
114	Ⅱ-458	Ⅱ	土203	漆工用具	漆液容器(椀)	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総朱	呂色	×	(11.50)	(6.70)	(3.80)	不明	生漆の漆液容器
111	Ⅱ-460	Ⅱ	土203	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総朱	呂色	銘	(8.60)	7.30	(3.20)	不明	内外面赤色漆塗、高台裏黒漆塗、高台見付に黒漆で銘、堅牢、根来塗に似る
110	Ⅱ-461	Ⅱ	土203	容器	椀	腰高腰丸	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	×	(13.70)	(7.30)	(6.10)	不明	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗、内面高台ロクロ目強い
112	Ⅱ-464	Ⅱ	土203	容器	椀	不明	横木地	柾目取	炭粉	○	塗立	×	(8.60)	(8.20)	(3.10)	不明	内面潤朱漆塗、外面黒漆塗、内面高台ロクロ目強い、内面一部炭化
109	Ⅱ-471	Ⅱ	土203	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	塗立	漆絵	(13.60)	7.30	(5.60)	口縁欠損	内面・外面胴部に赤色漆で漆絵
108	Ⅱ-476	Ⅱ	土203	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	銘	10.30	5.40	(6.00)	口縁欠損	高台見付に「吉」の銘
115	Ⅱ-478	Ⅱ	検出面	容器	椀蓋	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(9.60)	不明	(2.40)	不明	外面胴～腰部に黄色漆で植物文様の漆絵
117	Ⅱ-479	Ⅱ	検出面	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(2.60)	不明	
116	Ⅱ-480	Ⅱ	検出面	容器	椀蓋	腰丸	横木地	板目取	炭粉	総黒	呂色	×	不明	不明	(2.30)	不明	
119	Ⅱ-487	Ⅱ	北壁	容器	椀	不明	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	不明	不明	(2.50)	不明	
118	Ⅱ-488	Ⅱ	北壁	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	呂色	×	不明	不明	(3.60)	不明	
123	Ⅲ-1	Ⅲ	土56	容器	椀	不明	横木地	板目取	漆	総朱	呂色	×	不明	不明	(2.90)	不明	堅牢、根来塗に似る
120	Ⅲ-4	Ⅲ	土68	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	×	(11.00)	6.20	(3.40)	0	
125	Ⅲ-11	Ⅲ	土172	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	総黒	呂色か	漆絵	(12.00)	(5.80)	(4.20)	2/3残	内面赤色漆で漆絵(柏紋か)
124	Ⅲ-15	Ⅲ	検出面	容器	椀	腰丸	横木地	柾目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(14.00)	不明	(3.40)	1/2残	内面赤色漆で漆絵(柏紋か)
121	Ⅲ-19	Ⅲ	調整区北壁(水路)	容器	椀	腰丸	横木地	板目取	炭粉	黒内朱	塗立	漆絵	(11.40)	(6.20)	(5.40)	1/2残	外面胴部に赤色漆・黄色漆で「桐」紋の漆絵+針描
122	Ⅲ-22	Ⅲ	重機掘削中	容器	椀	不明	横木地	柾目取	炭粉	総黒	塗立	×	(9.30)	6.40	(2.10)	1/2残	
126	Ⅱ-118	Ⅱ	土123	漆工用具	刷毛	-	板材	柾目	-	-	-	-	(14.40)	9.80	1.00	ほぼ完形	毛欠損、炭粉付着、柄にφ3mmの穿孔、渋下地用の刷毛か
127	Ⅱ-334	Ⅱ	土196	漆工用具	刷毛	-	板材	追柾目	-	-	-	-	13.90	(8.70)	1.00	2/3残	柄に穿孔(φ8mm)

※( )内数値は残存値、〈 〉内数値は推定値をそれぞれ表す。

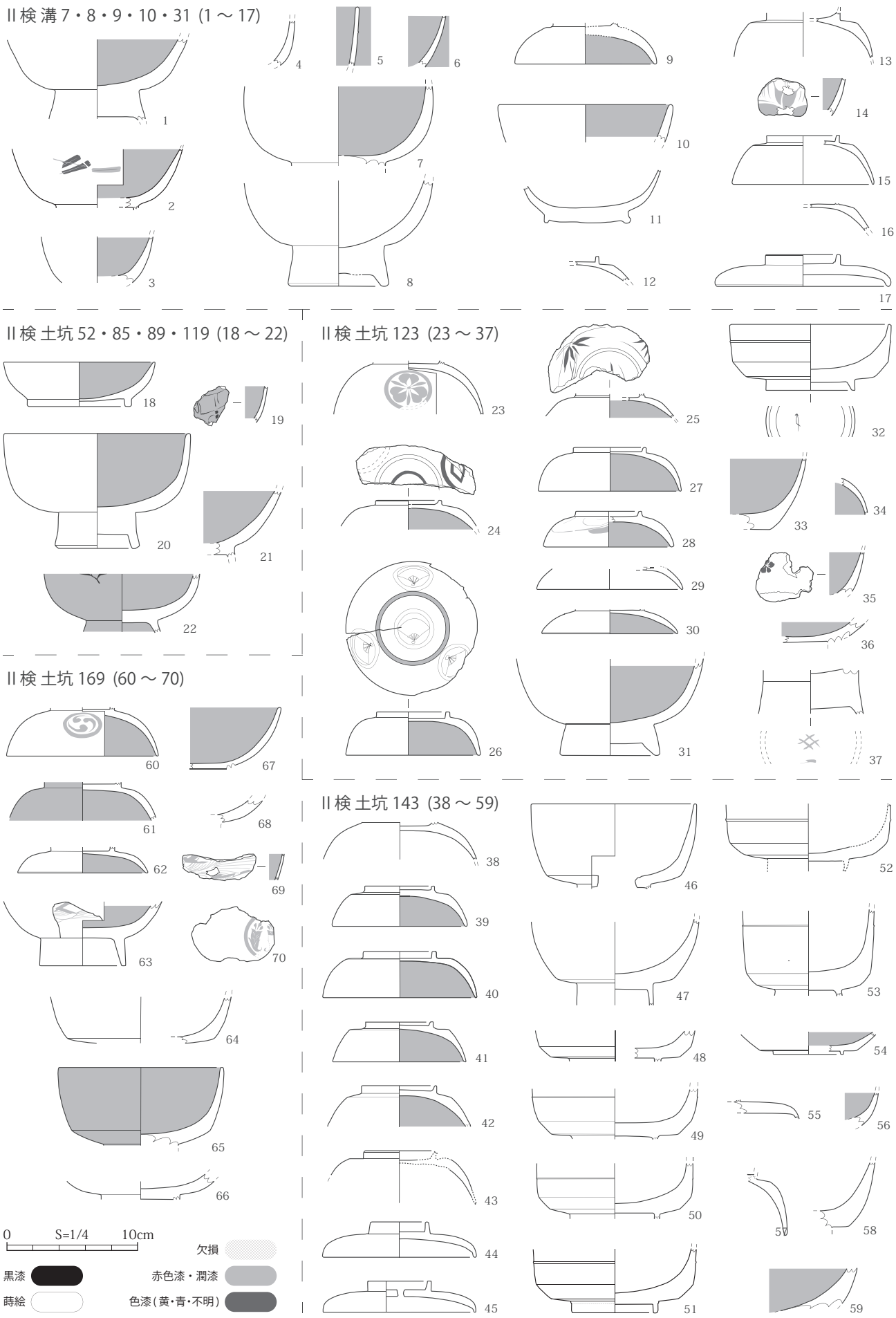


図 113　漆器・漆工用具　(1)

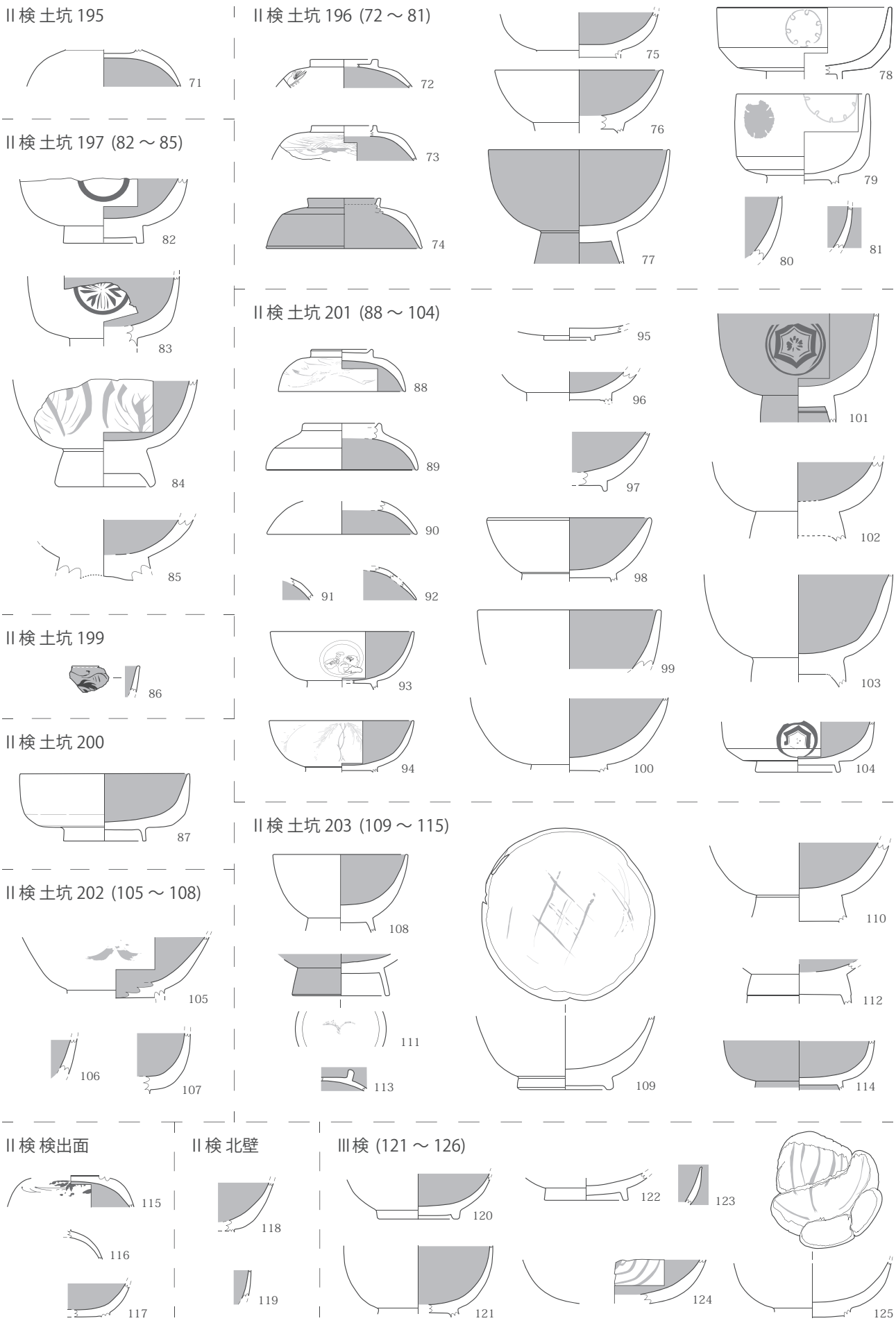


図 114　漆器・漆工用具　(2)

漆工用刷毛

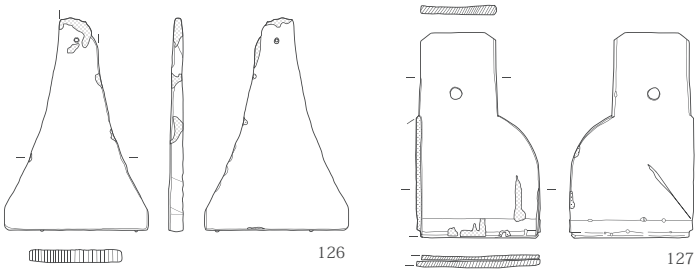


図 115　漆器・漆工用具　(3)

第 5 節　石製品（表 11、図 116 ～ 118、写真図版 21）

土居尻 1 では計 134 点、大名町 3 は計 99 点の石器・石製品が出土し、その合計は 233 点である。このうち中～近世に帰属すると考えられる石製品を中心に 30 点を図示、概要を述べる。それら以外は表 11 を参照されたい。なお、縄文石器 36 点については紙面の都合上割愛した。

1　土居尻 1 出土石製品

硯（1 ～ 12）　遺存状態が比較的良いものについては、いずれも内外面平面形が長方形を呈し、側面がほぼ垂直に立ち上がる。1･4･12 は、裏面に陰刻が認められ、それぞれ「山﨑茂」、「中坂天？硯」、「甲州雨畑」と読める。2 は、海・陸部に墨が残存している。3 は、両面に海・陸部を有する。10 は、幅 3.01㎝の細型長方形を呈する。

砥石（13 ～ 20）　直方体（14・15・17・19・20）と扁平（13・16・18）の 2 種類が認められる。15 と 17 は、表面にゴザ目が確認できるため、幕府御用達の上州砥沢産である可能性がある。過去の調査でも複数点出土があり、砥沢産砥石を扱う砥石問屋が城下町存在していたことがこれまでの調査と古絵図から確認している。

鋳型（21）「コ」の字の金属製品の鋳型と考えられる。

石臼（22）　8 分角で 11 ～ 12 溝の臼面を有する上臼である。また、供給口と芯が同じで、菱形に装飾されていることから茶臼であると判断される。

2　大名町 3 出土石製品

硯（23・24）　23 の裏面は、3㎝程の肩を残し 0.4㎝程の凹みが認められる。また、凹み部に陰刻があり「アキコ」や「(ア？) キ」、「ケサキ？」と読める。24 は、海・陸部に墨が残存している。

温石（25）　孔部が認められるため温石と判断した。

砥石（26 ～ 30）　26 ～ 28 は、いずれも直方体を呈している。そのうち 26 は砥沢産砥石の特徴であるゴザ目を有する。30 は、右側面の端部断面が亀頭状を呈しており特異な形状であるが、表面の刃物痕から砥石としてあつかった。特殊な道具を研いだ可能性がある。

この他、写真のみ提示した石灰華と呼ばれるものが両調査で 1 点ずつ出土している。これは温泉地の湧き出し口に沈殿する炭酸カルシウムの結晶である。信州大学の大塚勉教授の指導を受け、白骨温泉（松本市奈川）で産出された可能性が高いことがわかった。この石灰華が丘状に大きくなったものが、特別天然記念物「白骨温泉の墳湯丘と球状石灰石」として指定を受けている。

表 11　石製品一覧表

ID	実測№	器種	区	検出面	遺構	石材	長 / 口径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
土居尻 1												
121		石筆		Ⅰ	建 1	滑石	(2.01)	0.64	0.56	1.4	長軸に欠損	平面：長方形、断面：楕円形、両端部を欠損
1	13	砥石		Ⅰ	建 6	頁岩	(12.78)	6.78	1.24	(143.2)	1/4 欠	平面：長方形、断面：長方形、砥面 4、仕上砥、線条研磨痕あり
116		石板		Ⅰ	石列 A	粘板岩	(3.44)	(5.50)	0.32	9.1	3/4 以上欠	
2		火打石		Ⅰ	検出面	石英	3.13	2.75	2.08	15.8	完形	1 側縁使用か
3		石筆		Ⅰ	検出面	滑石か	(2.97)	0.61	0.56	(1.9)	1/4 欠	棒状、断面はやや楕円
117		火打石か		Ⅰ	検出面	チャート	6.82	3.89	2.56	51.4	完形	1 縁辺微細剥離あり
118		不明		Ⅰ	検出面	頁岩	(6.20)	(3.22)	(0.89)	21.8	3/4 以上欠	ノミ痕の可能性のある痕跡あり、砥石か
4		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	5.75	4.27	1.24	58.8	完形	直方体、砥面 2、中砥、線条研磨痕あり
5	22	石臼 (茶臼)		Ⅱ	検出面	閃緑斑岩	(21.44)	(11.06)	11.77	(4619.0)	2/3 欠	茶臼の上臼、溝 8 分画か、軸孔 (φ 2.25㎝、両面穿孔)、挽き木打込孔側面 2、上面と側面を研磨、推定径 22.00㎝
6		硯か		Ⅱ	検出面	粘板岩	(5.26)	(5.19)	(0.78)	(23.6)	3/4 以上欠	硯の一部か、ID7 と同一個体か
7		硯か		Ⅱ	検出面	粘板岩	(4.33)	5.28	(0.69)	(19.1)	3/4 以上欠	硯の一部か、ID6 と同一個体か
8		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(9.79)	6.62	1.49	(136.4)	1/4 欠	平面：不整方形、断面：長方形か、砥面 1、中砥
9	14	砥石		Ⅱ	検出面	安山岩	11.82	3.82	1.83	157.1	完形	直方体、砥面 6、中砥
10		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(8.10)	(4.78)	(0.58)	(21.7)	3/4 以上欠	砥面 4、仕上砥、線条研磨痕あり
11		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(8.81)	9.17	4.06	(372.0)	1/2 欠	平面：不整方形か、断面：不整長方形、砥面 1、中砥、3 片に分離、ID43 と同一か
12		砥石か		Ⅱ	検出面	頁岩	(8.60)	(6.25)	(1.19)	(41.9)	1/2 欠	平面：三角形、砥面 1 か、中砥
13	1	硯		Ⅱ	検出面	粘板岩	12.17	7.51	1.88	(367.0)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、裏面に刻字「山﨑茂」
14		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(11.39)	(4.92)	(0.79)	(60.4)	2/3 欠	直方体か、砥面 2、仕上砥、線条研磨痕あり、2 片に分離
15		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(5.44)	(3.58)	(0.69)	(15.2)	3/4 以上欠	砥面 2、中砥
16		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(3.59)	(2.68)	(0.96)	(10.1)	3/4 以上欠	直本体の角の部分、砥面 2、加工面 1、中砥
17		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(3.44)	(2.61)	0.30	(4.9)	1/2 欠	平面：長方形、断面：板状、溝状研磨痕 2
18		砥石		Ⅱ	検出面	凝灰岩	(4.76)	(3.34)	(1.12)	(17.5)	2/3 欠	砥面 2、中砥
19		砥石か		Ⅱ	検出面	頁岩	(5.98)	(5.51)	(0.68)	(19.9)	3/4 以上欠	ID12 と同様の石材
20		砥石か		Ⅱ	検出面	頁岩	(6.25)	(2.73)	(0.65)	(12.9)	3/4 以上欠	ID12 と同様の石材
21		石板		Ⅱ	検出面	粘板岩	(6.61)	(2.91)	0.30	(10.7)	3/4 欠	両面研磨
22		石板		Ⅱ	検出面	粘板岩	(5.39)	(4.09)	0.23	(8.0)	3/4 欠	両面研磨
24	15	砥石		Ⅱ	検出面	安山岩	15.11	4.39	2.94	368.0	完形	直方体、砥面 2、未使用の整形面 4、中砥、線条研磨痕あり、クシ目あり、砥沢産か
25		砥石		Ⅱ	検出面	砂岩	12.57	5.06	4.58	574.0	完形	直方体、砥面 4、荒砥
26		碁石		Ⅱ	検出面	粘板岩	2.03	1.89	0.47	3.1	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
28		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(8.93)	4.47	1.96	(95.0)	2/3 欠	直方体か、砥面 1 か、中砥
29	2	硯		Ⅱ	検出面	粘板岩	(13.05)	6.20	1.91	(296.8)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、陸部の一部に墨付着
30	16	砥石		Ⅱ	検出面	粘板岩	(9.08)	5.32	(1.37)	(99.0)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、被熱か
31		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(5.84)	(5.41)	(0.68)	(29.3)	3/4 以上欠	砥面確認できず、割れた砥石の一部か
32		碁石		Ⅲ	建物跡	粘板岩	2.14	1.83	0.53	3.1	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
33		碁石		Ⅲ	溝 301	粘板岩	2.68	1.80	0.44	3.0	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
35		砥石		Ⅲ	溝	頁岩	(4.35)	4.38	0.81	(20.6)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、砥面 4、仕上砥
36	3	硯		Ⅲ	北東集石列	頁岩か	(10.60)	8.00	1.42	(208.4)	1/4 欠	平面：長方形か、断面：長方形、陸部の一部に墨付着、溝状研磨痕 (切り折りの跡か)
119		砥石		Ⅲ	桶 306	頁岩	(4.75)	3.12	(0.92)	18.5	長軸に欠損	平面：長方形、断面：長方形、砥面 2、小口整形、仕上砥
122		砥石		Ⅲ	桶 301	安山岩	9.63	2.29	2.20	66.7	完形	直方体、砥面 4、円筒状に内湾する砥面 1(幅 2.60㎝、深さ 0.75㎝)、中砥、ノミ痕あり、木製の砥石台 (2 分冊：木製品図番号 320) の溝中に設置された状態で出土
37		碁石		Ⅲ	土 345	チャート	2.16	2.05	0.87	5.5	完形	平面：円形、断面：楕円形、黒石
39		砥石		Ⅲ	土 416	粘板岩	(6.59)	2.09	(0.84)	(18.9)	1/3 欠	平面：隅丸長方形か、断面：長方形、砥面 2、中砥
40		砥石か		Ⅲ	土 425	頁岩	7.92	4.60	2.19	96.8	完形	平面：不整長方形、断面：長方形、砥面 1、中砥
41		碁石		Ⅲ	土 425	粘板岩	2.35	2.28	0.59	4.7	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
42		碁石		Ⅲ	土 425	粘板岩	2.05	1.94	0.37	2.4	完形	平面：不整円形、断面：扁平、黒石
43		砥石		Ⅲ	土 427	頁岩	10.31	7.78	3.59	316.0	完形	平面：不整方形、断面：不整長方形、砥面 1、中砥、線条研磨痕あり、ID11 と同一か
44		砥石		Ⅲ	土 430	頁岩	(6.10)	3.84	(0.86)	(23.6)	2/3 欠	平面：長方形か、砥面 2、仕上砥
45		砥石か		Ⅲ	土 430	砂岩	11.26	5.60	3.87	237.4	完形	割石だが不整形、砥面 2、中砥
46		砥石 or 硯		Ⅲ	土坑	粘板岩	6.84	4.85	0.72	24.3	完形	研磨面 1
47		円盤状製品		Ⅲ	土坑	安山岩	4.18	4.02	0.80	20.7	完形	平面：円形、断面：長方形、全体を研磨
48		碁石		Ⅲ	P334	砂岩	2.03	1.81	0.62	3.3	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
49		砥石		Ⅲ	検出面	砂岩	10.96	3.54	2.87	193.0	完形	直方体、砥面 4、中砥
50	17	砥石		Ⅲ	検出面	安山岩	12.24	4.57	3.03	275.6	完形	直方体、砥面 1、未使用の整形面 5、中砥、クシ目あり
51		硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	(6.31)	5.74	(0.75)	(42.1)	1/2 欠	平面：隅丸長方形か、断面：長方形
52		砥石		Ⅲ	検出面	砂岩	12.29	3.15	3.65	259.6	完形	平面：不整長方形、断面：方形、砥面 1、荒砥
53		不明石製品		Ⅲ	検出面	砂岩	(6.79)		(13.34)	(1411.0)	3/4 欠	平面：円形か、外面・内面に工具 (ノミ) 痕
54		砥石		Ⅲ	検出面	安山岩	(7.14)	3.97	2.72	(171.6)	1/2 欠	直方体か、砥面 5、中砥、線条研磨痕あり
55		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	(7.58)	4.19	1.24	(57.7)	1/2 欠	断面：長方形、砥面 3、仕上砥
56		火打石		Ⅲ	検出面	チャート	5.41	3.62	2.19	40.8	完形	4 側縁使用
58		(円盤状製品)		Ⅲ	検出面	安山岩か	2.27	2.15	0.71	4.9	完形	平面：不整円形、断面：隅丸長方形、平面中央に穿孔 (φ 0.41㎝・両面穿孔)
59	21	鋳型		Ⅲ	検出面	不明	8.37	4.21	2.05	140.6	完形	学引きか火打金の鋳型か
60	5	硯		Ⅲ	検出面	凝灰岩 or 粘板岩	(7.96)	6.07	1.98	(189.7)	1/3 欠	平面：長方形か、断面：長方形
61	6	硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	(6.66)	6.72	(1.37)	(118.5)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、陸部の一部に墨付着
62	18	砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	8.72	5.51	(1.03)	(88.0)	1/3 欠	平面：長方形、断面：長方形か、砥面 4、仕上砥、割れ部分を漆で張り合わせ補修か
63		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.23	2.18	0.45	3.7	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
64		石臼		Ⅲ	検出面	安山岩	31.58		10.55	(8303.0)	1/3 欠	粉挽き臼の下臼、溝 6 分画、ID100 と上下組みの可能性
65		(円盤状製品)		Ⅲ	検出面	砂岩	2.82	2.80	0.79	9.6	完形	平面：円形、断面：長方形
66		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	1.99	1.78	0.29	1.6	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石

ID	実測№	器種	区	検出面	遺構	石材	長 / 口径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
67		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.45	1.82	0.49	3.3	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
68		砥石		Ⅲ	検出面	砂岩	23.86	5.23	2.56	560.0	完形	平面：扁平な楕円形、断面：隅丸台形、砥面 1、被熱
69		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	1.85	1.70	0.51	2.4	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
70		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.45	1.69	0.47	3.2	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
71		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.16	1.94	0.66	4.0	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
72		碁石		Ⅲ	検出面	頁岩	2.42	2.32	0.57	4.6	完形	平面：不整円形、断面：扁平、白石
73		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.25	2.18	0.56	4.4	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
74		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.39	1.92	0.41	3.0	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
75		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	1.94	1.87	0.52	2.7	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
77	7	硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	12.44	6.57	(1.31)	(161.5)	1/4 欠	平面：長方形、断面：長方形、部分被熱
78	8	硯		Ⅲ	検出面	泥岩	(7.85)	5.96	(1.44)	(75.1)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形
79	19	砥石		Ⅲ	検出面	凝灰岩	(10.01)	4.78	2.96	(219.4)	1/3 欠	平面：長方形か、断面：長方形、砥面 4、中砥
80		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	(4.99)	(3.94)	(1.01)	(14.6)	3/4 以上欠	砥面 1、仕上砥
81		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	14.71	5.44	(1.31)	(148.9)	2/3 欠	平面：長方形か、砥面 1、中砥
82		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	10.82	(4.05)	(1.02)	(43.7)	2/3 欠	砥面 2、うち一つは割れたのちに使用した面か、中砥
83		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	(6.50)	(3.07)	(0.66)	(15.7)	3/4 以上欠	砥面 1、中砥
84		砥石		Ⅲ	検出面	砂岩	8.21	2.07	1.62	44.1	完形	直方体、砥面 4、中砥、線条研磨痕あり、手持ち砥石か
85	20	砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	13.45	4.44	2.93	(277.5)	1/4 以下欠	直方体、砥面 6、仕上砥、線条研磨痕あり
86		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	14.46	4.34	1.70	207.8	完形	直方体、砥面 3、荒砥
87		碁石		Ⅲ	検出面	チャート	2.26	1.79	0.64	4.1	完形	平面：楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
88		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.34	2.18	0.68	5.3	完形	平面：不整円形、断面：不整楕円形、黒石
89		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.15	2.15	0.53	3.7	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
103		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.21	1.96	0.69	4.5	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
104		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.03	1.96	0.64	3.8	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
105		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.74	2.09	0.50	4.4	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、黒石
106		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.37	2.24	0.55	4.6	完形	平面：不整円形、断面：扁平、黒石
107		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.38	1.71	0.39	2.6	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、黒石
108		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.24	1.48	0.43	2.2	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
112		(不明石製品)		Ⅲ	検出面	粘板岩	3.87	2.90	0.62	11.3	完形	平面：楕円形、断面：扁平、碁石黒石のような質感・加工
113		火打石		Ⅲ	検出面	チャート	4.20	3.36	1.34	15.6	完形	1 側縁使用
120	10	硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	(10.61)	3.01	1.05	54.2	海部欠損	平面：長方形、断面：長方形、小形、側面に墨のようなものを塗布されている
57	4	硯		Ⅲ	排土	粘板岩	12.35	4.76	1.48	(133.6)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、被熱、裏面に刻字「中坂千硯」
90		碁石か		Ⅳ	溝 504	ホルンフェルス	2.63	1.93	0.49	3.8	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、自然石の可能性
91		碁石か		Ⅳ	溝 504	砂岩	2.34	1.80	0.54	3.2	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、自然石の可能性
92		砥石か		Ⅳ	溝 504	砂岩	4.01	2.70	0.55	(12.8)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、砥面 2、中砥、手持ち砥石
93		碁石		Ⅳ	土 522	粘板岩	1.92	(1.72)	0.28	(1.6)	1/4 以下欠	平面：円形、断面：扁平、黒石
95	9	硯		Ⅳ	土 542	粘板岩	(8.26)	4.18	(9.40)	(51.1)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形か
96		台石か		Ⅳ	土 545	砂岩	15.27	11.67	3.84	1081.0	完形	平面：不整方形、断面：長方形、1 面被熱
97		石灰華		Ⅳ	土 506	炭酸カルシウム	10.43	6.83	5.38	286.9	完形	多孔質、白骨産
98		硯か		Ⅳ	土坑	千枚岩	6.31	3.09	0.28	5.4	完形	整形面 1、海部の一部か
99		石臼		Ⅳ	P624	安山岩	(24.04)	(14.89)	(13.68)	(4469.0)	2/3 欠	粉挽き臼の下臼、溝 6 分画か、推定径 31.20㎝
100		石臼		Ⅳ	集石列 501	安山岩	(25.84)	(13.46)	9.91	(2644.0)	2/3 欠	粉挽き臼の上臼、挽き木打込孔上面 1、推定径 33.00㎝
101		砥石		Ⅳ	検出面	砂岩	9.11	7.83	1.40	159.9	完形	平面：不整円形、断面：板状、砥面 2、中砥、側面 1 カ所に切り欠き様の加工
102		碁石		Ⅳ	検出面	粘板岩	2.37	2.03	0.61	4.2	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
109	11	硯		-	排土	粘板岩	13.47	6.76	2.17	334.0	完形	平面：長方形、断面：長方形、陸部に窪み状の使用痕 (長 6.63㎝・幅 3.82㎝・深 0.26㎝)
110		碁石		-	排土	粘板岩	2.19	2.19	0.35	3.3	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
111	12	硯		-	排土	粘板岩	11.94	6.23	1.82	(270.6)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、全面黒色の塗料塗布、裏面に「甲州雨畑」の刻字あり
大名町 3												
1		砥石		Ⅰ	溝 4	頁岩	(4.05)	(2.81)	(0.53)	(5.3)	3/4 以上欠	砥面 1、仕上砥
2		砥石		Ⅰ	溝 9	頁岩	(8.25)	6.99	2.60	(277.3)	1/2 欠	直方体か、砥面 4、仕上砥、線条研磨痕あり
3		石臼		Ⅰ	溝 15	安山岩	(9.02)	(3.27)	(4.31)	(134.4)	3/4 以上欠	茶臼の下臼受け皿部
4		砥石		Ⅰ	土 22	頁岩	6.21	5.61	1.91	108.3	完形	平面：不整方形、断面：長方形、砥面 3、未使用の整形面 4、仕上砥
5		碁石		Ⅰ	土 70	砂岩	2.35	1.99	0.64	4.1	完形	平面：楕円形、断面：扁平、白石か
6		石筆		Ⅰ	土 86	滑石か	(2.79)	0.64	0.63	(1.9)	1/2 欠	棒状、先端部 0.99㎝は錐状 (鉛筆状)、断面：円形
7	25	温石か		Ⅰ	焼土 15	粘板岩	7.02	(4.11)	(0.71)	(38.0)	3/4 以上欠	穿孔 1 カ所（推定 φ 0.71㎝）、被熱
8		石核		Ⅰ	焼土 16	黒曜石	2.19	1.29	1.06	2.5	完形	剥離面 1
9		碁石		Ⅰ	焼土 16	粘板岩	2.13	2.11	0.49	3.3	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
10		碁石		Ⅰ	焼土 16	頁岩	(2.12)	(2.05)	(0.39)	(1.9)	1/2 欠	平面：円形か、黒石か
11		火打石		Ⅰ	焼土 16	石英	5.31	3.07	1.97	32.7	完形	3 側縁使用か
12		砥石か		Ⅰ	瓦だまり	粘板岩	(3.89)	(2.86)	(0.46)	(7.2)	3/4 以上欠	整形面 1、砥石または硯の一部か
13		凹石		Ⅰ	検出面	安山岩	15.48	11.96	6.58	1561.0	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み 1 面（長 2.41㎝・幅 1.61㎝・深さ 0.68㎝）
14		石核		Ⅰ	検出面	黒曜石	3.59	2.56	2.21	17.2	完形	剥離面 2
15	23	硯		Ⅰ	北壁	粘板岩	(7.68)	7.53	2.27	(221.2)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、裏面に刻字「キアキコ」「ササキ」
16		火打石		Ⅰ	検出面	チャート	2.30	2.23	1.85	11.2	完形	使用部なし
17		石臼		Ⅱ	溝 2	安山岩	(27.33)		10.67	5600.0	1/2 欠	粉挽き臼の上臼、溝 6 分画か、破断面に軸孔・挽き木打込孔上面 1・側面 1 残存
18		石筆		Ⅱ	溝 3	滑石か	3.48	0.55	0.53	2.1	完形	棒状、断面：概ね円形
19		砥石		Ⅱ	溝 18	頁岩	(2.04)	(1.64)	(0.45)	(1.2)	3/4 以上欠	砥面 1、仕上砥
20		砥石		Ⅱ	溝 23	安山岩	(4.63)	2.90	2.01	(50.1)	2/3 欠	直方体か、砥面 4、中砥
21		砥石		Ⅱ	溝 31	頁岩	14.06	6.81	5.53	1104.0	完形	直方体、砥面 4、中砥
22		凹石		Ⅱ	土 53	グリーンタフ	13.36	11.39	5.58	1161.0	完形	平面：概ね円形、断面：楕円形、凹み 1 面（φ 4.11㎝・深さ 0.68㎝）

ID	実測№	器種	区	検出面	遺構	石材	長 / 口径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
23		碁石		Ⅱ	土 69	頁岩	2.44	2.03	0.70	4.8	完形	平面：楕円形、断面：不整楕円形、白石か
24		碁石		Ⅱ	土 89	粘板岩	2.27	1.95	0.54	3.9	完形	平面：楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
25		碁石か		Ⅱ	土 123	砂岩	2.38	2.28	0.61	5.0	完形	平面：円形、断面：長方形、白石か
26		碁石		Ⅱ	土 123	粘板岩	2.20	2.19	0.51	3.7	完形	平面：円形、断面：柳葉形、黒石
27	26	砥石		Ⅱ	土 123	頁岩	16.42	5.50	4.25	820.0	完形	直方体、砥面 4、未使用の整形面 2、中砥、クシ目あり、砥沢産砥石
28		火打石		Ⅱ	土 123	石英	3.66	2.91	2.43	32.8	完形	3 側縁使用
29		火打石か		Ⅱ	土 123	石英	2.43	1.95	1.31	8.1	完形	使用部なし
30		硯		Ⅱ	土 123	粘板岩	(15.56)	7.73	2.36	(366.0)	1/4 欠	平面：長方形、断面：長方形、側面・裏面に墨様の塗料塗布か、2 片に分離
31	27	砥石		Ⅱ	土 123	安山岩	(11.07)	2.63	2.48	(132.8)	1/4 以下欠	直方体、砥面 4、中砥
32	28	砥石		Ⅱ	土 123	安山岩	14.03	4.09	2.92	242.7	完形	概ね直方体、砥面 4、中砥
33		砥石		Ⅱ	土 123	安山岩	(6.54)	3.41	1.65	(72.6)	1/2 欠	直方体、砥面 3、中砥、線条研磨痕あり
34		火打石		Ⅱ	土 123	石英	4.71	2.69	2.04	35.9	完形	2 側縁使用か
35		火打石		Ⅱ	土 123	石英	2.88	2.32	1.67	14.4	完形	2 側縁使用か
36		不明石製品		Ⅱ	土 123	粘板岩	(7.54)	(4.15)	(3.77)	(141.4)	3/4 以上欠	整形面 1
37		石臼		Ⅱ	土 123	安山岩	(33.56)		16.11	(25,211)	1/2 欠	粉挽み臼の下臼、溝 6 分画、推定系 35.00㎝、軸孔（φ 3.79㎝、両面穿孔）
38		石臼		Ⅱ	土 123	安山岩	(31.96)	(29.98)	13.68	20200	1/4 以下欠	粉挽き臼の上臼、溝 5 分画、推定径 33.30㎝、軸孔 (φ 2.57㎝、深さ 3.02㎝)、挽き木打込孔上面 1・側面 1
39	29	砥石		Ⅱ	土 123	砂岩	(11.56)	4.07	3.89	309.0	1/4 欠	直方体、砥面 4、荒砥
40		凹石		Ⅱ	土 123	安山岩	12.67	11.99	8.13	1447.0	完形	平面：円形、断面：楕円形、凹み 1 面（φ 4.86㎝・深さ 1.83㎝）
41		石筆		Ⅱ	土 123	滑石か	2.47	0.64	0.54	1.7	完形	棒状、断面：楕円形
42		火打石		Ⅱ	土 123	チャート	5.28	3.55	1.64	26.3	完形	3 側縁使用
43		硯		Ⅱ	土 131	粘板岩	(6.05)	6.25	(1.75)	(91.9)	2/3 欠	平面：長方形か、海部の一部に墨付着、裏面に削り込んだ痕跡あり
44		不明石製品		Ⅱ	土 143	砂岩	(25.18)	-	24.60	(17,813)	1/3 欠	円筒形、内面被熱、底面付近に方形の窓孔
45	30	砥石		Ⅱ	土 143	頁岩	5.52	5.23	1.39	63.4	完形	平面：方形、断面：長方形、砥面 6、仕上砥、線条研磨痕あり、工具で端部を円柱状に切り離そうとした痕跡あり
46		砥石		Ⅱ	土 143	頁岩	(8.10)	(2.95)	(1.53)	(29.5)	3/4 以上欠	砥面 1(僅かに残存)、砥石の一部か
47		石臼か		Ⅱ	土 143	安山岩	14.40	7.14	7.99	1102.0	完形	側面加工、底面摩耗
48		砥石		Ⅱ	土 143	安山岩	5.22	3.12	2.02	51.5	完形	概ね直方体、砥面 4、中砥、線条研磨痕あり、工具で切断した痕跡あり
49		硯		Ⅱ	土 143	粘板岩	(4.81)	7.61	2.57	(135.6)	3/4 欠	平面：長方形か、工具で切断した痕跡あり、4 片に分離
50		硯か		Ⅱ	土 143	粘板岩	(4.90)	5.05	(1.25)	(35.9)	3/4 以上欠	側面の稜から硯の一部と推定
51		凹石		Ⅱ	土 161	安山岩	12.36	10.71	8.78	1346.0	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み 2 面（φ 4.35㎝・深さ 1.42㎝ / φ 3.03㎝・深さ 0.39㎝）
52		凹石		Ⅱ	土 169	安山岩	6.22	4.84	2.57	92.8	完形	平面:楕円形、断面:楕円形、凹み 1 面（φ 2.88㎝・深さ 0.74㎝）、磨面 1
53		砥石		Ⅱ	土 173・175	頁岩	(5.50)	(3.09)	(0.46)	(7.9)	3/4 以上欠	砥面 1、未使用の整形面 2、仕上砥、線条研磨痕あり
54		砥石		Ⅱ	土 195	頁岩	(3.31)	3.83	(0.88)	(13.7)	3/4 欠	平面：長方形か、砥面 2、未使用の整形面 3、仕上砥
55		火打石		Ⅱ	土 196	チャート	4.35	3.20	1.25	18.2	完形	2 側縁使用か
56		砥石		Ⅱ	土 201	頁岩	(6.81)	(4.07)	(1.02)	(38.7)	3/4 欠	平面：長方形か、砥面 2、仕上砥
57		砥石		Ⅱ	土 202	頁岩	3.29	2.46	0.29	4.9	完形	平面：長方形、断面：板状、砥面 1、中砥、手持ち砥石
58		碁石		Ⅱ	検出面	粘板岩	2.20	2.18	0.34	2.9	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
59		碁石か		Ⅱ	検出面	砂岩	1.86	1.76	0.59	1.8	完形	平面：円形、断面：柳葉形、被熱著しい
60		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(3.09)	3.14	(1.01)	(18.0)	3/4 以上欠	直方体か、砥面 3、仕上砥
61		砥石		Ⅱ	検出面	頁岩	(5.36)	(3.28)	(0.61)	(9.4)	3/4 以上欠	砥面 1、仕上砥、穿孔 1 カ所か（推定φ 1.02㎝）
62		石板		Ⅱ	検出面	粘板岩	(7.01)	(2.75)	0.37	(9.2)	3/4 以上欠	両面研磨、側面に成型時の工具痕
63		碁石		Ⅱ	検出面	粘板岩	2.19	2.17	0.39	3.5	完形	平面：円形、断面：隅丸長方形、黒石
64		凹石		Ⅱ	検出面	安山岩	9.35	8.63	4.48	437.0	完形	平面：円形、断面：楕円形、凹み 2 面（φ 5.04㎝・深さ 1.71㎝ / φ 3.79㎝・深さ 0.74㎝）
65		石臼		Ⅱ	検出面	安山岩	(11.29)		6.67	(1700.0)	2/3 欠	粉挽き臼の上臼、溝 8 分画か、穀物投入孔 (φ推定 2.88㎝)
66	24	硯		Ⅱ	北壁	粘板岩	12.14	7.64	2.00	(338.0)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、陸部・海部に墨付着
67		砥石		Ⅲ	土 48	凝灰岩か	(3.46)	2.78	1.26	(19.2)	2/3 欠	直方体か、砥面 4、中砥
68		火打石か		Ⅲ	土 48	チャート	7.13	4.13	3.27	136.6	完形	使用部なし
69		凹石		Ⅲか	土 51tr	安山岩	8.42	7.17	5.26	390.0	完形	平面:楕円形、断面:楕円形、凹み 1 面（φ 2.94㎝・深さ 0.33㎝）
70		石臼		Ⅲ	土 65	安山岩	(25.88)		11.19	(3638.0)	2/3 欠	粉挽き臼の下臼、溝 6 分画か、軸孔 (φ推定 2.78㎝、両面穿孔)
71		石臼		Ⅲ	土 65	安山岩	(16.54)		(6.43)	(1002.0)	3/4 以上欠	粉挽き臼の下臼
72		石灰華		Ⅲ	土 98	炭酸カルシウム	10.98	7.95	6.89	252.2	完形	多孔質、白骨産
73		砥石		Ⅲ	土 180	頁岩	(2.56)	(2.07)	(0.65)	(3.2)	3/4 以上欠	砥面 1、仕上砥
74		砥石		Ⅲ	検出面	頁岩	2.35	2.04	0.52	(4.2)	1/4 以下欠	平面：方形、断面：長方形、砥面 4、仕上砥、手持ち砥石
75		硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	14.07	(3.81)	(1.74)	(92.2)	3/4 欠	平面：長方形か、砥石に転用した可能性
76		石板		Ⅲ	検出面	粘板岩	(9.26)	(5.29)	0.32	23.8	2/3 欠	両面研磨
77		砥石			東側南壁	頁岩	(7.85)	7.45	1.89	(174.7)	1/3 欠	平面：概ね楕円形か、断面：扁平な楕円形、砥面 2、荒砥
78		不明石製品			東側南壁	砂岩	(11.14)	(8.91)	(3.39)	(439.0)	1/3 欠	磨面 1 か、被熱

※（　）内数値は、残存値を表す。

土居尻1

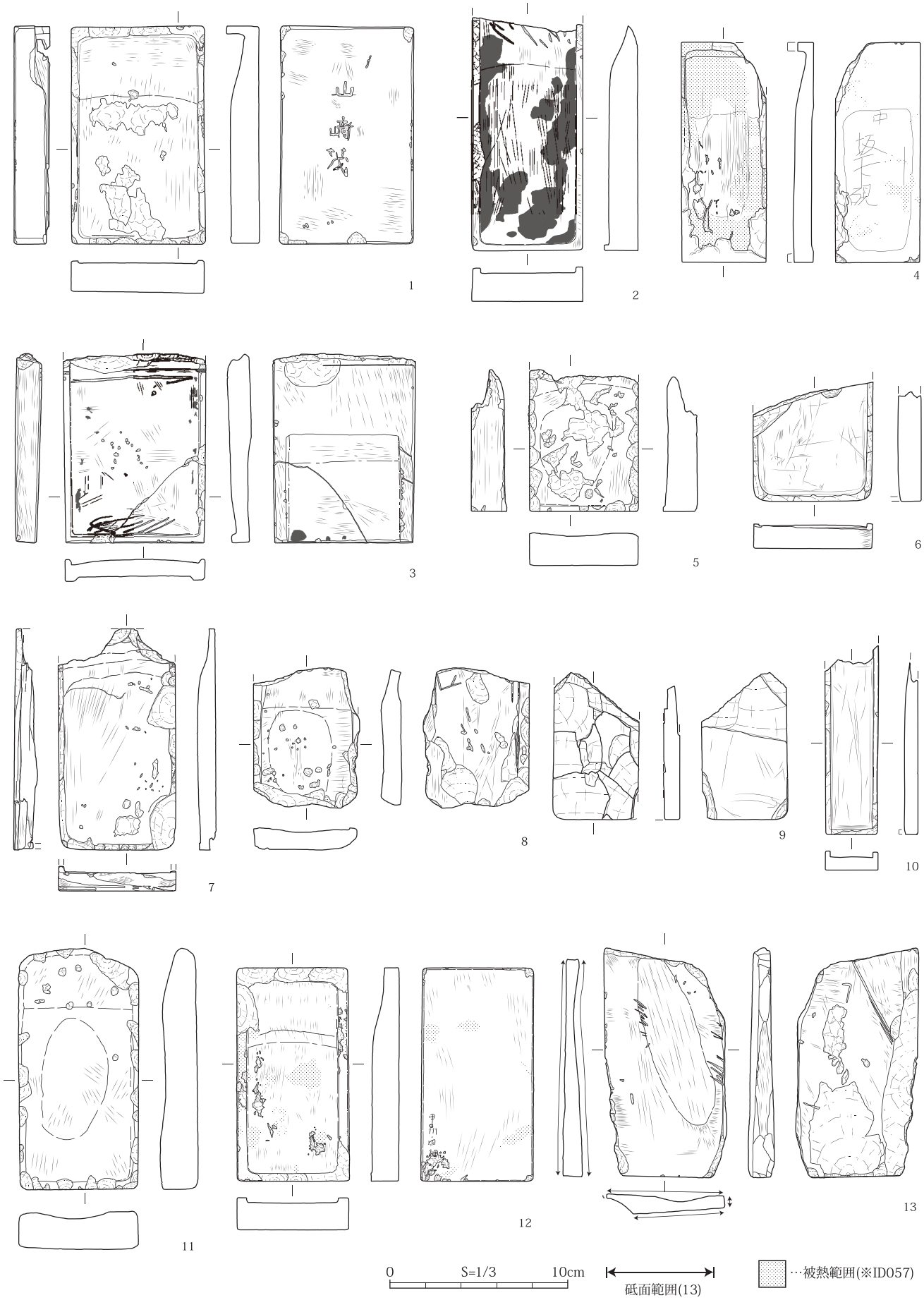


図 116　石製品　(1)

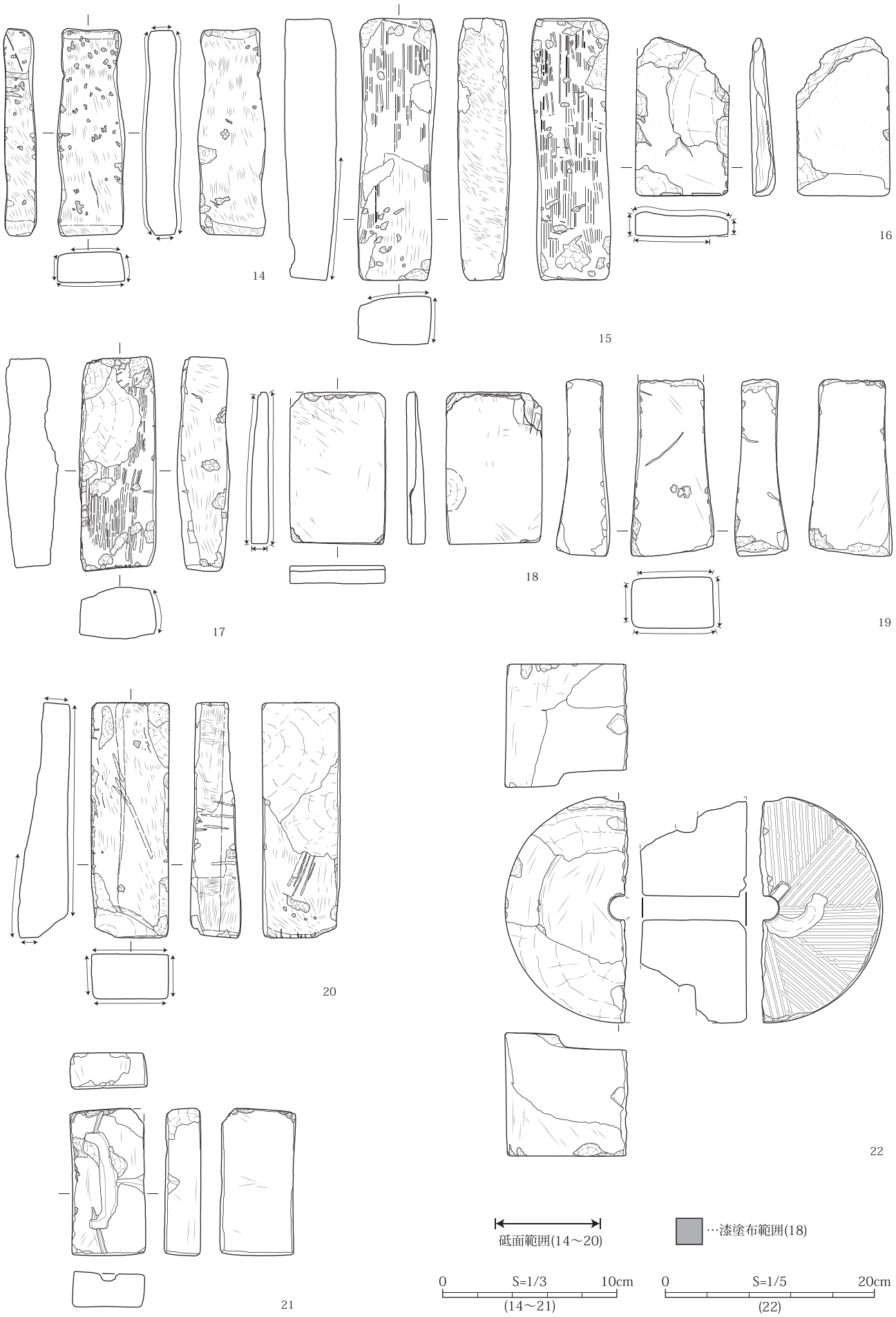
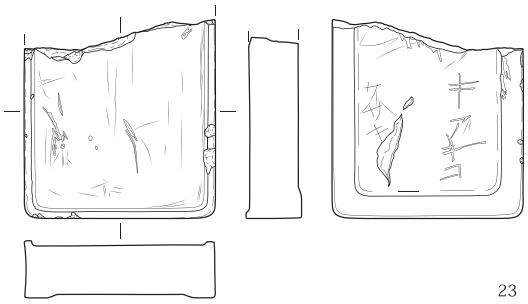
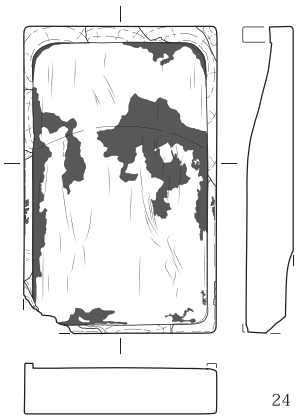

14
15
16
17
18
19
20
21
22
砥面範囲(14～20)
…漆塗布範囲(18)
0
S=1/3
10cm
(14～21)
0
S=1/5
20cm
(22)

図 117　石製品　(2)

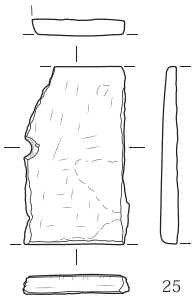
大名町3



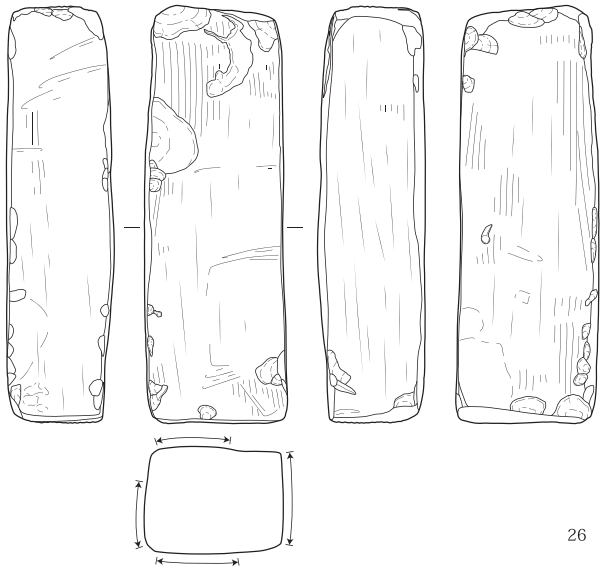
23



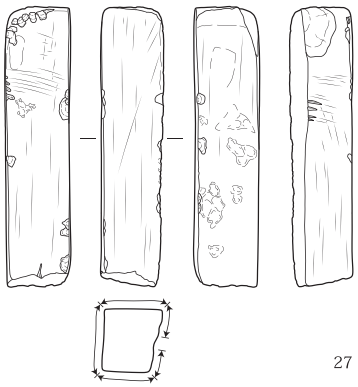
24



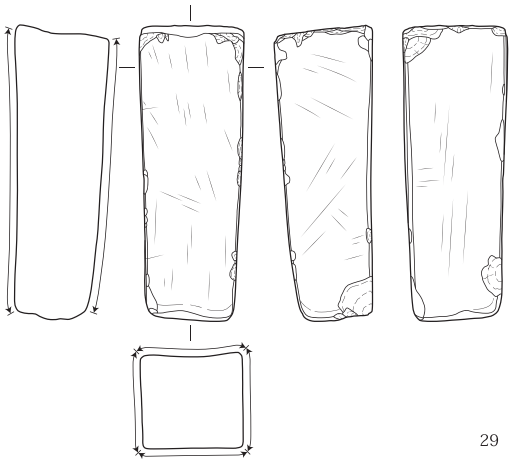
25



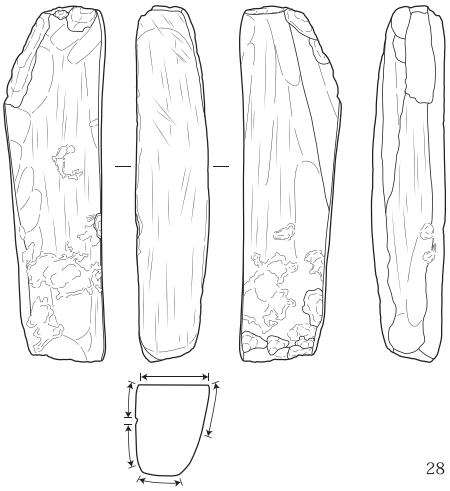
26



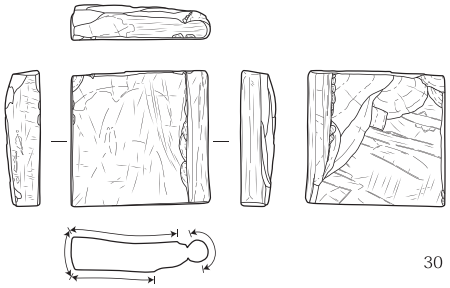
27



29



28



30

砥面範囲(26～30)　…墨付着範囲(24)

0　S=1/3　10cm

図 118　石製品　(3)

第６節　金属製品（表 12、図 119 ～ 121、写真図版 22・23）

土居尻１・大名町３で出土した遺物の材質別内訳は、鉄製品 445、銅製品 169、鉛製品２である。他に、鉄滓 299.1 ｇ、銅滓 20.7g、不明滓が出土している。分類・器種別にみると、工具（奴床、鋏）4、農耕土木具（鍬、鎌、十能）4、武器・武具・馬具（小柄・鎺・切羽・縁、鉛玉、馬蹄、轡）21、服飾具（簪）13、容器（皿、蓋）9、調理加工具（杓子、包丁、五徳、鍋）8、食事具（匙）3、調度（飾り金具）1、祭祀具（花立）1、日用品（煙管、耳掻き、毛抜き、火箸、裁縫鏝、鈴、指貫、吊金具）106、建築部材（釘･鎹）259、その他・用途不明品 303、銭貨 171 の総数 903 点である。このうち遺存状態の良好な遺物 76 点の実測図・拓本を掲載し、器種別に詳細を述べる。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。なお、遺物の形状等についてはＸ線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

1　工具

奴床（1）　Ｘ字型の挟み（掴み）具である。片方の刃を欠損し、鋲周辺は錆びて動かない。

鋏（2）　腰をＵ字型に曲げて、刃先が交差するようにした和鋏である。握り部は長く、断面は長方形だが、刃部に向かって薄くなる。

2　農耕土木具

鍬（3）　直柄の鉄製鍬身で、柄角は 60 度程度である。土を起こすための唐鍬と思われ、刃は肉厚で重量感があり、刃先は使用によりやや潰れる。

鎌（4・5）　いずれも、峰・刃部が緩やかに湾曲する半月状の曲刃鎌である。茎の先端には返しが付く。5 は小型で、木柄を固定するための輪があり、内部に木質部が残存する。

十能（6）　囲炉裏や炬燵などの灰の移動・掻き出しに使う。非常に薄い１枚の金属板を加工しており、背面には部分的に金鍍金が残る。

3　武器・武具・馬具

刀装具（7 ～ 16）　7・8 は刀子である。7 は錆化が著しく原形を損なう。9 ～ 12 は小柄の柄である。9 は中央に「丸に二ツ引」の紋が配され、11 は六郷亀甲繋ぎ、12 は麻の葉繋ぎに唐草文様をあしらう。10 は無文だが、刃物痕が複数条同一方向に流れる。13 は鎺、14 は縁金物、15・16 は切羽である。15 は外周が鋸歯状である。

馬具（17・18）　17 は轡の銜である。２本の針金状の鉄を曲げて対にし、銜環はＣ字状を呈する。18 は馬蹄である。3 × 4㎜程の方形の釘孔に角釘が６本挿入される。蹄先端側は蹄に巻き込むように立ち上がる。

4　服飾具

簪（19 ～ 22）　いずれも先が２本に別れる松葉簪で、かつ 20･21･22 は先端に耳かきの付く耳掻簪である。19・20・22 には金鍍金が施される。20・22 は、耳掻き部との境に二段の切り替えしがみられる。21 の先は銅板を切り裂くように二股にしており、断面は方形である。耳掻き部の柄は他と比べて細い。表面に彫金で梅の意匠が施される。

5　容器

皿（23）　高台見付に「□光□□」の四字がみられるが、文字は錆化によって判然としない。

蓋（24 ～ 26）　24 は鋳物の蓋である。甲頂部は平坦で、甲部・端部に窪みをもつ。口唇部には身を受けるための沈線を巡らす。甲部中央には摘みがあったと思われる。25 は金鍍金が施される蓋で、甲部中央に摘みが取り付けられる。受部は内傾する。受部径 3.7cm、摘み径 0.9cm、摘み付け根径 1.8cm である。26 は球状の摘みの付く蓋で、摘みの付け根には補強帯と花形の座金を咬ます。円筒状の容器の蓋か。

6　調理加工具

杓子（27）　横柄の杓子である。柄の断面は長方形で、腕部と別に製造した後、溶着する。腕部の底は非常に薄く、錆化による劣化が著しい。全体に金鍍金を施す。

五徳（28）　環の内側 5 か所に爪が付属していたと思われるが、一部を欠損する。脚はない。環の径は 15.7cm 程である。

7　食事具

匙（29）　椀部が雫形で浅く、少量を掬うためのものである。柄は直線的で、竹の節の意匠を施す。

8　調度

飾り金具（30）　二つの材を留めるための留め具で、金属板を L 字状に曲げている。花咲状に縁取り、径 3.5 ～ 6.0㎜の鋲孔が 3 か所穿たれる。

9　日用品

煙管（31 ～ 46）　いずれも雁首と吸口を別に製造する羅宇煙管で、31 ～ 39 は雁首、40 ～ 46 は吸口である。この内、31・33・35 ～ 40・42・45・46 は金鍍金が残存する。31 は脂反しが大きく湾曲する河骨形で、羅宇との接続部分が一段太く巻かれた肩付である。脂返しと肩の境には 2 条の溝がみられる。火皿と首部の接合部には補強帯が巻かれる。火皿や首部の銅板は厚みがあり、火皿は厚いところで 2㎜程度ある。32 も肩付の河骨形で、脂返しの径が細い。火皿には径 2.0㎜の火皿冠が穿たれる。33 は河骨形で、脂返しの径が細い。火皿には径 1.5 ～ 3.5㎜の火皿冠が穿たれる。火皿と首部の接合部、銅板の合目には蠟付した痕がみられる。34 は河骨形で、首部は長い。火皿は他遺物と比較するとやや平形である。35 は河骨形で、脂返しの湾曲が小さくなる。37・38 は首部が短く、脂返しの湾曲が殆どない。39 も脂返しの湾曲は殆どない。火皿は小さく、逆台形を呈する。35・38・39 は首の上部に凹みがみられる。恐らく、灰を捨てる際に灰落としに打ち付けたためと考えられる。44・45 は肩付の吸口である。44・45 は線刻で同一の文様を施す。46 は銅板が厚く、堅牢である。

裁縫鏝（47）　着物などの皺をのばす道具である。柄断面は方形で、上方に反る。

耳掻き（48・49）　いずれも全体に金鍍金を施し、掻取り部は丸く箆状である。48 は握り部が平坦で、表面に線刻が施される。49 は握り部先端が先細りで、掻取り部は小さい。

毛抜き（50・51）　いずれも腰を U 字型に曲げたものである。刃は先端に向けて広がるが、錆化により片方の刃先を欠損する。50 は薄く伸ばした鉄板でつくられるが、51 は厚く丈夫である。

火箸（52・53）　52 は持ち手断面が方形、先端部断面が円形である。頭部には頂点がやや潰れた方錐状の飾りがある。53 は円形の断面をもち、頭部・持ち手に 4 か所のくびれがある。先端を欠損する。頭頂部には三角形の線刻がみられる。

10　文房具

水滴（54）　極少量の水を注ぐための水滴で、アーモンド型を呈する。注ぎ口を僅かに欠損する。

11　建築部材

角釘（55・56）　いずれも断面が方形の和釘で、叩き延ばした頭部を巻いて成形する巻頭釘か。巻き込んだ箇所の大半を失う。

12　用途不明品

不明品（57 ～ 61）　57 は鉄鍋の把手か。鍋との接合部断面は凸状を呈しており、鍋に穿たれた孔に嵌め込まれたと考えられる。全体に編み込んだ縄の意匠を施す。59 は、方形の銅板を円錐状に巻いたものである。液体または粉体を移すための漏斗か。60 は仏具のお鈴に似る。61 は鋤様の道具だが、用途は不明である。

13　銭貨（62 ～ 76）

開元通宝 2、宋通元宝 1、祥符元宝 1、皇宋通宝 3、治平元宝 1、元豊通宝 4、元祐通宝 5、紹聖元宝 1、元符通宝 1、大観通宝 1、政和通宝 3、開禧通宝 1、至大通宝 1、洪武通宝 1、永楽通宝 5、寛永通宝 113、文久永宝 5、近現代銭 17、不明銭 5 点が出土している。この内、15 点の拓本を掲載した。62 ～ 71 は渡来銭で、64 ～ 68 の銭文は篆書である。72 は古寛永銭、72・73 は新寛永銭で、72 は裏元、73 は四文銭裏十一波である。75・76 は文久永宝裏十一波で、76 の銭文は草書である。

表 12　金属製品観察表

	図No.	ID	検出面	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属種別	備考
土居尻1次	35	7	Ⅰ	検出面	No. 69	雁首	51.0	15.2	7.6	6.1	Cu	金鍍金
	61	14	Ⅰ	建 1	東部	不明品	246.0	41.9	21.8	473.0	Fe	
	18	45	Ⅰ	建 2	北	馬蹄	110.6	103.9	6.6	144.5	Fe	
	17	46	Ⅰ	建 2	北	銜	107.9	88.8	11.4	22.4	Fe	
	9	75	Ⅰ	土 16	-	小柄	98.6	15.7	7.3	20.3	Fe	
	52	7	Ⅱ	検出面	No. 93	火箸	250.0	4.6	4.6	29.4	不明	
	32	8	Ⅱ	検出面	No. 94	雁首	52.2	14.4	30.1	5.1	Cu	
	21	14	Ⅱ	検出面	No. 106	簪	178.0	3.5	1.4	4.9	Cu	
	44	20	Ⅱ	検出面	No. 130	吸口	78.7	13.6	8.5	4.0	不明	
	10	32	Ⅱ	検出面	No. 184	小柄	93.8	12.6	4.0	13.7	Cu	
	48	34	Ⅱ	検出面	No. 193	耳掻き	118.0	5.8	1.3	5.0	Cu	金鍍金
	6	41	Ⅱ	井戸 8	-	十能	216.0	69.8	6.1	22.2	不明	金鍍金
	2	96	Ⅱ	検出面	-	鋏	144.6	21.6	5.1	16.8	Fe	
	47	117	Ⅱ	検出面	-	裁縫鏝	250.0	43.5	24.7	266.0	不明	
	23	1	Ⅲ	検出面	No. 15	皿	117.3	100.6	19.8	66.5	Cu	
	60	3	Ⅲ	検出面	No. 16	お鈴か	44.0	23.3	2.4	17.8	Cu	
	54	4	Ⅲ	検出面	No. 21	水滴	41.8	24.3	8.9	9.9	不明	
	11	6	Ⅲ	検出面	No. 47	小柄	96.1	14.7	4.3	8.1	不明	
	55	8	Ⅲ	検出面	No. 202	角釘	166.0	13.7	8.5	20.9	Fe	
	1	11	Ⅲ	検出面	No. 214	奴床	150.7	25.0	11.0	56.2	Fe	
	46	16	Ⅲ	検出面	No. 266	吸口	73.7	11.7	11.6	10.1	Cu	金鍍金
	38	24	Ⅲ	検出面	No. 319	雁首	34.5	13.3	13.3	5.1	不明	金鍍金
	27	28	Ⅲ	検出面	No. 339	杓子	261.0	66.5	1.4	30.9	Cu	金鍍金
	4	29	Ⅲ	検出面	No. 341	鎌	180.0	35.7	5.0	92.4	Fe	
	22	31	Ⅲ	検出面	No. 363	簪	150.1	7.0	1.4	6.6	Cu	金鍍金
	12	32	Ⅲ	検出面	No. 380	小柄	88.2	16.9	3.6	12.0	Cu	
	58	45	Ⅲ	溝 301	No. 532	不明品	149.0	5.4	2.9	8.6	不明	
	45	48	Ⅲ	土 368	No. 538	吸口	68.1	7.7	7.7	3.3	不明	金鍍金
	5	51	Ⅲ	土 368	No. 599	鎌	87.0	24.5	24.0	28.3	Fe	
	8	53	Ⅲ	土 368	No. 616	刀子	157.5	11.2	2.9	9.7	Fe	
	14	67	Ⅲ	木樋 301	No. 816	縁金物	38.7	21.0	8.3	10.0	Cu	
	53	112	Ⅲ	検出面	-	火箸	216.0	5.2	4.9	22.5	不明	
	51	1	Ⅳ	検出面	No. 963	毛抜き	87.4	23.5	8.7	9.3	Fe	
	15	6	Ⅳ	井戸 501	No. 1010	切羽	34.9	19.2	0.5	1.5	Cu	
	62	10	Ⅰ	-	-	開元通宝	24.2	23.9	1.1	2.6	Cu	621 年
	69	30	Ⅱ	-	No. 153	開禧通宝	24.7	24.6	1.0	3.3	Cu	1201 年、裏元
	63	58	Ⅲ	検出面	No. 32	宋通元宝	24.5	24.1	1.0	2.7	Cu	960 年
	67	59	Ⅲ	検出面	No. 34	元符通宝	25.1	25.0	1.1	3.0	Cu	1098 年、篆書
	66	61	Ⅲ	検出面	No. 40	紹聖元宝	23.5	23.3	1.1	2.7	Cu	1094 年、篆書
	72	83	Ⅲ	-	No. 292	寛永通宝	24.3	24.3	1.2	3.7	Cu	1626 ～ 166 年、古寛永銭
	70	94	Ⅲ	-	No. 442	洪武通宝	22.7	22.7	0.8	1.6	Cu	1368 年
	71	95	Ⅲ	-	No. 443	永楽通宝	24.3	24.2	1.1	2.4	Cu	1408 年
	65	96	Ⅲ	-	No. 471	元豊通宝	24.0	24.0	1.1	3.0	Cu	1078 年、篆書
	68	101	Ⅲ	-	No. 574	政和通宝	24.9	25.2	1.1	3.3	Cu	1111 年、篆書
	64	104	Ⅲ	-	No. 605	治平元宝	24.2	24.2	1.2	2.6	Cu	1064 年、篆書
大名町3次	49	17	Ⅰ	土 90	桶内	耳掻き	12.6	3.5	1.6	4.4	不明	金鍍金
	41	24	Ⅰ	溝 11	No. 1	雁首	51.2	10.3	14.1	8.8	Cu	
	29	25	Ⅰ	溝 11	南	匙	120.0	23.0	2.0	13.4	不明	
	42	34	Ⅰ	礫集中部	-	吸口	79.5	10.4	10.2	9.3	Cu	金鍍金
	20	89	Ⅱ	土 113	No. 2	簪	173.0	7.9	1.6	9.0	Cu	金鍍金
	30	91	Ⅱ	土 119	-	飾り金具	41.4	37.7	8.1	11.2	Cu	
	24	93	Ⅱ	土 123	No. 9	蓋	113.3	97.3	10.5	109.7	Fe	
	25	95	Ⅱ	土 123	No. 12	蓋	52.1	52.1	21.2	48.8	Cu	金鍍金
	19	99	Ⅱ	土 123	No. 27	簪	105.2	4.1	0.8	2.7	Cu	金鍍金
	26	100	Ⅱ	土 123	No. 40	蓋	124.5	87.6	29.3	51.7	Cu	
	13	101	Ⅱ	土 123	No. 41	鑢	28.4	24.8	8.3	19.6	Cu	
	50	102	Ⅱ	土 123	No. 46	毛抜き	74.0	13.2	10.4	6.1	Fe	
	37	105	Ⅱ	土 123	-	雁首	36.9	18.5	16.9	3.6	Cu	金鍍金
	56	107	Ⅱ	土 123	-	角釘	117.7	12.5	5.7	11.8	Fe	
	43	113	Ⅱ	土 123	-	吸口	35.9	9.6	9.3	2.7	Cu	
	39	146	Ⅱ	土 123	-	雁首	55.1	9.1	9.0	2.0	Cu	金鍍金
	28	164	Ⅱ	土 143	No. 13	五徳	111.5	30.4	6.7	89.6	Fe	
	40	168	Ⅱ	土 143	南	吸口	58.9	8.6	9.6	4.2	Cu	金鍍金
	16	178	Ⅱ	土 147	No. 1	切羽	38.9	22.2	-	0.9	Cu	
	3	200	Ⅱ	溝 31	No. 10	鍬	230.0	75.0	61.0	715.0	Fe	鍬身
	33	227	Ⅱ	検出面	北	雁首	48.5	15.4	31.2	5.2	Cu	金鍍金
	36	235	Ⅱ	検出面	東	雁首	55.2	15.2	18.8	5.7	Cu	金鍍金
	7	243	Ⅲ	土 65	-	刀子	134.0	11.7	2.5	8.5	Fe	
	59	246	Ⅲ	土 98	-	不明品	74.0	21.1	15.3	9.7	Cu	漏斗か
	31	248	Ⅲ	土 127	-	雁首	64.3	15.7	27.6	9.2	Cu	金鍍金
	34	269	-	南壁	-	雁首	72.0	15.8	20.2	9.9	Cu	
	57	276	Ⅰ	焼土 15	-	不明品	51.3	44.3	6.1	34.3	Cu か	鍋の把手か
	76	39	Ⅰ	検出面	No. 2	文久永宝	26.6	26.5	0.8	3.7	Cu	1863 年、裏 11 波、草書
	75	228	Ⅱ	検出面	西	文久永宝	26.6	26.5	0.6	3.3	Cu	1863 年、裏 11 波
	73	229	Ⅱ	検出面	西	寛永通宝	22.4	22.4	0.7	2.2	Cu	1668 ～ 1869 年、新寛永銭、裏元
	74	230	Ⅱ	検出面	西	寛永通宝	27.7	27.7	0.8	4.2	Cu	1998 ～ 1869 年、新寛永銭、裏 11 波

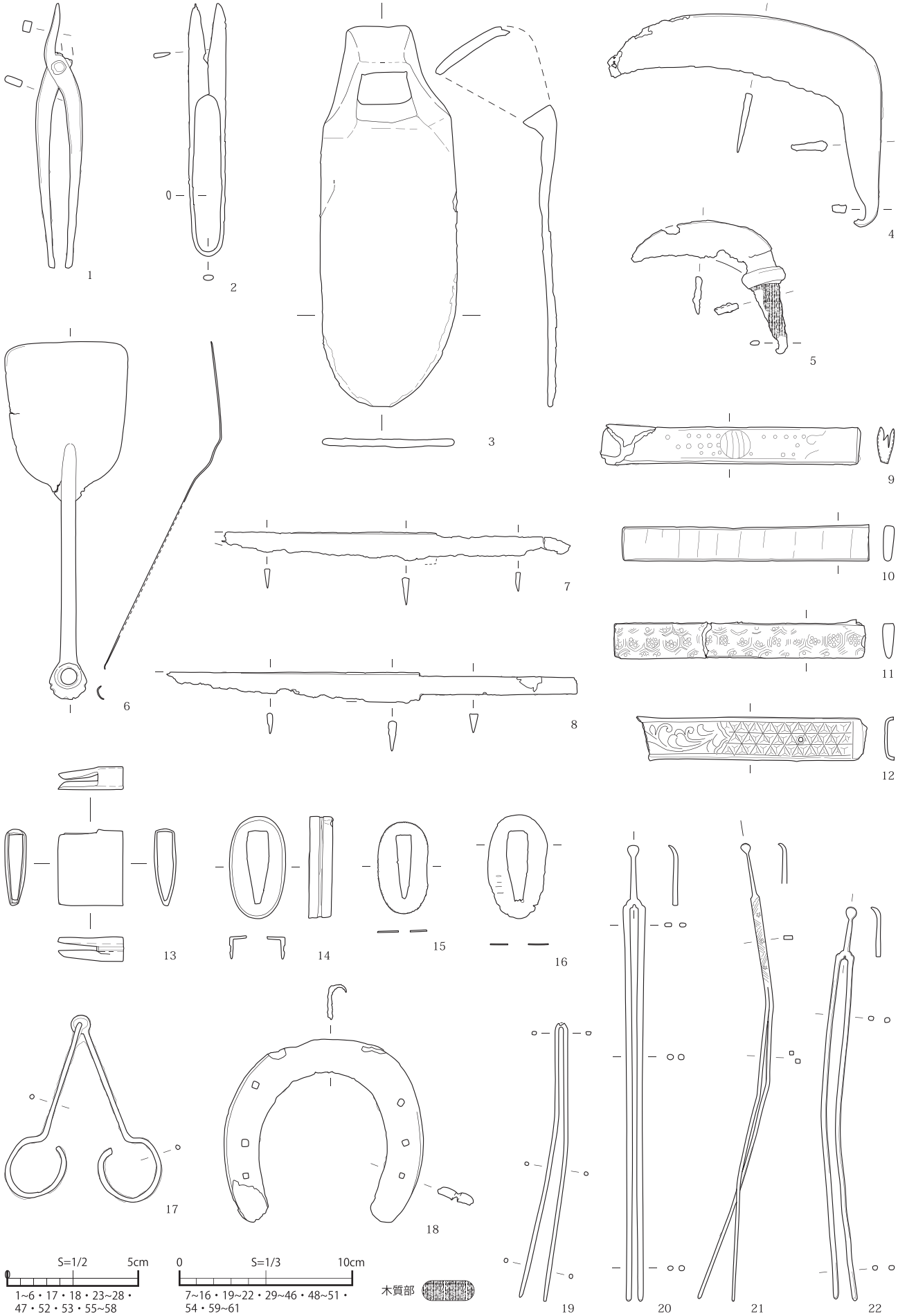

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
S=1/2
5cm
1~6・17・18・23~28・
47・52・53・55~58
0
S=1/3
10cm
7~16・19~22・29~46・48~51・
54・59~61
木質部

図 119　金属製品　(1)

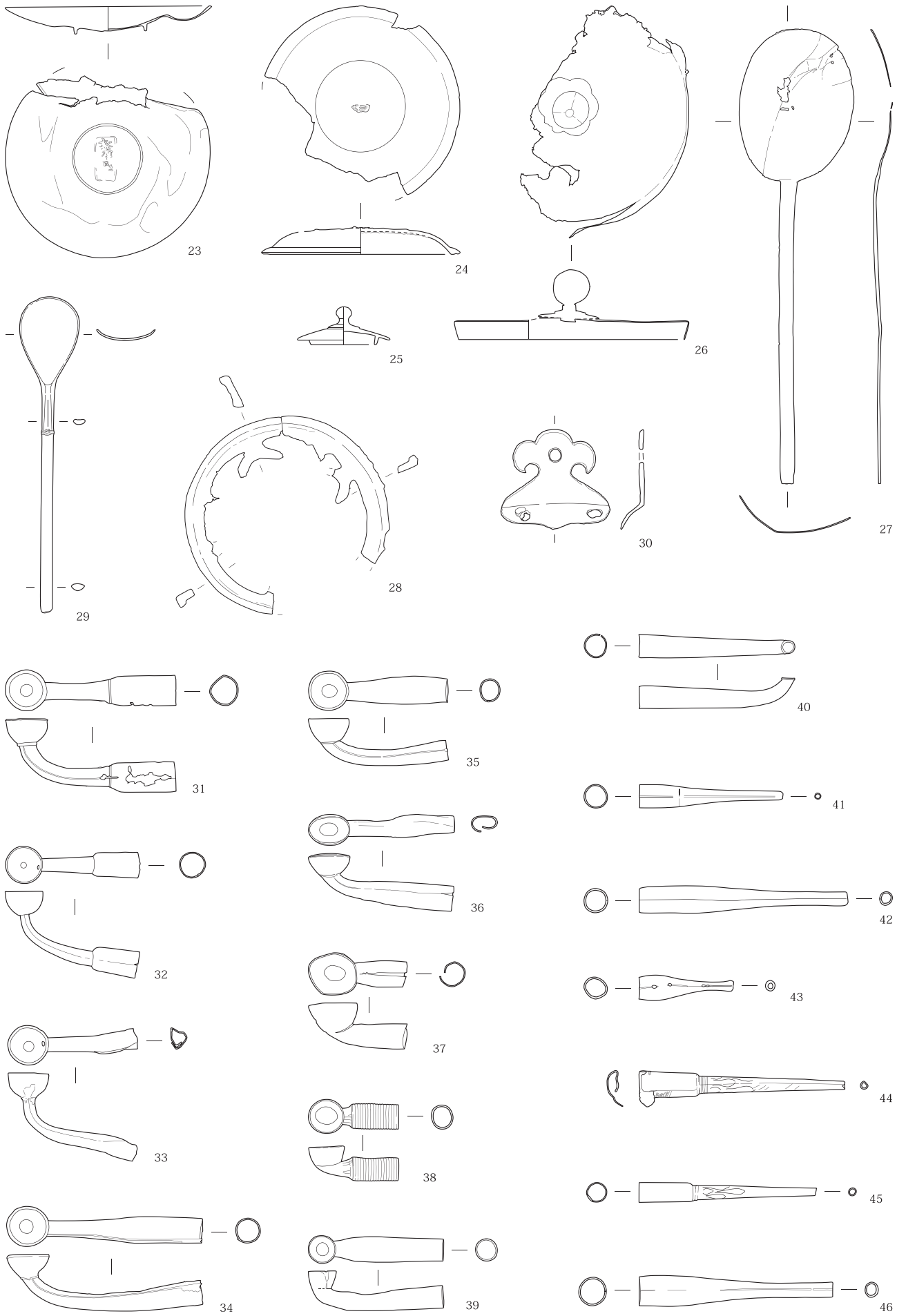
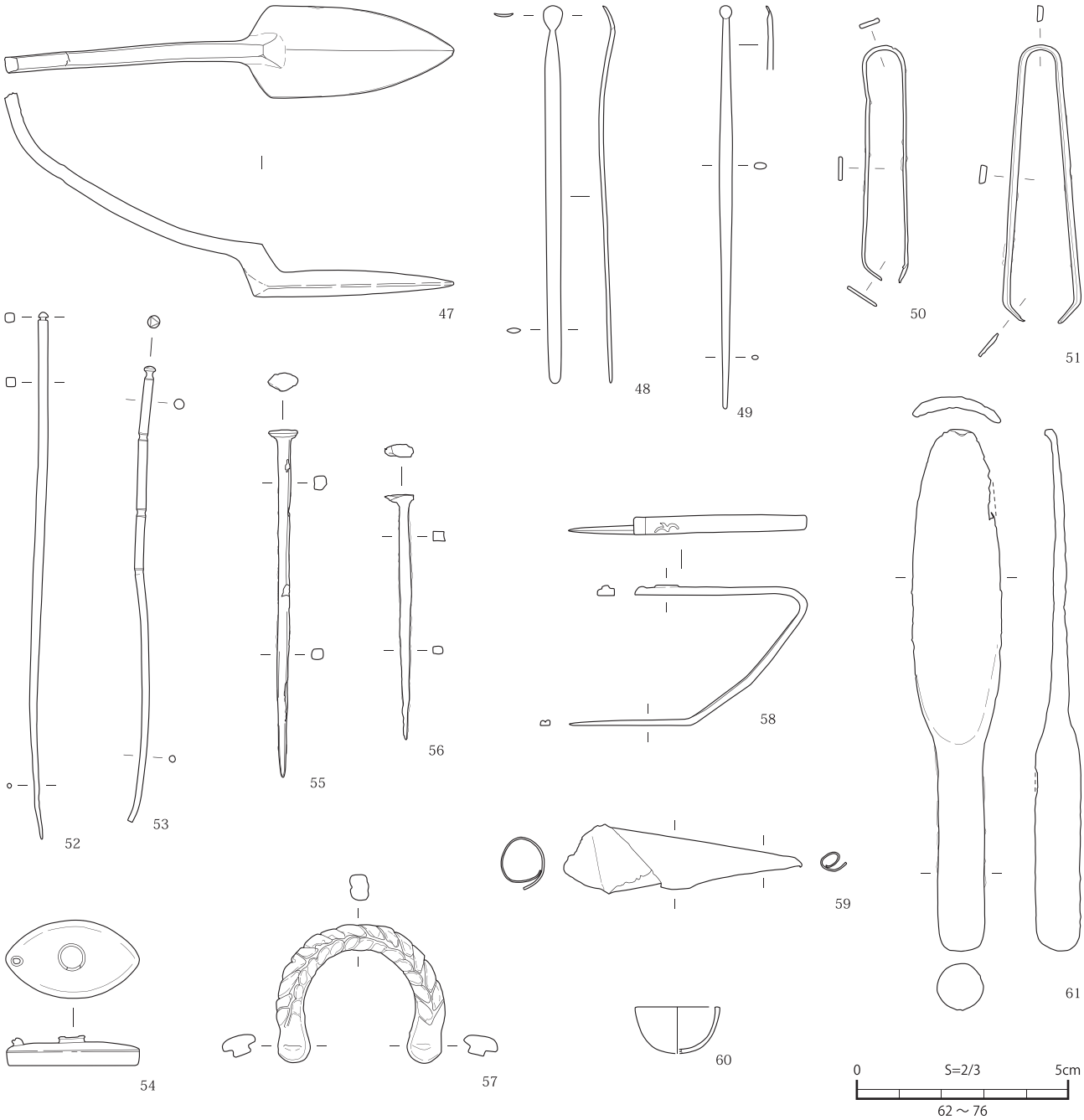


図 120　金属製品　(2)


47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
0
S=2/3
5cm
62～76

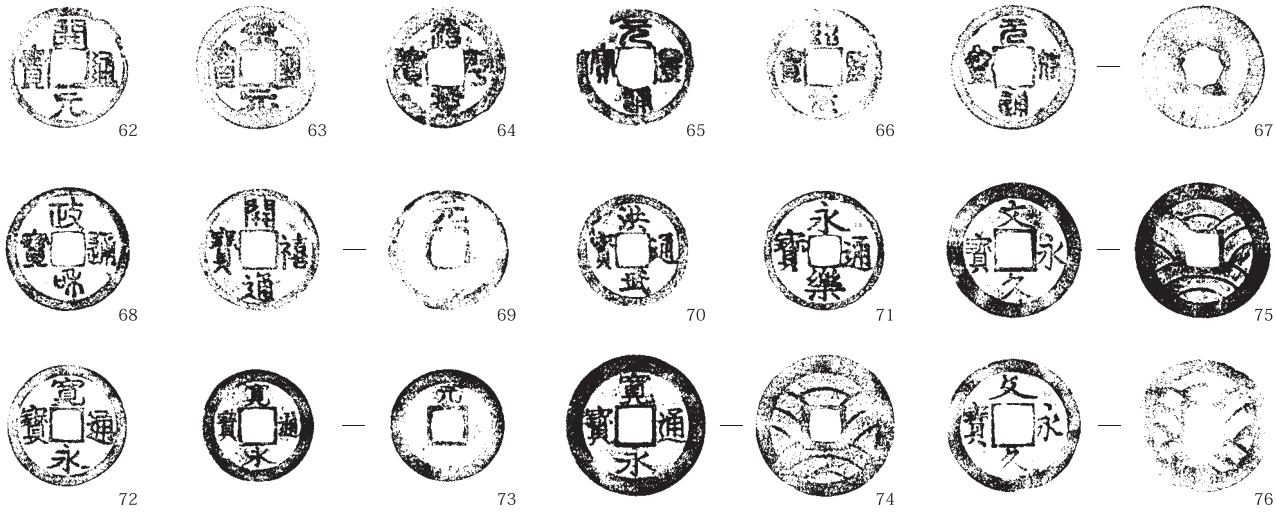

62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
75
72
73
74
76

図 121　金属製品　(3)

第７節　ガラス製品・その他材質製品（表 13・14、図 122、写真図版 24）

今回の調査では、ガラス製品、べっこう製品、骨製品、合成樹脂製品、壁材、布製品、その他不明品が出土した。遺物の生産時期は近世～昭和戦後頃まで下るが、本願寺別院、旧本願寺保育園等、近代以降の調査地の土地利用との関連を鑑みてこれらを本稿で報告する。出土遺物のうち図示可能な 25 点の実測図に加え、4 点のガラス瓶の写真及び拓本を提示した。以下、概要を種別に述べる。

ガラス製品（1 ～ 15）

石蹴りの玉、ビー玉、おはじき、瓶、簪・笄、不明片等 43 点が出土。うち 11 点を図示、瓶 4 点の写真及び拓本を掲載した。1・2 は石蹴りの玉である[文献3]。いずれも裏面に木の葉形の陰刻がある。3 は白地に赤・緑・水色が入るマーブル玉、4 はビー玉で、いずれも近代以降のものと思われる[文献2]。5 ～ 8 はガラス瓶であり、刻印・形状等から、近代から戦後期の生産品と比定できる[文献6]。5 は合成樹脂製の蓋・中蓋が残存する薬瓶で、胴部に「小林タムシチンキ」、蓋には「☆ KOBAYASHI」の陽刻がある。6 は胴部に「柳屋ヘヤートニック」の陽刻がある、1952 年以降の生産品である。7・8 はインク瓶である。7 は底部に「RIGHT INK 2 oz MAID IN JAPAN」の陽刻、8 は底部に「SIMCO」の陽刻が施され、8 の内部にはインクが付着している。9 ～ 15 は簪・笄である。ほとんどが両端欠損しているが、10 の表裏には菊あるいは桜と思われる花の意匠が施される。ガラス製の簪・笄の出現期は明確ではないが、笄が一般化するのが貞享・元禄の頃、現在のイメージに近い簪の原型は正徳・享保の頃に始まると言われる[文献8]。享保末頃にはガラス製の簪も存在していたとされ、今回の出土品は武家屋敷に伴う可能性も考えられる。

べっこう（玳瑁）製品（16・17）

大名町３で２点、Ⅱ検土坑 123 埋土内より出土した。16 は半透明の黄色で断面方形、17 は黒色がかったオリーブ色に一部半透明の黄色で断面双円形を呈し、いずれも両端欠損する。簪または笄と思われる。べっこう製の笄が多く用いられるようになったのは、正徳・享保の頃からとされる[文献5]。

骨・貝製品（18 ～ 27）

14 点出土、うち 10 点を図示した。18 は歯刷子である。骨製歯刷子は明治 15 ～ 16 年頃から使用され、大正 4 年頃にはセルロイド製へ移行する[文献1]。19 は断面隅丸方形で箸状の笄か。20 は断面円形で先端部を尖らせた針である。21 は断面板状で平面形は箆あるいはばち状を呈し、両端欠損する。簪あるいは眉毛を整える化粧道具などか。22 は裁縫用の箆で、使用時の擦痕が残る。23 ～ 25 は貝製の白碁石である。26 は印章で、大小２面の印面を両端に持つが、印の内容は判然としない。27 は２枚貝の右殻を貝杓子として使用したもの[文献4]で、柄を取り付けるための２か所の穿孔が残る。貝種はイタヤガイか[文献4・7]。

合成樹脂製品（28・29）

5 点出土、うち 2 点を図示した。いずれも簪である。28 は簪頂部の飾り部で、円板部の両面に花模様が描かれる。29 は完形で頂部に円形の飾り部が付く。飾り部の意匠は不明だが、緑青の様な付着物が見られる。

〈参考文献〉

文献１　松田裕子・編　1991『改訂　歯ブラシ事典』 学健書院
文献２・３　多田敏捷・編　1992『おもちゃ博物館　④めんこ・ビー玉・⑱女の子の玩具』 京都書院
文献４　江戸遺跡研究会　2001『図説　江戸考古学研究事典』
文献５　矢野憲一　2005『ものと人間の文化史　126・亀』 財団法人法政大学出版局
文献６　桜井準也　2019『増補　ガラス瓶の考古学』 六一書房
文献７　高重博　2019『ネイチャーウォッチングガイドブック　日本の貝』 誠文堂新光社
文献８　露木宏・宮坂敦子　2020『すぐわかる日本の装身具　－飾りと装いの文化史－』 東京美術

表 13　ガラス製品観察表

	ID	図No.	器種	検出面	遺構	時代	色調 / 透明度	長 / 口径 (cm)	幅 / 底径 (cm)	厚 / 高 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1	土 1- ガ -1	1	石蹴りの玉	Ⅰ	建 2	大正末～昭和初期	黄～オリーブ / 透明	4.25	4.15	1.00	27.10	完形	表面『村正』+ 刀 2 本 裏面木の葉形のロゴ　気泡複数
2	土 1- ガ -2		ビー玉	Ⅰ	建 2	明治末以降	濃緑 / 不透明	1.60	1.55	1.50	5.40	完形	形状歪み、製造時のキズ残る
3	土 1- ガ -3		ビー玉	Ⅰ	建 2	明治末以降	緑 / 透明	1.65	1.60	1.65	6.70	完形	気泡複数、製造時のキズ残る
4	土 1- ガ -4		錦玉か	Ⅰ	建 2	明治末以降	淡緑＋濃緑 / 透明	1.60	1.60	1.60	5.90	完形	気泡複数、製造時のキズ残る
5	土 1- ガ -5		おはじき	Ⅰ	建 2	明治後半以降	白色 + 朱色 / 不透明	1.65	1.55	0.30	1.30	完形	
6	土 1- ガ -6		おはじき	Ⅰ	建 3	明治後半以降	無色 / 透明	1.65	1.50	0.35	1.50	完形	気泡複数
7	土 1- ガ -7		ビー玉	Ⅰ	建 3	明治末以降	濃青 / 透明	1.60	1.55	1.55	5.40	完形	内部に気泡複数 表面の一部にねじ切った痕跡
8	土 1- ガ -8		簪	Ⅰ	検出面	不明（近代以降か）	水色？ / 不透明	-	-	-	(4.60)	一端欠損	断面：長方形 崩壊しかけのため正確な形状不明
9	土 1- ガ -9	9	簪	Ⅲ	木樋 5	近世か	黄 / 半透明（黒斑無し）	(5.00)	1.00	0.50	(7.40)	一端欠損	断面：長方形
10	土 1- ガ -10		瓶	Ⅲ	検出面	大正以降か	淡青緑 / 透明	口：2.55	-	胴厚：0.50 高：(5.60)	(17.50)	破片	頸部片のみ残　気泡少ない
11	土 1- ガ -11		瓶	Ⅲ	検出面	昭和 4 ～ 20 年代か	緑 / 半透明	-	-	胴厚：0.60	(26.00)	破片	胴部片のみ残、『～ TOR ～ ～ ISKY　～ OF　JAPAN』の陽刻
12	土 1- ガ -12		瓶	Ⅲ	検出面	明治末～大正頃か	淡青緑 / 透明	長：3.72 口：2.35	底：2.99	胴厚：0.40 高：8.65	72.10	完形	内部に気泡多数
13	土 1- ガ -13	10	簪	Ⅲ	検出面	近世以降	無色 / 透明	(6.20)	1.55	0.50	(8.00)	両端欠損	断面：長方形　菊 or 桜の形状部有 表面全体に付着物
14	土 1- ガ -14		簪	Ⅲ	検出面	近世以降	無色 / 不透明	9.95	1.60	0.35	2.00	完形か	断面：円形、平面 U 字状
15	土 1- ガ -15		簪	Ⅲ	検出面	近世以降	無色 / 不透明	-	-	0.35	(1.20)	不明	崩壊しかけのため正確な形状不明
16	土 1- ガ -16		ビー玉	Ⅲ	検出面	明治末以降	淡青緑 / 透明	1.55	1.55	1.55	6.30	完形	内部に気泡複数
17	土 1- ガ -17		ビー玉	Ⅲ	検出面	明治末以降	淡青緑 / 透明	1.55	1.55	1.55	6.10	完形	内部に気泡複数
18	土 1- ガ -18		ビー玉	Ⅲ	検出面	明治末以降	淡青緑 / 透明	1.55	1.55	1.55	5.60	完形	内部に気泡複数
19	土 1- ガ -19	2	石蹴りの玉	Ⅲ	検出面	大正末～昭和初期	濃青 / 透明	3.50	3.20	0.90	14.70	完形	内部に気泡複数 表面陰陽・△、裏面木の葉形の陽刻
20	土 1- ガ -20		ビーズか	-	-	不明	濃青 / 不透明	0.35	0.35	0.25	0.05	完形	近代以降か
21	大 3- ガ -1	3	マーブル玉	Ⅰ	水路 1	大正～昭和か	白地 + 複数色 / 不透明	1.60	1.59	1.59	5.2	一部欠損	球形、白地に赤・青・緑の模様 一部割れ痕跡有
22	大 3- ガ -2	5	薬瓶	Ⅰ	検出面	昭和戦後か（20 年代頃）	茶 / 透明	長：4.78 口：1.50	底：3.76	胴厚：- 高：6.27	49.7	完形	胴部外面陽刻「小林タムシチンキ」 樹脂製の外蓋及び中蓋付属
23	大 3- ガ -3	6	整髪料瓶	Ⅰ	検出面	昭和 27 ～ 31 年頃	無色 / 透明	長：3.15 口：0.58	幅：1.40	胴厚：- 高：5.35	21.1	完形	胴部外面陽刻 「柳屋ヘヤートニック」
24	大 3- ガ -4	7	インク瓶	Ⅰ	検出面	昭和 4 ～ 20 年代か	無色 / 透明	長：5.60 口：3.25	底：5.31	胴厚：- 高：6.71	115.0	完形	底部外面陽刻 「RIGHT INK 2 oz MAID IN JAPAN」
25	大 3- ガ -5	8	インク瓶	Ⅰ	検出面	大正～昭和初期か	無色 / 透明	口：28.8	底：4.64	胴厚：- 高：7.38	97.8	完形	底部外面陽刻「SIMCO」 内部インク付着、表面虹彩
26	大 3- ガ -6	4	ビー玉	Ⅰ	検出面	明治末以降か	淡青緑 / 半透明	1.76	1.76	1.78	7.5	一部欠損	球形、整形雑、内部に気泡多数
27	大 3- ガ -7		簪	Ⅱ	溝 31	近世か	青緑 / 半透明	(2.05)	0.40	0.20	0.7	両端欠損	
28	大 3- ガ -8		簪	Ⅱ	溝 31	近世か	無色 / 透明	(2.90)	0.32	0.31	(0.5)	両端欠損	断面：円形
29	大 3- ガ -9	11	簪	Ⅱ	土 114	近世か	白 / 不透明	(4.59)	0.72	0.48	(5.4)	両端欠損	断面：長方形
30	大 3- ガ -10	12	簪	Ⅱ	土 123	近世か	濃青 / 透明	(4.51)	0.55	0.53	(4.3)	両端欠損	断面：方形
31	大 3- ガ -11	13	簪	Ⅱ	土 123	近世か	無色 / 透明	(5.10)	0.99	0.53	(7.8)	両端欠損	断面：長方形
32	大 3- ガ -12	14	簪	Ⅱ	土 123	近世か	黒 / 不透明	(1.51)	(0.42)	(0.28)	(0.3)	両端欠損	断面：楕円形、平面えのき状
33	大 3- ガ -13	15	簪	Ⅱ	土 123	近世か	水色 / 透明	(5.48)	0.57	0.58	(6.1)	両端欠損	断面：方形
34	大 3- ガ -14		ビーズか	Ⅱ	土 131	不明	無色 / 半透明	0.40	0.35	0.20	0.05	完形	近代以降か
35	大 3- ガ -15		簪	Ⅱ	土 142	近世か	無色 / 透明	(1.81)	0.58	0.41	(1.5)	両端欠損	断面：長方形
36	大 3- ガ -16		棒状製品	Ⅱ	土 143	不明	無色 / 透明	(7.56)	0.52	0.52	(5.8)	一端欠損	断面：円形　内部ねじれ 内部に針金状の気泡筋 4　工具か
37	大 3- ガ -17		不明	Ⅱ	土 143	不明	青緑 / 不透明	2.13	0.89	0.24	0.6	破片	
38	大 3- ガ -18		豆けり	Ⅲ	検出面	昭和初期か	白地 + 朱色 / 不透明	2.76	2.51	0.80	8.4	完形	平面：円形 断面：扁平な楕円形
39	大 3- ガ -19		化粧瓶	-	壁	大正末～昭和 20 年代頃	白 / 不透明	長：4.92 口：3.12	幅：4.10 底：2.80	胴厚：0.39 高：4.83	73.4	完形	スクリュー栓のねじ条　ロゴ無 胴部外面 2 単位の突出部
40	大 3- ガ -20		不明	-	壁	不明	白 / 不透明	5.70	3.37	0.67	8.2	破片	
41	大 3- ガ -21		不明	-	壁	不明	白 / 不透明	2.02	1.40	0.18	0.7	破片	
42	大 3- ガ -22		ビー玉	-	排土	明治末以降	濃青 / 半透明	2.41	2.40	2.38	18.1	完形	内部に無数の気泡
43	大 3- ガ -23		おはじき	-	排土	明治後半以降か	白 / 不透明	1.77	1.77	0.50	2.2	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形 中央部に孔（φ 0.16cm）

※（　）内数値は残存値を表す

表 14　その他材質製品観察表

	ID	図No.	器種	検出面	遺構	時代	材質	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
44	土 1- 他 -1	18	歯ブラシ	Ⅰ	建 2	明治以降	骨	10.40	1.00	0.75	8.50	一端欠損	
45	土 1- 他 -2	23	碁石（白）	Ⅰ	建 3	近世以降	貝	2.10	2.10	0.60	3.40	完形	表裏ミガキ
46	土 1- 他 -3		壁材	Ⅰ	検出面	不明	漆喰か	(6.80)	(3.70)	0.50	22.50	破片	2 片有
47	土 1- 他 -4	19	笄か	Ⅰ	検出面	近世以降	骨	16.00	0.65	0.65	7.10	ほぼ完形	断面隅丸方形
48	土 1- 他 -5	28	簪	Ⅰ	検出面	近代以降	合成樹脂	7.70	4.40	0.45	10.40	一端欠損	簪頭頂部の飾り部、表裏に花の絵
49	土 1- 他 -6		不明	Ⅱ	検出面	不明	骨か	2.55	2.55	0.10	1.40	完形	平面輪形
50	土 1- 他 -7	27	貝杓子	Ⅱ	検出面	近世か	イタヤガイか	5.65	5.95	0.10	(13.10)	ほぼ完形	穿孔 2 か所あり（杓子取り付け部分か）
51	土 1- 他 -8		笄か	Ⅲ	建物跡	近世以降	骨か	7.80	0.60	0.60	3.43	一端欠損	断面隅丸方形
52	土 1- 他 -9		布	Ⅲ	土 424	不明	不明	-	-	0.10	14.90		
53	土 1- 他 -10	20	針状製品	Ⅲ	検出面	不明	骨か	8.50	0.60	0.50	1.50	完形	穿孔無し
54	土 1- 他 -11	21	箆状製品	Ⅲ	検出面	不明	骨	(11.95)	(2.35)	0.20	(7.40)	両端欠損	
55	土 1- 他 -12		箆	Ⅲ	検出面	近世以降か	骨	(12.60)	2.10	0.60	16.70	一端欠損	柄側端部欠損
56	土 1- 他 -13		不明	Ⅲ	検出面	近代以降	ゴムか	9.00	-	0.35	0.20	破損	
57	土 1- 他 -14		壁材	Ⅲ	-	近世以降か	漆喰	(5.20)	(4.15)	0.60	(10.10)	破片	
58	土 1- 他 -15		不明	Ⅲ	-	近代以降	合成樹脂	(7.05)	(4.70)	0.20	(4.20)	破片	
59	土 1- 他 -16		不明	Ⅲ	-	近代以降	不明	(6.10)	(3.25)	0.30	(5.00)	破片	同一個体か　板状製品
60	土 1- 他 -17		不明	Ⅲ	-	近代以降	不明	(7.15)	(3.40)	0.30	(5.90)	破片	同一個体か　板状製品
61	土 1- 他 -18		不明	Ⅲ	排土	不明	不明	1.95	1.85	0.65	2.70	完形	
62	土 1- 他 -19	26	印章	Ⅳ	溝 504	不明	角か	1.40	1.20	1.20	1.40	完形	頸部穿孔、両端面に印章（朱の跡明瞭）
63	土 1- 他 -20	22	箆	Ⅳ	検出面	近世以降か	骨	13.00	(2.40)	0.35	(12.10)	一部欠損	柄根本付近に穿孔
64	土 1- 他 -21	29	簪	-	-	近代以降	合成樹脂	8.85	1.55	1.00	2.21	完形か	頭頂部表面一部剥離、内部に朱色の付着物
65	大 3- 他 -1		不明	Ⅰ	土 35	不明	不明	7.20	0.45	0.45	6.20	折れ	2 片に割れ　U 字状
66	大 3- 他 -2		ボタン	Ⅰ	土 59	近代以降	合成樹脂	1.00	1.00	0.20	0.30	ほぼ完形	二つ穴
67	大 3- 他 -3		ボタン	Ⅰ	土 88	近代以降	合成樹脂	1.55	1.55	0.30	1.20	完形	三つ穴
68	大 3- 他 -4	24	碁石（白）	Ⅰ	検出面	近世以降	貝	2.05	2.05	0.55	3.20	完形	
69	大 3- 他 -5	25	碁石（白）	Ⅰ	検出面	近世以降	貝	2.15	2.15	0.40	3.00	完形	
70	大 3- 他 -6		貝杓子	Ⅱ	溝 31	近世か	貝	-	-	0.15	(14.20)	破損	穿孔あり（杓子取り付け部分か）
71	大 3- 他 -7	16	簪	Ⅱ	土 123	近世か	べっこうか	(4.67)	0.45	0.45	(3.0)	両端欠損	断面：方形
72	大 3- 他 -8	17	簪	Ⅱ	土 123	近世か	べっこうか	(4.15)	0.56	0.25	(1.8)	両端欠損	断面：双円形
73	大 3- 他 -9		壁材	Ⅲ	撹乱	不明	スレ - トか	(8.20)	(5.60)	0.40	34.60	破片	板状
74	大 3- 他 -10		壁材	Ⅲ	撹乱	不明	漆喰	(3.95)	(2.10)	0.70	7.20	破片	

※　（　）ない数値は、残存値を表す

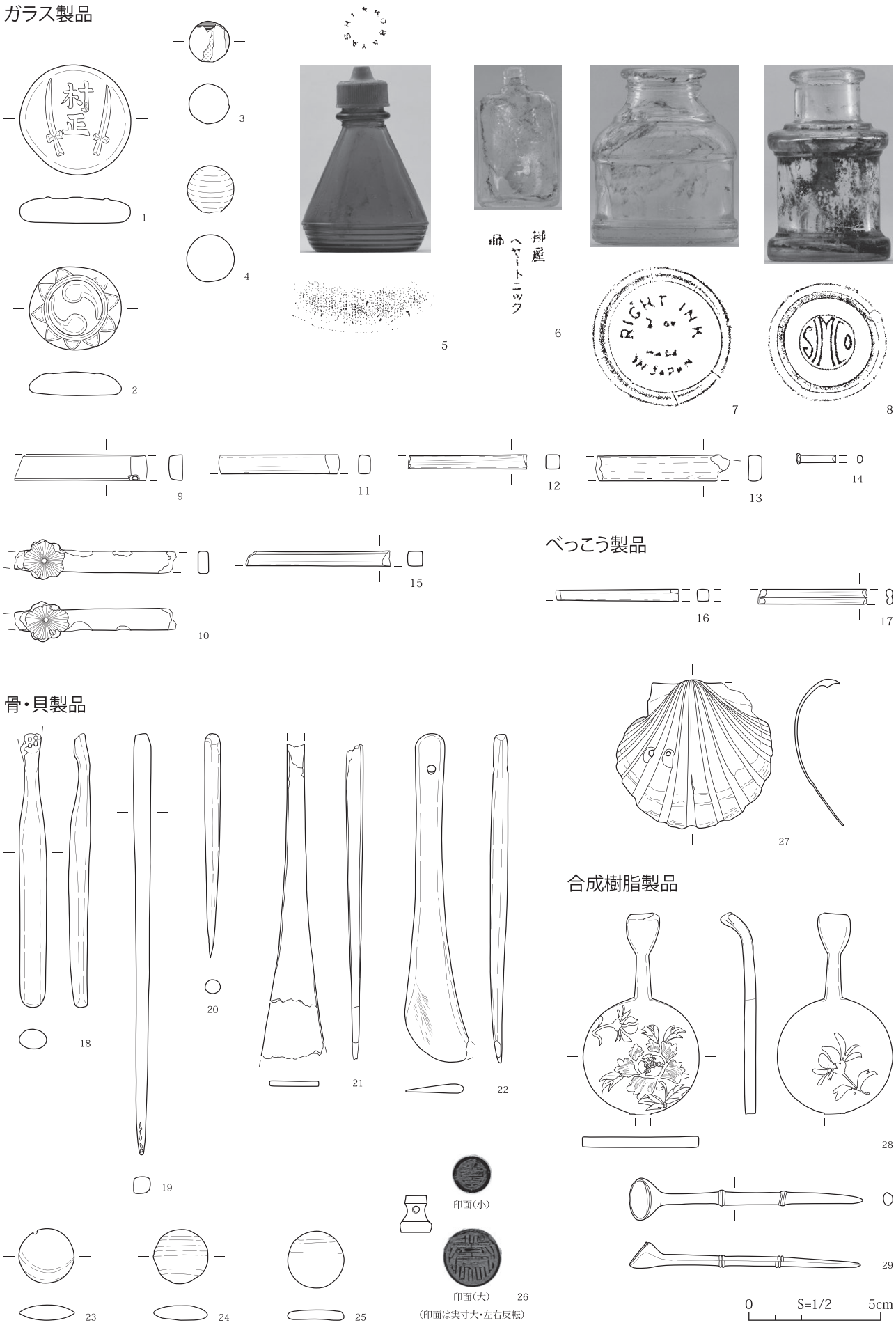


図 122　ガラス製品・その他材質製品

第８節　自然遺物（表 15 ～ 17）

出土した自然遺物のうち、動物遺存体 389 点と植物遺存体 2,331 点、計 2,720 点について肉眼観察で同定を実施した。なお、大名町３では 31 点の動物遺存体を（一社）文化財科学研究センターへ委託し、肉眼及び双眼実体顕微鏡での観察、形態的特徴および現生標本との対比によって同定をおこなっている。

1　動物遺存体

哺乳類　土居尻１の哺乳類出土骨 50 点のうちニホンジカが 32 点と大半を占め、次にウマ８点と続く。ほぼ全ての骨がⅢ・Ⅳ検で出土しており、出土遺構は溝 301（屋敷境）・土 430（ゴミ穴）・溝 504（水道遺構）で多く、廃棄されたものと考えられる。大名町３では、Ⅰ検で 18 点、Ⅱ検で 131 点の出土骨を確認し、ニホンジカとウマの骨では解体痕が観察された。特筆すべきは、Ⅱ検の土 161 と土 183 でのイヌとネコの出土骨で、ほぼ全身分が揃い解体痕も散見されないため愛玩動物として飼育されていたと考えられる。

鳥類　土居尻１では 11 点、大名町３では 13 点の出土骨を確認した。役畜のニワトリや野生動物のキジ

表 15　骨出土遺構一覧表

調査名	検出面	出土遺構	同定種／部位									
			ニホンジカ	カモシカ	イノシシ	イヌ	ネコ	タヌキ	ウマ	鳥類	魚類	他
土居尻1次	Ⅰ	石垣Ｆ										不明
	Ⅱ	検出面				歯				鳥類 / 中根中足骨		不明
	Ⅲ	溝 301	橈骨・大腿骨・中手骨・踵骨・上腕骨・橈骨・距骨							ニワトリ / 上腕骨		
		木桶 303										不明
		土 313	中手骨・中節骨・鹿角									
		土 342								キジ?/ 上腕骨		
		土 345										ほ乳類
		土 352										不明
		土 368							大腿骨			
		土 397	橈骨									
		土 416								カワウ / 手根中手骨		
		土 430	肩甲骨・基節骨・脛骨・中足骨							ニワトリ / 烏口骨・尺骨・脛足根骨、キジ / 橈骨	マダイ / 歯骨、タイ科 / 椎骨	
		P418							指骨			
		検出面	脛骨・橈骨・踵骨・中手骨・角・肩甲骨	中手骨・脛骨	踵骨			大腿骨	上腕骨・指骨・歯	猛禽類 / 爪・不明		不明
	Ⅳ	溝 503	頸椎									
		溝 504	頭蓋骨（破片）・上腕骨・中足骨・踵骨							鳥類 / 中根中足骨		
		溝 505										ほ乳類
		土 519	中手骨									
		土 522										ほ乳類
		土 543							不明			
		土 560	上腕骨									
		検出面	角									
大名町3次	Ⅰ	溝 9	橈骨									
		溝 15								不明		
		溝 16										ほ乳類／肋骨
		土 23					下顎骨・上腕骨・尺骨・脛骨・他					
		検出面					大腿骨			キジ科 / 大腿骨・尺骨、烏類 / 肋骨		
	Ⅱ	溝 7	椎骨（腰椎）						踵骨			
		土 7	趾骨（中節骨）									
		土 85								カモ科 / 上腕骨		
		土 110	椎骨（腰椎）									
		土 114								小型鳥類 / 頭蓋骨・下顎骨・手根中手骨・他	マダイ / 主上顎骨・前上顎骨・角骨・椎骨・他	
		土 119					脛骨・大腿骨					
		土 123	大腿骨			下顎骨	大腿骨寛骨			鳥類 / 四肢骨	タイ科 / 椎骨、硬骨魚網 / 肋骨	サンゴ類
		土 124									魚類 / 椎骨・他	ほ乳類
		土 125									魚類	
		土 129								カラス科 / 尺骨		
		土 131										
		土 143								カモ科 / 尺骨、ハト科 / 烏口骨		ほ乳類／四肢骨
		土 161				頭蓋骨・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・肋骨・椎骨						
		土 183					頭蓋骨（破片）・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・椎骨・肋骨・寛骨・脛骨・腓骨・踵骨・中手 / 足骨・指骨）					
		検出面		中手骨								

など大半が食用とされていた種類であり、やはり残骸を廃棄したものと考えられる。

魚類　同定できたものはマダイとタイ科で８点あり、遠く信州まで運ばれてきた海産物である。被熱による白色変化が見られるものもあった。

貝類　今回の調査では８種が同定できた。シジミ以外は、海水域・汽水域の食用貝であり、魚類の出土骨と合わせて流通の様子がわかる資料である。大名町３の土 114 でのシジミ（多くがマシジミか）の出土数は群を抜いており、アワビやサザエなどの高級食材と比べ多く食膳に並べられたと思われる。

2　植物遺存体

土居尻１では９種を同定し、Ⅰ検を除く検出面で多くの種子が確認できた。Ⅲ検の井戸 309 や桶 303 の水道遺構ではカボチャ、ウリ類が多く出土している。Ⅱ検の検出面で確認されたオニクルミは、食用部が内包されていた完形の状態で多数出土している。大名町３ではⅡ検からのみの出土であるが、同定可能なもので 10 種、同定不可能なものを含め多種多様な種子が水道遺構を中心に大量に出土した。

〈参考文献〉

文献１　松井　章　2006『動物考古学の手引き』奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター

文献２　金原裕美子　『松本城三の丸跡出土遺物化学分析業務委託報告書』（一社）文化財科学研究センター（松本市教育委員会所蔵）

文献３　鈴木庸夫・高橋冬・安延尚文　2018『増補改訂草木の種子と果実』　誠文堂新光社

表 16　貝類出土遺構一覧表

			シジミ	ハマグリ	サルボウ	アワビ	不明二枚貝	サザエ	マイマイ	タニシ科	不明巻貝
土居尻１	Ⅰ	建１	2								
		検出面							1		
	Ⅱ	検出面	1					3			
	Ⅲ	土３２７		1	4						
		土３４２						1			
		土４０７						1			
		土４３０									1
		検出面		1			1				
	Ⅳ	溝 502				1					
大名町３	Ⅱ	土 114	48（他小破片多数）						8		1
		土 125	5								
		壁面								1	

表 17　種子類出土遺構一覧表

	検出面	遺構	オニクルミ			モモ		ウメ			サクラ		アンズ		カボチャ		ウリ	ヒョウタン	ブドウ？	マツ		その他		合計
			完	半	破片	完	半	完	半	破片	完	半	完	半	完	半	完	完	完	完	半	種類	完	数
土居尻1	Ⅰ	建					1																	1
	Ⅱ	検出面	53	4		2	5																	64
		不明																				シイタケ	1	1
	Ⅲ	検出面		2		1																		3
		井戸 309		1		5	2								25			1						34
		桶 301															1							1
		桶 303															57							57
		溝 302				1																		1
		池状遺構																		2		モミガラ	1	3
		土 301		2			1																	3
		土 330	1	2																				3
		土 336																1						1
		土 341		4		1																		5
		土 342		5			2																	7
		土 362		6		3	3																	12
		土 385		1																				1
		土 395		1																				1
		土 397		3																				3
		不明	1	4	2								1											8
	Ⅳ	検出面																		1				1
		溝 504				1																		1
		土 545															6							6
		土 597													50									50
		集石列				1																		1
大名町3次	Ⅱ	土 114			1	11	2	27		1			2		590	105	2		357			不明	137	1235
		土 123																				モミガラ	多量	多量
		土 124				3		9	1		5	4		2	3	1	6		4	6	1	不明	37	82
		土 125		2	3			9			2	3	1			2	16		7	2	1	不明	28	76
		土 131									2					1	309		2			不明	326	640
		土 203															30							30

第Ⅵ章　松本城三の丸跡出土漆器の考察

はじめに

松本城跡および松本城下町は女鳥羽川由来の扇状地扇端部にあたり、湧水に富んだ地形であるため、本調査でも残存状態の良好な大量の木製品を得ることができた。本章では、かつて松本城三の丸に居を構えた武士の生活を理解するための材料として、飲食にまつわる木製の生活什器、とりわけ出土点数の多い漆器椀類を中心に、考古学的視点からどのようなアプローチが可能であるかを試みたい。また、漆器の材質・製作技法についても若干の推察を交えながらみていきたい。

1　松本城三の丸跡出土漆器椀類の器形別時期区分

⑴　漆器椀類の器形分類〈図 123〉

本報告では漆器椀類を器形分類するにあたり、［注１］の分類を再考し、器形の特徴によって６類に大別した。以下、各分類の特徴を挙げる。

腰丸形　腰から口縁にむかって丸みをもって立ち上がるもの。腰の張ったものや、球体を半截したような深型のもの、扁平・浅型のものなどがあるが、ここでは細分せず一括する。

腰高腰丸形　深型の丸腰で、高台が高く器高が高いもの。高台内の挽き込みが浅いものから深いものまである。器厚は厚いものが多い。

腰形　腰に一本の稜をもつ。いわゆる「一文字腰椀」である。腰が張っており、胴は内湾しながら立ち上がるものと直線的なものがある。

腰高腰形　腰形に高い高台をもつもの。

壺形　腰に二本の稜をもつ面取り椀で、器高が高い。なお、［注２］の分類では腰に稜をもたない腰丸を含むが、当遺跡での出土はない。胴はおよそ垂直に立ち上がり、「かつら」と呼ばれる凸帯をもつものもある。平形に対して口径が小さい。

平形　壺形に対して扁平な形態を有し、器高は低く口径が大きい。面取り椀と腰丸のものがある。壺形と同様の系譜上にあると考えられる。平形の椀蓋は全体に扁平だが、口縁が開く「落とし蓋」と、口縁がわずかに立ち上がる「被せ蓋」の２種類がある。

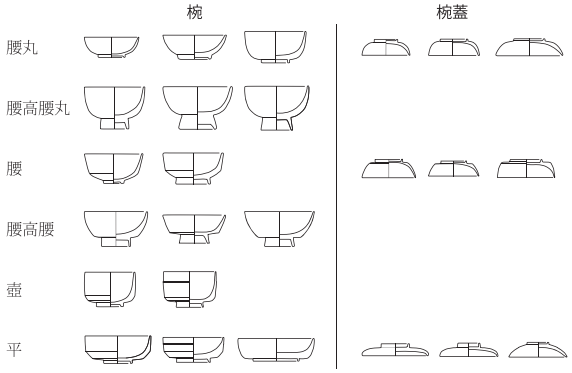


図 123　松本城三の丸跡出土漆器椀・椀蓋の器形分類

器形不明・他　遺物の残存状況により器形分類できないものを「器形不明」としている。また、皿・高杯・その他変形椀などについては器形によらず「他」としている。

⑵　漆器椀類の編年〈図 126・127〉

土居尻１出土の 119 点と大名町３出土 125 点の漆器椀類（椀・椀蓋・皿・高杯）計 244 点のうち、実測可能な 213 点（土居尻 88 点、大名町 125 点）を器形別に編年表として図 126 にまとめた。この編年表は、遺構の共伴関係にある土器･陶磁器によって推定された年代と、遺構の相対的層位関係に基づいて配列したものである。16 世紀～江戸時代幕末までの期間を９時期に分割して配列している。なお、配列するにあたって、漆器椀類の型式細分（半球形・腰張形・深型など）、機能（飯椀・汁椀・飯椀蓋・汁椀蓋など）は考慮していない。遺構・共伴遺物より年代を推定することができないものについては、器形によらず「時期不明」にまとめている。実測図は 10 分の１スケールで掲載している。なお、土居尻１出土の椀類については［注 1］に掲載している実測図を一部修正し、デジタルトレースしている。また、漆器椀・椀蓋の出土量を時期・器形別に表したものが図 127 である。

⑶　漆器椀類の変遷〈図 124〉

まず、図 124 をもとに松本城三の丸跡出土漆器椀類の器種を概観すると、最も多いのは 179 点出土の椀が 73％、次いで椀蓋が 60 点で 25％である。皿は４点、高杯は１点のみと僅少で、出土量に大き

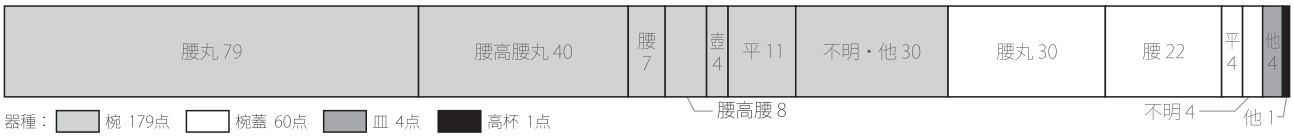


図 124　松本城三の丸跡出土漆器椀類器種器形内訳

な偏りがみられる。器形をみると、腰丸形は椀・椀蓋ともにおよそ半数を占めていることがわかる。

図 127 をみると、椀の腰丸・腰高腰丸形は 16 ～ 18 世紀前葉に出土量が多く、表の左半にまとまりがみられる。特に、腰高腰丸形は 17 世紀までを主体とし、18 世紀中葉以降にはほとんど姿を消している。また、図 126 の腰高腰丸形をみると、高台内あるいは見込みの挽き込みが浅く体部の器厚が厚いものと、高台内あるいは見込みの挽き込みが深く器厚が薄いものがある。前者は中世には一般的にみられる形状で、折敷や畳の上に置いて食事をしたものと考えられる。後者は腰丸形の椀・椀蓋を合わせた三重椀・四重椀といった重椀として、あるいは若干数出現する壺・平形の椀を加えた椀揃として、丈の高い脚付膳に並べて使われた可能性がある。中世によく使われた折敷が、江戸時代になると膳に代わることで、前者は早い段階で廃れたのだろう。後者は重椀・椀揃としてわずかに残るものの、江戸時代中期以降は腰高腰形の椀に代わるようにみえる。16 世紀にはみられなかった腰・腰高腰・平形は 17 世紀以降出現し、幕末になると存在感を増す一方、腰丸形は減少する。平形は一般に煮物などのおかずを供する器として認識されるが、当遺跡の江戸時代以後の遺構からは、シジミ、ハマグリ、サザエなどの食用と思われる二枚貝が散見されるほか、鯛の骨、焼塩壺、薬味入れなどが出土している。食の多様化が進むことで食漆器の器種も必然的に増加し、大型でないものが幕末まで残ったと考えられる。

また、腰丸形が減少する原因として、前述の事由に加えて陶磁器製のご飯茶碗の普及が挙げられる。江戸時代前期では大半が漆器で構成されていた食膳具であるが、江戸時代後期になると陶磁器碗の大衆化が起こり、幕末・近代以降になると「飯ワン＝陶磁器」という認識におおよそ置き換わる。松本城下においても、18 世紀に陶磁器製の飯碗が少量ながら出現し、18 世紀後葉～幕末には数を増す。この時期の漆器椀をみると、腰丸形は扁平なものが多く、飯椀として使用されたと思われる椀はほとんど姿を消している。このことから、18 世紀後葉～ 19 世紀初頭は「飯椀」から「飯碗」への転換期であったといえるだろう。

他に、腰高腰丸形を除く椀・椀蓋に共通する特徴として、高台の形状の変化が挙げられる。17 世紀頃までは高台が外に開く「ハの字高台」がほとんどであるが、18 世紀以降は高台が垂直になる[注3]。

2　松本城三の丸跡出土漆器椀類の製作技法

⑴　木地の取得〈図 125〉

土居尻 1 出土漆器椀類については、北野信彦氏が調査・分析しているため、そちらを参照されたい[注4]。大名町 3 出土椀類の木地をみると、横木地板目取りが 52 点、横木地柾目取りが 69 点、木地・木取りが不明なものが 4 点である。竪木地の椀類は土居尻 1 ・大名町 3 ともに確認できなかった。木地の特徴として、竪木地は歪みが生じにくく丈夫であるため、轆轤による薄挽きにも十分に耐えうる強度をもつ。しかし、製材・加工時の木材の廃棄部分

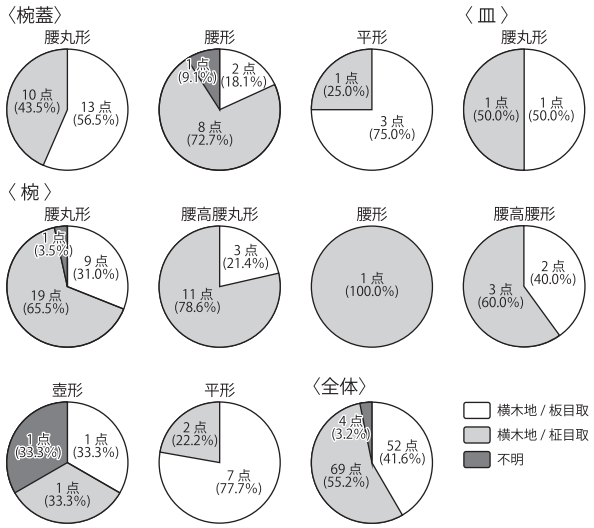


図 125　大名町第 3 次調査出土漆器椀類の木地

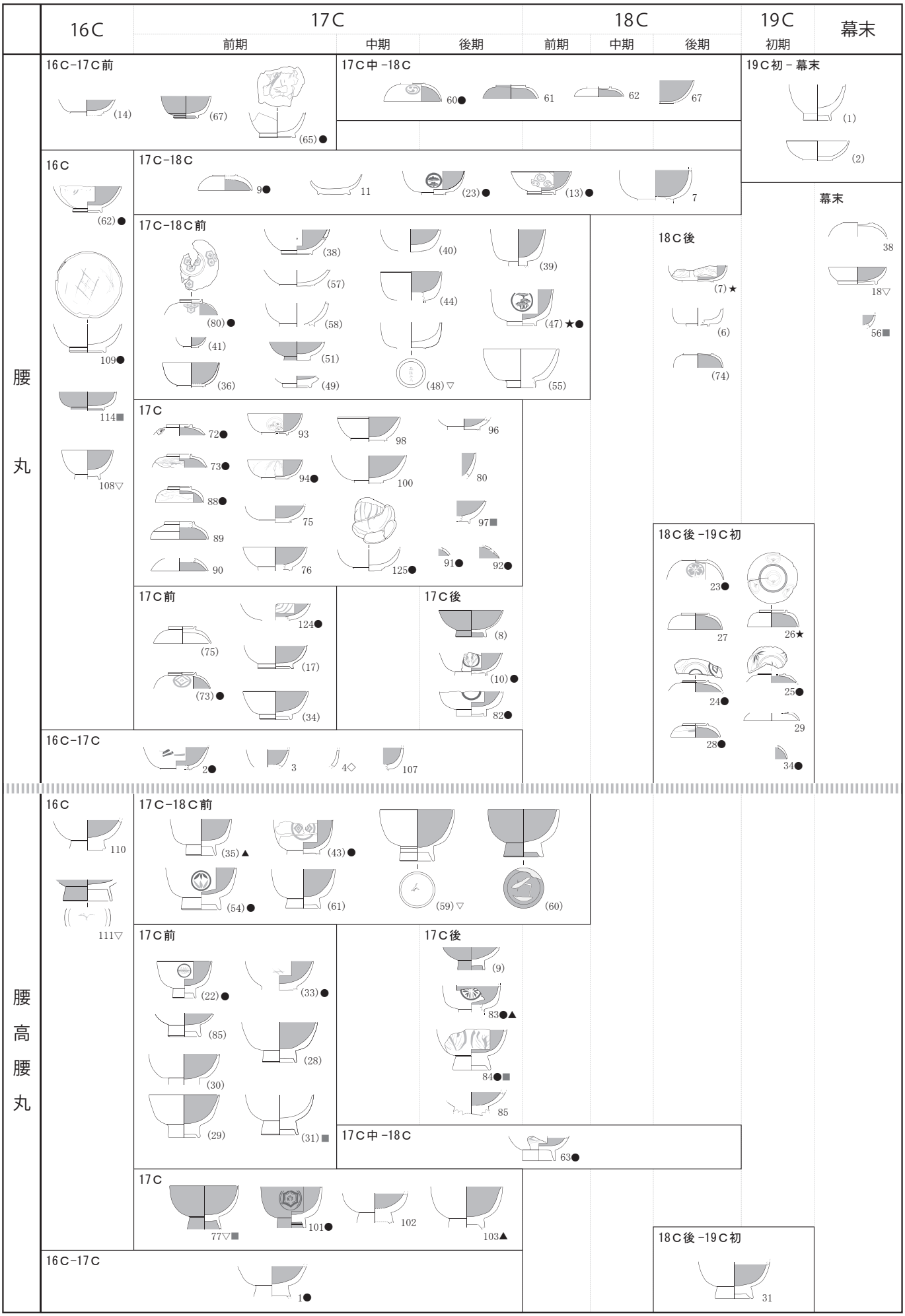
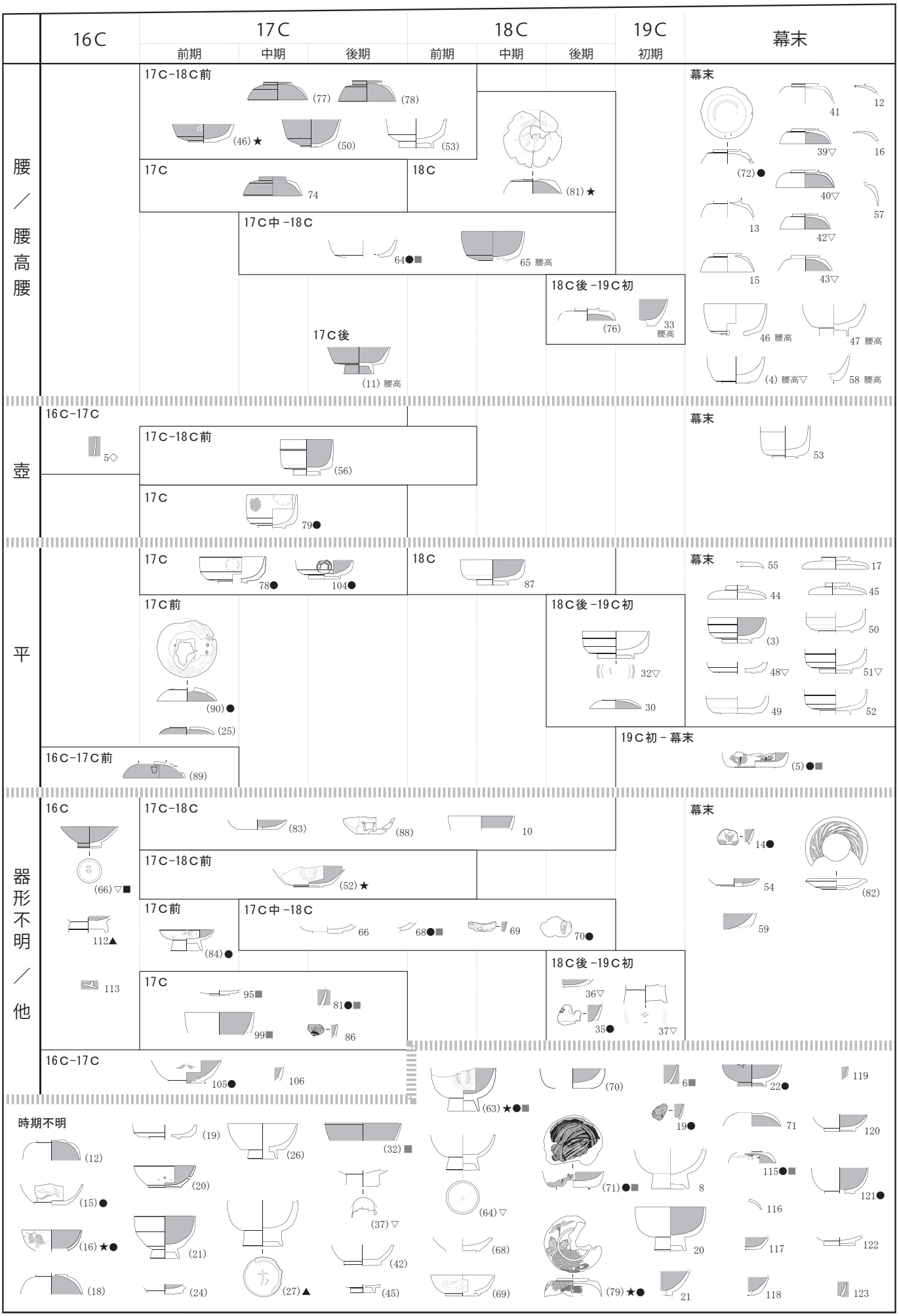


図126　松本城三の丸跡出土漆器椀類編年表(左)

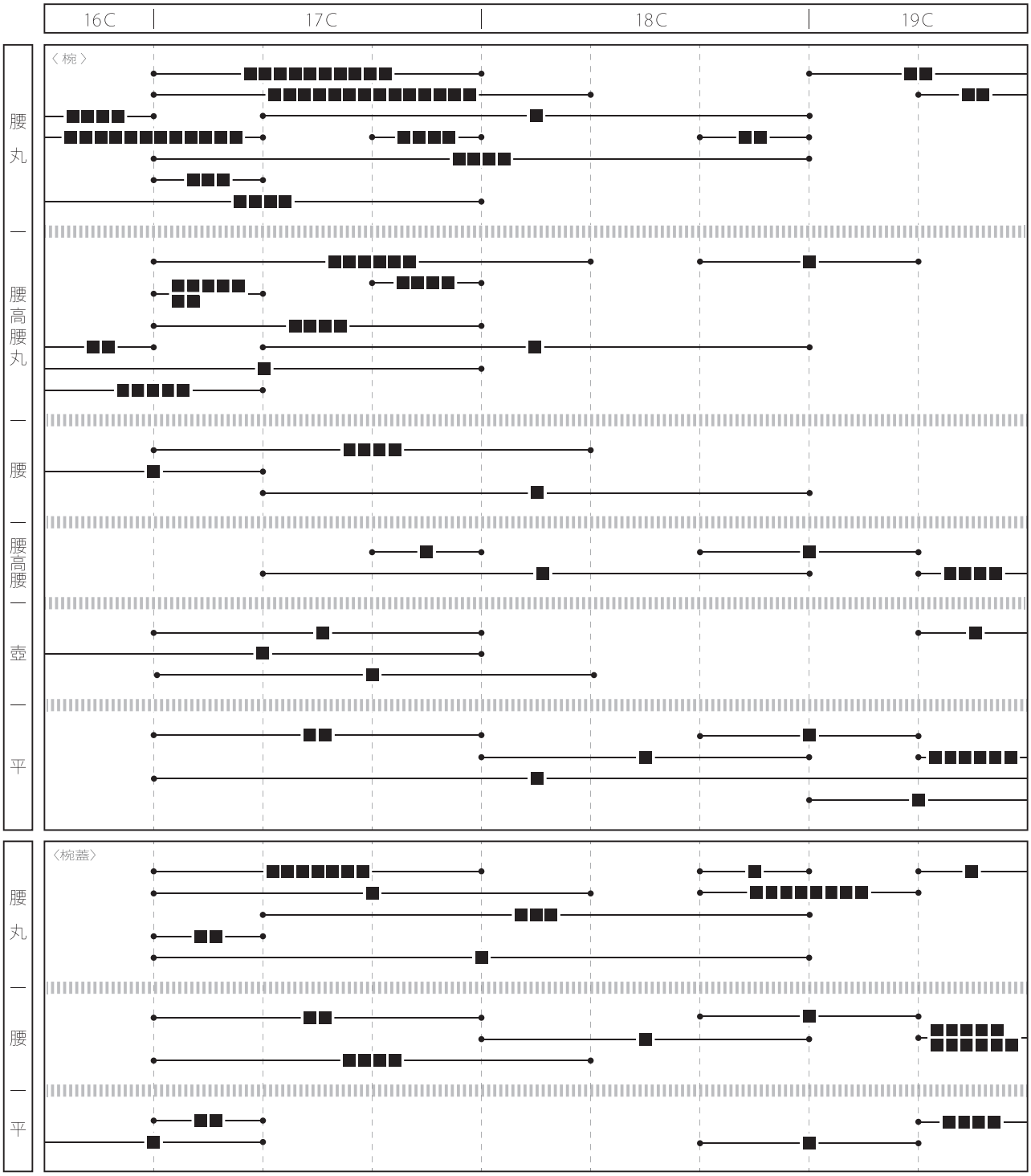


黒漆 / 赤色漆・潤漆 / 蒔絵 / 色漆（黄・青・不明）

漆絵：● 銘：▽ 蒔絵：★ 漆液容器：■ 漆下地：◇ 被熱：▲

土居尻第1次調査：（図No.） / 大名町第3次調査：図No.

（右）



※ 図113・114に図示していない土居尻1出土の椀類31点を含む

図 127　松本城三の丸跡出土漆器椀・椀蓋の器形別出土状況

が多いために一本の木から生産できる量は限られる。対して、横木地は収縮や欠けが生じ易いものの、製材・加工効率が良く、より多くの製品を得ることが可能であることから、横木地が採用された可能性がある。

器形別にみると、横木地柾目取りは腰丸・腰高腰丸・腰・腰高腰形の椀、腰形の椀蓋が優勢であるが、横木地板目取りは腰丸形の椀蓋と平形の椀・椀蓋が優勢であった。一般にトチノキ材は心材が広く、木地として使用できる辺材が少ないため板目取りが適する一方、ブナ材は芯に近いところまで利用が可能であり、木の狂いが少なく木地が多く取れる柾目取りが適する[注4]。腰高の椀は口径が大きく器高が高いため、横木地柾目取りの材が優先して用いられたのであろう。一方、腰丸形の椀蓋と平形の椀・椀蓋は他の器形と比べると口径に対して器高が低く、横

木地板目取りが木地の取得に適していたのだろう。

⑵　下地処理と塗漆の時期変化〈図 128・表 11〉

木地の下地処理法については、生漆に鉱物性粘土や珪藻土などを混ぜた下地漆を刷毛や箆で塗布する「漆下地[注5]」と、炭粉に柿渋や膠を混ぜた「炭粉下地[注6]」の２種類が主である。下地は複数回重ねたり、炭粉下地に漆下地を重ねる場合もある。

土居尻１出土の漆器椀類は［注４］より、２割程度が漆下地を施していることが分かっている。大名町３出土の漆器椀類で漆下地を施すものは、わずか３点（図 126- №.4・5・123）のみである。№.4・５の時期は共伴遺物より 16 ～ 17 世紀に比定され、№.123 は第Ⅲ検出面より出土している。今回出土の漆器椀類の中では古い時期に属する。

塗漆については、土居尻１・大名町３ともに江戸時代前期までは、内外面黒漆塗りの「総黒」は数が少なく、外面黒漆塗り・内面赤色漆塗りの「黒内朱」と、内外面赤色漆塗りの「総朱」の漆器椀類が大半を占める[注7]。江戸時代後期になると、総朱はほとんどみられず、幕末には総黒が主となる。特に、平形の椀・椀蓋はいずれも炭粉下地の層が厚く、黒漆を複数回重ねた後に呂色仕上げを施しており、漆下地に劣らず非常に堅牢な仕上がりとなっている。

⑶　加飾技法〈図 129、写真図版 25〉

松本城三の丸跡出土漆器椀類のうち、およそ２割に加飾が認められる。16 世紀および 16 ～ 17 世紀前葉に比定される椀類（図 126- №.(62)・(65)・(66)・109・111）をみると、総黒は内面に漆絵、黒内朱は外面に漆絵、総朱は高台見付に銘が記される。いずれも線描きで、赤色漆のみの単色で描かれる。江戸時代になると、およそ 17 世紀（図 126- №.(22)・2・82・83・101・104）と、18 世紀後葉～ 19 世紀初頭（図 126- №.24・28・34・35）の２時期に黄色漆（写真１）で加飾した漆器椀類が認められる。また、蒔絵[注8]を外面に施した華やかな漆器椀類（図 4 - №.(7)・(46)・(52)・(79)・(81)・26）が出現する。江戸時代の加飾は 16 世紀までとは一変し、複数色の色漆や蒔絵粉・金箔を用いたり、針描[注9]・付描[注10]・描割[注11]など複数の技法を組み合わせることで多種多彩な意匠が施されている（写真２～ 5）。なお、土居尻１では金粉・金箔による加飾のある資料が７点あるが、大名町３では１点内面黒漆塗・外面総金箔貼りの漆器が出土している。

土居尻１Ⅲ検からは、漆絵と消蒔絵[注12]の技法を併用した漆器椀蓋（図 126- №.(79)、写真４～ 8）が出土している。椀蓋の外面・高台見付に菊花文様が漆絵によって描かれるが、赤色漆の花弁先端部に金消粉[注13]を蒔暈し[注14]ている。写真７をみると、消粉が筋状に蒔かれ、花弁の縁には消粉が溜まっていることから、花弁周辺に蒔いた消粉を花弁に向けて毛房で払い蒔きしたことがわかる。菊の葉と萼は青漆による漆絵で描かれる。青漆は透漆に石黄と藍

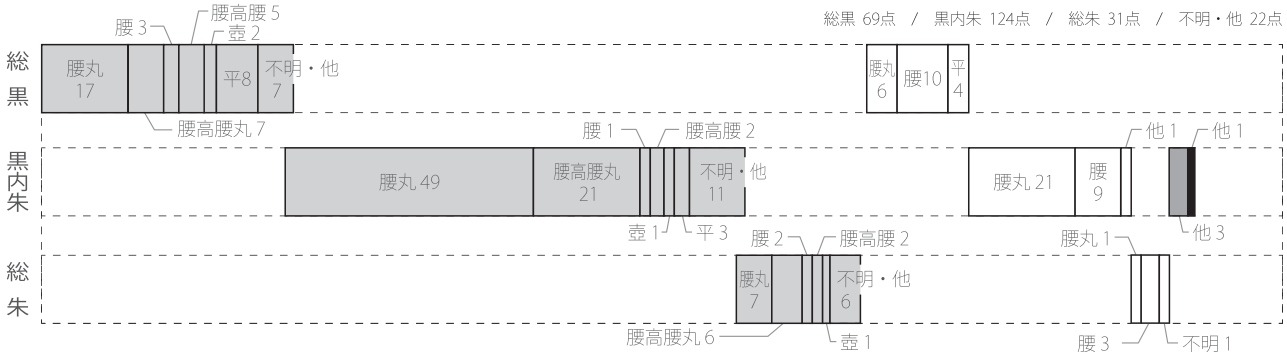


図 128　松本城三の丸跡出土漆器椀類の表層面 (上塗) 塗漆

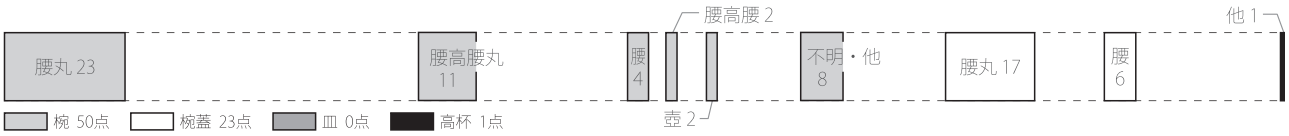


図 129　加飾 (蒔絵・漆絵) のある松本城三の丸跡出土漆器椀類

を混ぜて緑色に発色させた色漆の一種であるが、経年劣化により藍が退色している（写真 8）。この資料は遺構・共伴遺物による年代の推定ができないが、青漆は江戸時代に開発された[注15]。

3　三葉葵紋のある希少資料〈図 130、写真図版 25〉

土居尻 1 では金蒔絵で三葉葵紋が加飾された漆器（図 130、写真 9 ～ 15）が出土している。陣中道具である刀掛あるいは手拭掛と思われるが、火災に遭ったのか、脚部の一部のみが残存する。側面（写真 9）と匙面（写真 10）に三葉葵紋が加飾されるが、３つの葵の葉が異なる蒔絵技法を用いて描かれる。

写真 11 の葉と丸紋は平蒔絵で描かれ、葉脈は描割で表現される。写真 12・13 の葉は平蒔絵で描いた後、葉脈と縁を付描で表現している。匙面は後年の擦傷による影響が少なく、金粉の状態が良好であるが、側面の付描部分は他より盛り上がるため金粉が剥落しており、地描の絵漆[注16]が露呈している。写真 14 の葉は、高度な蒔絵技法である絵梨地[注17]で描かれ、葉脈と縁は付描きされる。通常、絵梨地には梨地粉という極薄く捩れた粉を使用するが、この資料では平蒔絵に使用している比較的均一でやや粒子の大きな丸粉が用いられており、金粉の使い分けはされていない。なお、絵梨地箇所には大小の銀の平目粉が混ざる（写真 15）が、他の平蒔絵や付描箇所には混入が認められないことから、意図して蒔いた可能性がある。

このように、平蒔絵・描割・付描・絵梨地といった複数の高度な蒔絵技法を駆使して描かれた三葉葵紋の漆器が、考古資料として出土する例は全国的にも非常に稀である。本来であれば廃棄されずに伝世品として残されたであろう優品であるが、大部分の焼失によってやむなく廃棄されたと考えられる。

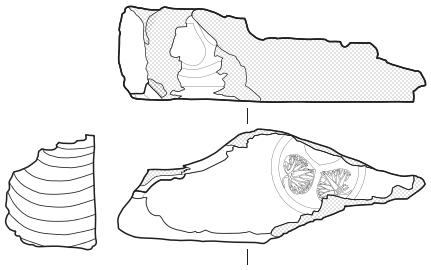


図 130　土居尻第 1 次調査出土漆器（S=1/3）

まとめと今後の課題・展開

松本城三の丸跡ではほかに、東北系椀にみられる菱文様の箔絵と赤色漆・潤朱漆で描かれた雲文様が描かれた櫃の蓋（写真 16・17）、紀州の根来塗の椀、滋賀県朽木地方で寛永年間（1624 ～ 1644）頃に生産[注18]された朽木盆の意匠が施された皿（写真 18）など、広域流通があった可能性を示唆する資料が出土している。三の丸に居住していた武士の生活水準を理解するための一助として、遺構や廃棄状況・共伴遺物といった出土状況のほか、材質・製作技法などにも注目し、複合的な視点をもって研究を重ねていく必要があるだろう。また、これらの比較材料として、三の丸形成前あるいは城下町出土の資料についてもデータを収集していきたい。

〈脚注 / 参考文献〉

注 1　松本市教育委員会 2003『長野県松本城三の丸跡 土居尻第 1 次 緊急発掘調査報告書 ～遺物編 2（木器編）～』

注 2　中井さやか 2000「都立文京盲学校地点出土漆器椀の考古学的分析」『小石川牛天神下－都立文京盲学校地点における発掘調査報告書－第三分冊（遺跡の分析編）』pp.937

注 3　木工轆轤技術の向上によって、垂直な高台であっても器を安定して据えることができるようになったためか。

注 4　北野信彦 2000「松本城下（松本城三の丸跡・伊勢町遺跡）出土の漆器について―生産技術面（材質と製作技法）からみた出土漆器資料を中心として―」『信濃』52（10）

注 5　本堅地・錆下地・本下地など、材料・工程・産地によって様々な呼称があるが、ここでは漆が共通の材料であるため漆下地と呼称する。

注 6　前者は渋下地、後者は膠下地。柿渋と膠の判別が不能であるため、ここでは炭粉下地と呼称する。

注 7　四柳嘉章氏によると、平安時代では朱漆器の使用は貴族の中でも最高位の身分の者に限定された。15 世紀以降は朱漆器を所有する武士が増加し始め、農村への普及は 16 世紀以降である[注18]。

注 8　地描漆で文様を描いた後、蒔絵粉を蒔く技法。地描漆が固化した後、蒔絵粉に生漆を染み込ませる粉固めを行い、磨き上げる。

注 9　引っ掻き技法。漆で描いた文様が固化しないうちに針状の道具で漆を掻き取り、細い線を表現する。

注 10　蒔絵や螺鈿などの上に、葉脈や流水線などの線を描く技法。平蒔絵の一種。漆絵で描く場合もある。

注 11　葉脈や境界などの線を残して描く技法。

注 12　消粉[注13]を用いた蒔絵のこと。粉の粒子が細微であるため、蒔き放しで仕上げる場合が多い。

注 13　金箔を水飴と練り潰して粉状にした、最も細かな金粉。

注 14　地塗りした漆の上に、濃淡を変えながら蒔絵粉を蒔く技法。

注 15　北野信彦 2005『近世出土漆器の研究』

注 16　蒔絵粉を蒔く際に用いる弁柄漆。地描漆の一種。

注 17　地描漆で描いた文様に梨地粉を粗く蒔き、地描漆が固化した後、透漆（梨地漆など）を塗り込む蒔絵の技法。透漆を透かして梨地粉が見え、梨の果実の肌に似ることに由来する。器物の地に施す場合は梨地（梨子地）と呼ぶ。

注 18　国立歴史民俗博物館 2017『企画展示　URUSHI ふしぎ物語－人と漆の 12000 年史』

注 19　四柳嘉章 2018「中世漆器の技術転換と社会の動向」『国立歴史民俗博物館研究報告』210

第Ⅶ章　調査のまとめ

平成３年に実施された松本城三の丸跡土居尻１次は、松本城三の丸内で行われた初の本格的な発掘調査である。わずか３か月余りの調査期間で、大方の予想に反して松本城跡の遺構と遺物が非常に良好な状態で残存していることが確かめられた。残存状態が良い最も大きな理由として、遺構検出面が最大で地表下170㎝まであることが挙げられる。この調査が遺跡の範囲を見直すきっかけとなり、平成５年に城下町全域まで広げて周知の埋蔵文化財包蔵地に指定するに至った。以降、本書の執筆時点で三の丸跡内で29か所の本調査を行っており（武家屋敷地のみ）、松本城の様相の理解が深まってきている。

松本城の立地が低湿地帯で、湧水が豊富であるということもあり、これまでの三の丸跡や城下町跡での調査は大方困難を極めるものであった。一方で、そのような環境下にあったことが功を奏し、木製品や漆器製品などが、非常に良好な状態で発見されることが多くみられた。このことは、当時の暮らしを理解する上で、重要な意味合いをもつ。本調査においても大量の出土品に恵まれたことから、特に漆器製品について考察を行うことができた。

今回報告した２調査は、三の丸跡内で行われた調査の中で最大面積を測る。そのため、武家屋敷地内の一部を確かめる調査ではなく、複数の武家屋敷跡を横断的に調査することにより、屋敷境の変遷や屋敷内での建物や施設の配置を理解するための成果が得られた。

土地の造成では、調査地の西側と東側で造成方法が異なっているということがわかった。地形的に北東から南西に向かって標高が低いため、西側では造成土が厚く（45 ～ 60㎝）、東側では薄い（10 ～ 20㎝）堆積であった。また、東側では近世初期に造成して以降、盛土は行われておらず、近世をとおして同一レベルの生活面である。地山面において西側と東側で80㎝前後あったレベル差が、幕末までには50㎝前後にまで縮小しており、造成によって調査地一帯を平坦にしようとした意識がみられる。

調査地全体の遺構密度や遺物量を俯瞰してみると、石高が低い土居尻側の方が優位であるようにみえる。また、土居尻１からは希少性の高い遺物としてⅢ検で金箔かわらけ、Ⅳ検で三葉葵紋の漆器も出土している。

遺物整理の成果として、特に漆器品が遺存状態の良いものが大量に出土したこともあり、初の編年を組むことができた。２調査分を集成した成果であるため、今後、この編年を基に資料の充実を図り、より精度を上げていくことが期待される。

土居尻１の調査から30年近く過ぎた頃、市立博物館の移転新築事業が計画され、その事業地に土居尻１を含めさらに拡大された範囲で計画され、令和元年に大名町３を実施することになった。合わせて膨大な量の出土遺物や記録物が残り、整理作業は困難を極めたが、土居尻１は平成４年度に概要報告書、平成13年度に木器編を刊行した。その後、年号が令和になり実施された大名町３と合わせて整理作業を継続させ、今回報告書が刊行できる運びとなった。なお、新博物館の開館年（令和５年）に刊行するに至った。

最後になりましたが、本調査の実施と本書の刊行にあたり、ご協力いただいた地元をはじめとする関係者、関係機関各位、作業に携わった皆様、例言に記した皆様に深甚なる謝意を表し結びとします。

写真図版１

土居尻１　Ⅰ検全景（東から）

土居尻１　Ⅰ検建１（南東から）

土居尻１　Ⅰ検建２（北西から）

土居尻１　Ⅰ検建３・４（南から）

土居尻１　Ⅰ検建６（南東から）

土居尻 1　Ⅰ検甕 9（南から）

土居尻 1　Ⅰ検甕 13（西から）

土居尻 1　Ⅰ検 P3（南から）

土居尻 1　Ⅰ検 P16（南から）

土居尻 1　Ⅱ検全景（東から）

写真図版 3

土居尻 1　Ⅱ検井戸 8（東から）

土居尻 1　Ⅱ検集石列 1（南から）

土居尻 1　Ⅱ検木樋 7（南から）

土居尻 1　Ⅱ検木樋 7 ジョイント（南から）

土居尻 1　Ⅲ検（西から）

土居尻 1　Ⅲ検建 302（南から）

土居尻 1　Ⅲ検溝 301（北から）

土居尻 1　Ⅲ検集石遺構（東から）

土居尻 1　Ⅲ検井戸 304（北から）

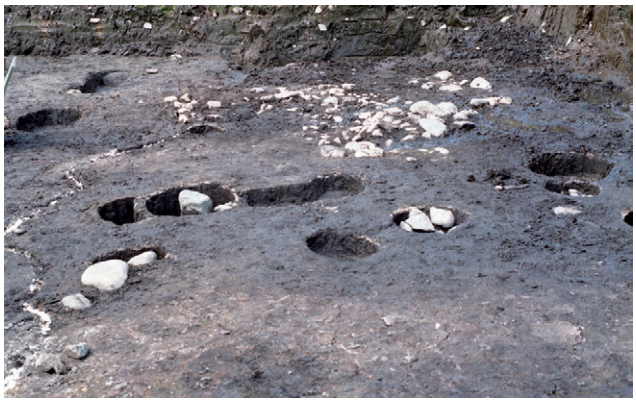
土居尻 1　Ⅲ検井戸 308（東から）

土居尻 1　Ⅲ検竹管 302（西から）

土居尻 1　Ⅲ検池状遺構（西から）

土居尻 1　Ⅲ検土 415（西から）

土居尻 1　Ⅳ検全景（西から）



土居尻 1　Ⅳ検集石 501（南から）

土居尻 1　Ⅳ検溝 503（西から）

土居尻 1　Ⅳ検井戸 501（北から）

土居尻 1　Ⅳ検方形石列（西から）

土居尻 1　Ⅳ検溝 502（南から）

土居尻 1　南区全景（東から）

土居尻 1　南区総堀跡の北側斜面 1（西から）

市営松本城大手門駐車場南棟 1 階店舗前に設置された総堀位置の平面表示

大名町 3　Ⅰ検全景（南から）

大名町 3　Ⅰ検溝 4・10（南東から）

大名町 3　Ⅰ検溝 4 礫検出（南から）

大名町 3　Ⅰ検溝 15（南から）

大名町 3　Ⅰ検溝 16（西から）

大名町 3　Ⅰ検溝 16 銅線検出（南から）

大名町 3　Ⅰ検焼土 15（南から）

大名町 3　Ⅰ検瓦集範囲（西から）

大名町 3　Ⅰ検水路 1（北から）

大名町 3　Ⅱ検（合成写真、上が北）

大名町 3　Ⅱ検土 123（南から）

大名町 3　Ⅱ検土 143（南から）

大名町 3　Ⅱ検土 161 犬骨検出（北から）

大名町 3　Ⅱ検土 169（南から）

大名町 3　Ⅱ検土 182（南から）

大名町 3　Ⅱ検土 191（東から）

大名町 3　Ⅱ検 194（北西から）

大名町 3　Ⅱ検土 196（東から）

大名町 3　Ⅱ検 197（南西から）

大名町 3　Ⅱ検土 198（南から）

大名町 3　Ⅱ検 201（東から）

大名町 3　Ⅱ検土 203（南から）

大名町３　Ⅲ検全景（合成写真、上が北）

大名町３　Ⅲ検建１（上が北）

大名町３　Ⅲ検溝７（東から）

大名町３　Ⅲ検溝９（東から）

大名町３　Ⅲ検溝 13（南東から）

土居尻 1　Ⅰ検出土　磁器

土居尻 1　Ⅰ検出土　陶器・土器

土居尻 1　Ⅱ検出土　土器

土居尻 1　Ⅱ検出土　陶器

土居尻 1　Ⅱ検出土　磁器

土居尻 1　Ⅲ検　溝 301 出土

土居尻 1　Ⅲ検　土 430 出土

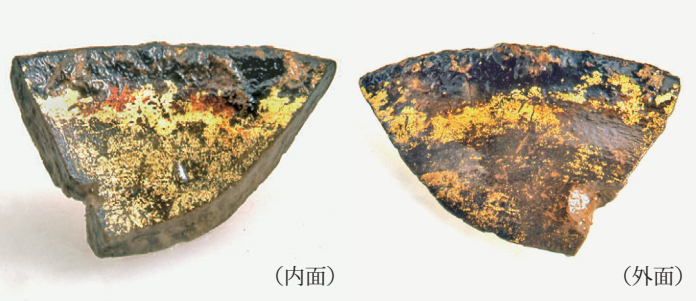
土居尻 1　Ⅲ検出土　磁器

土居尻 1　Ⅲ検出土　陶器

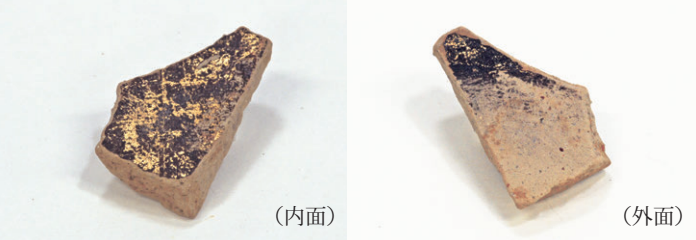
土居尻 1　Ⅲ検出土　土器

土居尻 1　Ⅳ検出土

土居尻 1　Ⅲ検　土 424 出土　中国産青花



土居尻 1　Ⅲ検出土　金箔かわらけ



【参考】松本城三の丸跡土居尻第 15 次出土　金箔かわらけ

土居尻 1　中国産青磁

大名町３　Ⅰ検　瓦集中出土

大名町３　Ⅰ検出土　土器

大名町３　Ⅰ検出土　磁器

大名町３　Ⅰ検出土　陶器

大名町３　Ⅱ検　溝７出土

大名町３　Ⅱ検　土 123 出土

大名町３　Ⅱ検　土 143 出土

大名町３　Ⅱ検出土　磁器

大名町３　Ⅱ検出土　陶器

大名町３　Ⅱ検出土　土器

大名町３　Ⅲ検出土

大名町３　土製品

工具・紡織具

服飾具

調理加工具・食事具

祭祀具

日用品

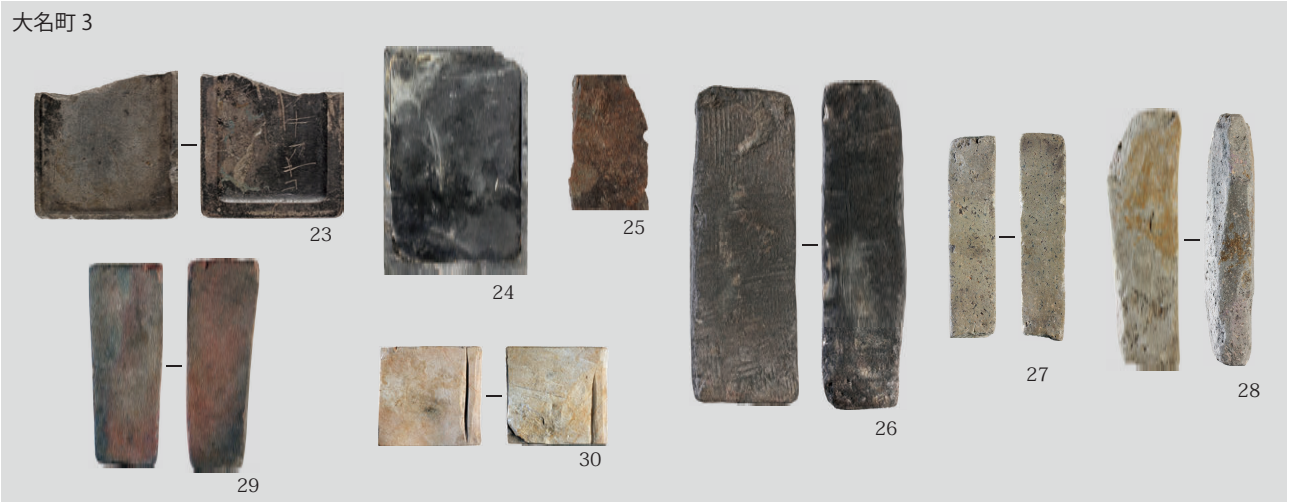
用途不明品

漆工用具

漆器

12
13
14
15
20
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53

木簡　赤外線写真（S=1/4）



石製品（1 ～ 21・23 ～ 30：S=1/4、22：S=1/5）

金属製品 1（縮尺は実測図と同じ）

金属製品 2（縮尺は実測図と同じ）

軒丸瓦

軒平瓦

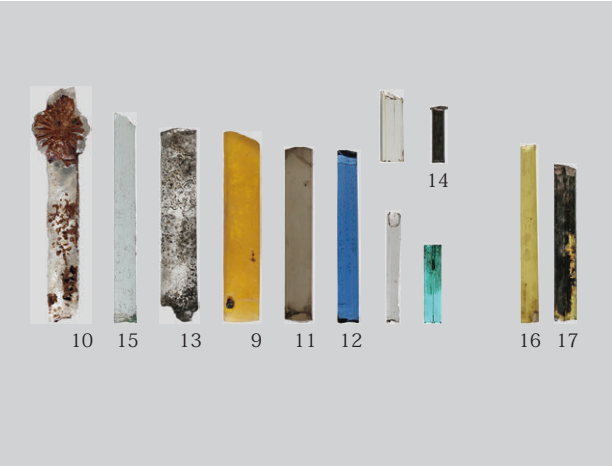
鬼瓦

刻印瓦

刻印部（拡大）

ガラス製品

合成樹脂製簪（S＝1/2）



ガラス製・べっこう製簪（S＝1/2）　※未実測品含む

骨・貝製品（S＝1/2）

写真 1　黄色漆による漆絵 (針描)

写真 2　銀蒔絵 (針描)

写真 3　漆絵 (針描)

写真 4　漆絵 (付描)

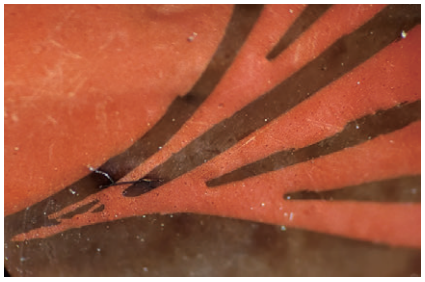


写真 5　漆絵 (描割)

写真 6　漆絵 + 消蒔絵

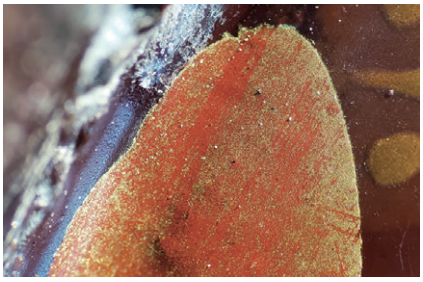


写真 7　消蒔絵 (蒔暈)

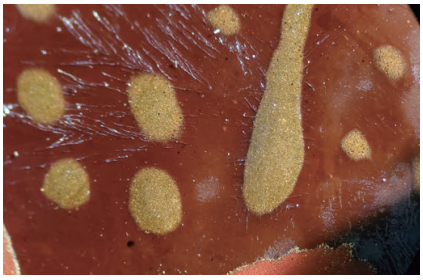


写真 8　退色した青漆

写真 9　丸に三葉葵紋 (側面)

写真 10　丸に三葉葵紋 (匙面)

写真 11　描割

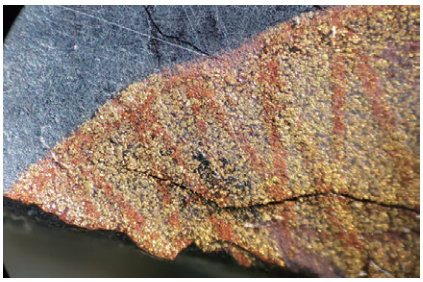


写真 12　付描 (側面)

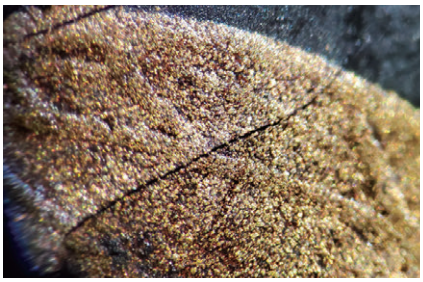


写真 13　付描 (匙面)

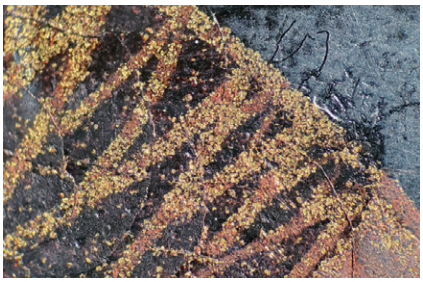


写真 14　絵梨地 + 付描

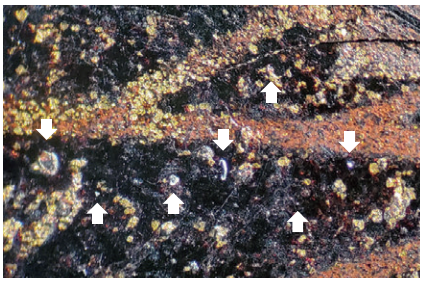


写真 15　平目粉

写真 16　東北系箔絵

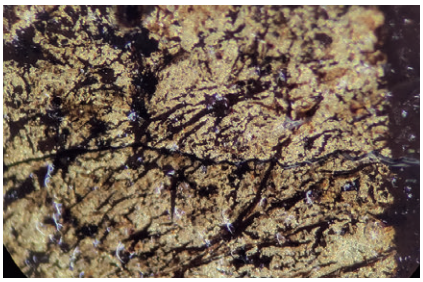


写真 17　東北系箔絵 (拡大)

写真 18　溜塗の皿

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　まつもとじょうさんのまるあと　どいじりだい１じ・だいみょうちょうだい３じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　松本城三の丸跡　土居尻第１次・大名町第３次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№249
編著者名	伊藤蔵之介、大西理美、髙山いず美、西村奈美、原田健司、壬生量子
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620　松本市丸の内３番７号　TEL 0263-34-3000（代） （記録・資料保管：松本市立考古博物館　松本市中山3738番地１　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	令和５年（2023）12月28日（令和５年度）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
松本城 三の丸跡 土居尻	長野県松本市 大手３丁目2-27、 ２丁目3-10	20202	494	36° 14′ 6″	137° 58′ 6″	1991.04.09 ～ 1991.07.19	1,365.5㎡ （のべ5,442㎡）	市営松本城大手門駐車場建設
松本城 三の丸跡 大名町	長野県松本市 大手３丁目61-3 ほか	20202	494	36° 14′ 7″	137° 58′ 9″	2019.04.15 ～ 2020.02.14	1,100㎡ （のべ3,300㎡）	松本市基幹博物館整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松本城 三の丸跡 土居尻	城館跡 （武家屋敷）	戦国 ～ 近代	建物跡、土坑、ピット、水道遺構、井戸跡、溝状遺構、集石遺構	土器（金箔かわらけ、灯明皿、内耳鍋ほか） 陶磁器（肥前産、瀬戸・美濃産、京・信楽産ほか） 木製品（下駄、荷札、木簡ほか） 漆器・漆工用具（椀、椀蓋ほか） 金属製品（煙管、銭貨ほか） 石製品（硯、砥石、茶臼、鋳型ほか） ガラス製品（簪、瓶ほか） その他材質製品（碁石、簪ほか） 自然遺物（獣骨、魚骨、貝、種子ほか）	希少遺物として、Ⅲ検で金箔かわらけ、Ⅳ検で蒔絵で描いた三葉葵紋の漆器がそれぞれ出土した。
松本城 三の丸跡 大名町	城館跡 （武家屋敷）	戦国 ～ 近代	溝状遺構49条、土坑389基、畝状遺構１基、水路跡１条、瓦集中部１カ所、焼土範囲12カ所		Ⅱ検で規模の大きい池状遺構（土123）が検出され、18世紀後～19世紀初の一括資料が得られた。

要約

土居尻は、三の丸の南西部に位置する。100～250石クラスの中級武士の屋敷地で、第１次調査地は土居尻の南端に位置する。４つの生活面を調査し、帰属時期はⅠ検が近代、Ⅱ検が18世紀後～幕末、Ⅲ検が16世紀後～18世紀、Ⅳ検が16世紀と17世紀前の２時期と考えられる。Ⅰ検では、建物跡５軒を検出し、石列や胴木を用いた布基礎と礎石建ちの２種類あることが確認できた。Ⅱ検は、水道遺構である竹管や木樋、井戸跡が多く検出された。Ⅲ検は、最も遺構密度が濃く、遺物も大量に出土した。特筆される遺物に金箔かわらけがある。Ⅳ検でも建物跡等の多くの遺構が出土しており、特筆される遺物として全国的にも希少な三葉葵紋の漆器が挙げられる。

大名町は、大手門を通過した先に位置する。250～500石クラスの上級武士の屋敷地で、第３次調査地は大名町の南端に位置する。３つの生活面を調査し、帰属時期はⅠ検が近代、Ⅱ検が近世、Ⅲ検が戦国時代末頃と考えられる。近世の生活面は１面のみしか認められず、隣地で実施された土居尻１次調査とは異なる土層堆積（造成経過）が確認された。Ⅰ検では、明治の大火の痕跡や、明治13年～昭和30年頃に存在した本願寺松本別院の本堂跡などを確認した。Ⅱ検は、武家屋敷に関わる建物や庭園、敷地境の遺構を確認した。Ⅲ検では、三の丸形成以前の区画溝や掘立柱建物の遺構を確認した。

松本市文化財調査報告　№249
長野県松本市
松本城三の丸跡　土居尻
－第１次発掘調査報告書－（遺構編・遺物編２）
松本城三の丸跡　大名町
－第３次発掘調査報告書－

発行日　令和５年12月28日
発行者　松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内３番７号
印　刷　電算印刷株式会社